市原市市東地区遺跡群

２００５

市東第一土地区画整理組合設立準備委員会
財団法人　市原市文化財センター

市原市市東（しとう）地区遺跡群

２００５

市東第一土地区画整理組合設立準備委員会
財団法人　市原市文化財センター

序　　文

千葉県市原市には，東京湾の豊かな漁場，村田川・養老川がもたらした肥沃な平野，そして緑豊かな森林という恵まれた環境があり，数千年の昔からたくさんの人々が生活してきました。おびただしい数の遺跡や，すばらしい出土品の数々が，そのことを雄弁に物語っています。

当市の新しい街づくりは，昭和40年代から活発化しました。とくに北部地域では，ちはら台ニュータウン，国分寺台地区をはじめとした大規模な住宅地整備が行われ，首都東京への交通網整備も進められました。

市東第一地区では，この地域に接する場所として，新しい交流拠点，新産業機能を備え，豊かな自然環境と共生した街づくりを目的として土地区画整理事業が計画されました。それに伴い，平成６年度から平成９年度まで，埋蔵文化財の保全を図るための確認調査を実施しましたが，社会情勢の変化等により，平成14年には事業の休止が，また，平成17年度には廃止が決定されるに至りました。

このたび事業の廃止にあたり，市原市市東第一土地区画整理組合設立準備委員会より格別なるご理解をいただき，確認調査の成果を公表できることとなりました。結果として地下に残された埋蔵文化財の価値を知るための資料として，調査の成果を公表できますことはまことに喜ばしいことです。本書が市東地区の歴史を知るための手がかりとして，活用されていくことを願っています。

さいごに，発掘から報告に至るまで，市原市市東第一土地区画整理組合設立準備委員会ならびに市東地区の住民の皆様，関係各位からいただいたご理解とご協力に対し，心から感謝を申し上げます。

平成17年10月

財団法人　市原市文化財センター
理 事 長　藤　　田　　国　　昭

例　　言

1．本書は，千葉県市原市市東第一土地区画整理事業地内に所在した13事業11遺跡の発掘調査報告書である。「セ」番号は当センターの調査コードである。多くの遺跡を所収しているため，本文や図表等にも記載している。なお，所在地，千葉県遺跡コードは本文中に記載した。

1．	東国吉大門（ヒガシクニヨシダイモン）	セ190・平成６年度
2．	東国吉寺谷（ヒガシクヨシテラヤツ）	セ196・平成６年度
3．	高倉ママダ上（タカクラママダカミ）	セ193・平成６年度
4．	東国吉下台（ヒガシクニヨシシモダイ）	セ221・平成８年度
5．	中野寺沢台（ナカノテラサワダイ）	セ206・平成７年度
6．	中野向山（ナカノムカイヤマ）	セ226・平成８年度
7．	永吉鬼子母神（ナガヨシキシボジン）	セ203・平成７年度
8．	永吉花ノ台（ナガヨシハナノダイ）	セ227・平成８年度
9．	永吉金原（ナガヨシカンハラ）	セ216・平成７年度，セ247・平成９年度
10．	永吉松ノ木台（ナガヨシマツノキダイ）	セ214・平成７年度，セ249・平成９年度
11．	中野鹿ノ原遺跡（ナカノカノハラ）	セ247・平成９年度

2．発掘調査は，市原市市東第一土地区画整理事業に伴い，同事業組合設立準備委員会の委託を受けて，千葉県教育委員会，市原市教育委員会の指導のもと，財団法人市原市文化財センターが実施した。調査は，平成６年度から平成９年度にわたって断続的に実施した。

3．本調査範囲を確定する目的で確認調査を実施したが，区画整理事業の休止に伴い，本調査は実施していない。また，予定した確認調査も終えていない。その経緯は第１章に記した。調査の性格から，遺構は全掘しておらず，充分な記録も取っていない。個々の時期・性格の決定・推定は本調査を経て行うべきと考え，基本的に行わなかった。

4．整理・刊行事業は平成17年４月から，当センターで実施した。

5．本書の執筆・編集は近藤　敏と西野雅人が共同で行ったが，奈良・平安時代遺物について小川浩一・櫻井敦史，中世遺物について櫻井の協力を得た。また，石材鑑定について上本進二氏（神奈川災害史研究会），縄文時代遺物について渡辺　新氏のご指導・ご協力を得た。

7．本書で示す北は，平面直角国家座標の関東第IX系座標北であり，但し書きがないものは，全て旧座標系(関東第IX系)で表記している。

8．本書で使用した地形図・グリッド配置図は，平成４年に組合設立準備委員会が作成した500分の１現況図（47図画・46枚）と，当センターで作成した測量成果品によっている。地図の出典と縮尺は，掲載箇所に明示した。

9．大グリッドの区画は，事業地内の統一配列による。しかし，小グリッドやトレンチ番号は各遺跡で異なっており，配置図に示した。なお，グリッド，トレンチの内側の小さな正方形は下層確認グリッドである。

10．本書に掲載した遺物の縮尺は個々に示したが，原則として完形縄文土器1/4，土器拓本1/3，小型石器原寸，石器1/2の縮尺にしている。

11．本書に収録した出土遺物および記録類は，市原市教育委員会市原市埋蔵文化財調査センターで収蔵・保管している。

本文目次

序文
例言
第１章　はじめに……1
　第１節　確認調査に至る経緯……1
　第２節　確認調査の位置と歴史的環境……3
　第３節　確認調査の方法……7
第２章　確認調査の成果……8
　第１節　東国吉大門遺跡（セ190）……8
　第２節　東国吉寺谷遺跡（セ196）……8
　第３節　高倉ママダ上遺跡（セ193）……14
　第４節　東国吉下台遺跡（セ221）……18
　第５節　中野寺沢台遺跡（セ206）……18
　第６節　中野向山遺跡（セ226）……27
　第７節　永吉鬼子母神遺跡（セ203）……27
　第８節　永吉花ノ台遺跡（セ227）……30
　第９節　永吉金原遺跡１次（セ216）……33
　第10節　永吉松ノ木台遺跡（セ214・249）……33
　第11節　永吉金原遺跡２次（セ248）……40
　第12節　中野鹿ノ原遺跡（セ247）……42
第３章　まとめ……43
　第１節　旧石器時代……43
　第２節　縄文時代……45
　第３節　弥生時代から中世……45
引用参考文献……45
付表遺物観察表……47
報告書抄録……巻末

挿図目次

第１図　市東第一土地区画整理区域内確認調査遺跡位置図……2
第２図　市東第一地区歴史地理図　……4
第３図　市東第一地区調査遺跡関連図　……6
第４図　東国吉地区対象遺跡周辺地形図……9
第５図　東国吉大門遺跡（セ190）グリッド配置図 ……10
第６図　東国吉寺谷遺跡（セ196）グリッド配置図 ……11
第７図　東国吉寺谷遺跡（セ196）出土遺物（１）　……12
第８図　東国吉寺谷遺跡（セ196）出土遺物（２）　……13
第９図　高倉・東国吉地区対象遺跡周辺地形図　……15
第10図　高倉ママダ上遺跡（セ193）グリッド配置図 ……16
第11図　高倉ママダ上遺跡（セ193）出土遺物 ……17
第12図　東国吉下台遺跡（セ221）グリッド配置図 ……19
第13図　東国吉下台遺跡（セ221）出土遺物 ……20
第14図　中野地区対象遺跡周辺地形図……21
第15図　中野寺沢台遺跡（セ206）グリッド配置図 ……23
第16図　中野寺沢台遺跡（セ206）出土遺物（１）　……24
第17図　中野寺沢台遺跡（セ206）出土遺物（２）　……25
第18図　中野向山遺跡（セ226）グリッド配置図 ……26
第19図　中野向山遺跡（セ226）出土遺物 ……27
第20図　永吉地区対象遺跡周辺地形図……28
第21図　永吉鬼子母神遺跡（セ203）グリッド配置図 ……29
第22図　永吉鬼子母神遺跡（セ203）出土遺物 ……30
第23図　永吉花ノ台遺跡（セ227）グリッド配置図 ……31
第24図　永吉花ノ台遺跡（セ227）出土遺物 ……32
第25図　永吉金原遺跡１次（セ216）グリッド配置図 ……34
第26図　永吉金原遺跡１次（セ216）出土遺物（１）　……35
第27図　永吉金原遺跡１次（セ216）出土遺物（２）　……36
第28図　永吉松ノ木台遺跡（セ214・249）グリッド配置図（１・北側）……37
第29図　永吉松ノ木台遺跡（セ214・249）グリッド配置図（２・南側）……38
第30図　永吉松ノ木台遺跡１次（セ214）出土遺物 ……39
第31図　永吉松ノ木台遺跡２次（セ249）出土遺物 ……40
第32図　永吉金原遺跡２次（セ248）・中野鹿ノ原遺跡（セ247）グリッド配置図……41
第33図　永吉金原遺跡２次（セ248）出土遺物 ……42
第34図　市東第一土地区画整理事業内土層と層序……44

表 目 次

第１表　調査遺跡……１
第２表　石器……47
第３表　縄文土器……48
第４表　縄文土器集計……49
第５表　弥生土器・土師器・須恵器……50
第６表　中世陶磁器類……51
第７表　中世陶磁器類集計……52
第８表　人骨・動物骨……52
第９表　土製品・石製品……52
第10表　銅銭……52

図版目次

図版１　事業対象地域北半部航空写真
図版２　事業対象地域東半部航空写真
図版３　東国吉大門遺跡（セ190）
図版４　東国吉寺谷遺跡（セ196）
図版５　高倉ママダ上遺跡（セ193）
図版６　東国吉下台遺跡（セ221）
図版７　中野寺沢台遺跡（セ206）
図版８　中野寺沢台遺跡（セ206）
図版９　中野向山遺跡（セ226）
図版10　永吉鬼子母神遺跡（セ203）
図版11　永吉花ノ台遺跡（セ227）
図版12　永吉金原遺跡１次（セ216）
図版13　永吉松ノ木台遺跡１次（セ214）
図版14　永吉松ノ木台遺跡１次（セ214）・２次（セ249）
図版15　永吉金原遺跡２次（セ248）
図版16　中野鹿ノ原遺跡（セ247）
図版17　東国吉寺谷遺跡（セ196）出土遺物
図版18　高倉ママダ上遺跡（セ193）出土遺物
図版19　東国吉下台遺跡（セ221）出土遺物
図版20　中野寺沢台遺跡（セ206）出土遺物
図版21　中野寺沢台遺跡（セ206）・中野向山遺跡（セ226）・永吉金原遺跡２次（セ248）
　　永吉鬼子母神遺跡（セ203）出土遺物
図版22　永吉花ノ台遺跡（セ227）出土遺物
図版23　永吉金原遺跡１次（セ216）・永吉松ノ木台遺跡２次（セ249）出土遺物
図版24　永吉松ノ木台遺跡１次（セ214）出土遺物

第１章　はじめに

第１節　調査の経緯

発掘調査は，市原市市東第一地区土地区画整理事業に先立って実施されたものである。工事にさきがけ，東急不動産株式会社は，千葉県教育委員会及び市原市教育委員会に，事業地内の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて照会文書を提出した。これを受けて，土地区画整理組合設立準備委員会，千葉県教育委員会，市原市教育委員会の三者により事前協議を重ねた結果，所在する埋蔵文化財については，記録保存の措置をとることとなった。発掘事業の委託を受けた当センターでは，平成６年度より農地部分について確認調査を開始した。非農地部分については，環境アセスメントの結果を受けて事業計画が策定された後に，順次調査を開始する計画であった。しかし，事業計画が見直されることとなり，平成９年度の確認調査を最後に発掘作業は休止した。平成12年９月，都市計画決定で事業予定地が市街化区域に編入されたものの，平成14年９月に事業の休止が決定した。現在，市街化区域解除等の手続きが進行している。

整理・報告事業については，協議の上，確認調査の成果を報告することとなり，平成17年度に当センターにおいて作業を実施した。事業の中止により，記録保存の目的は一部しか果たすことができないが，遺跡は保存され，その内容が一部とはいえ明らかにすることができた。整理・報告事業の実現は，土地区画整理組合設立準備委員会の皆様のご理解の賜物である。また，確認調査の実施については事業地周辺の市民の皆様にご理解・ご協力を得ることができた。改めて感謝申し上げたい。

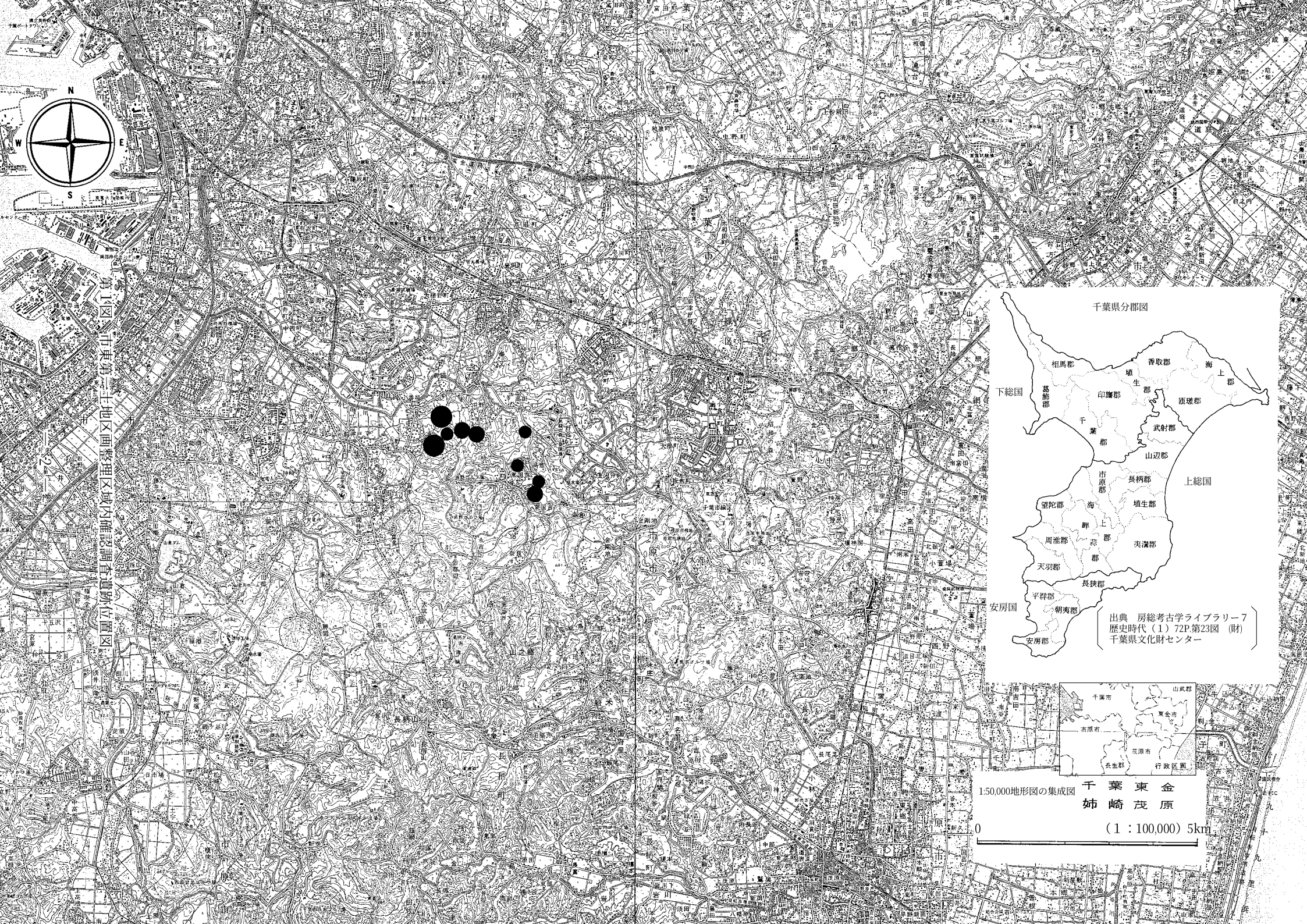
年度別の調査遺跡，調査期間，担当者は以下のとおり。

平成６年度

東国吉大門遺跡（セ190）	平成６年10月17日～12月９日	半田堅三
高倉ママダ上遺跡（セ193）	平成６年12月７日～平成７年１月27日	半田堅三
東国吉寺谷遺跡（セ196）	平成７年２月13日～３月27日	小川浩一

第１表　調査遺跡　　◎は出土遺物の多い時期

№	セ№	遺　跡　名	年　度	対象面積	上層確認	下層確認	旧石器	縄文早期	縄文前期	縄文中期	弥生	古墳	奈良・平安	中世	水　系
1	セ190	東国吉大門	平成６	6,000	600	240	○	○		○					瀬又川
2	セ196	東国吉寺谷	平成６	8,830	883	83	○	◎		◎			○	○	
3	セ193	高倉ママダ上	平成６	4,000	400			○	○	○		◎	◎	○	
4	セ221	東国吉下台	平成８	5,650	565	56			○	○		○		○	
5	セ206	中野寺沢台	平成７	19,473	1,947	194				◎			○	◎	村田川左岸
6	セ226	中野向山	平成８	15,350	1,535	152		◎							
7	セ203	永吉鬼子母神	平成７	4,955	496	50						○	○		
8	セ227	永吉花ノ台	平成８	23,450	2,345	320	○				○	○	○	○	
9a	セ216	永吉金原1次	平成７	8,624	862	86	◎			○			○		
10	セ214	永吉松ノ木台1次	平成７	24,690	2,469	246	○	○		○		○	○		
	セ249	永吉松ノ木台2次	平成９	5,315	517	52				○			○	○	
9b	セ248	永吉金原2次	平成９	3,900	390	39		○		○		○			
11	セ247	中野鹿ノ原	平成９	3,300	330	32									


第1図　市東第三土地区画整理区域内確認調査遺跡位置図
千葉県分郡図
下総国
上総国
安房国
相馬郡
葛飾郡
印旛郡
香取郡
埴生郡
匝瑳郡
海上郡
千葉郡
武射郡
山辺郡
市原郡
長柄郡
望陀郡
海上郡
埴生郡
夷灘郡
周淮郡
天羽郡
長狭郡
平群郡
朝夷郡
安房郡
出典　房総考古学ライブラリー7
歴史時代（1）72P.第23図（財）
千葉県文化財センター
1:50,000地形図の集成図
千葉東金
姉崎茂原
0
（1：100,000）5km

平成７年度

永吉鬼子母神遺跡（セ203）	平成７年５月26日～６月30日	小川浩一
中野寺沢台遺跡（セ206）	平成７年７月17日～９月25日	小川浩一
永吉松ノ木台遺跡（セ214）	平成７年12月１日～平成８年３月25日	小川浩一
永吉金原遺跡（セ216）	平成８年２月１日～３月22日	小出紳夫

平成８年度

東国吉下台遺跡（セ221）	平成８年４月10日～５月10日	田所真
中野向山遺跡（セ226）	平成８年４月30日～７月５日	高橋康男・北見一弘
永吉花ノ台遺跡（セ227）	平成８年６月１日～９月30日	櫻井敦史

平成９年度

中野鹿ノ原遺跡（セ247）	平成９年５月23日～６月９日	北見一弘
永吉金原遺跡（セ248）	平成９年６月12日～７月２日	北見一弘
永吉松ノ木台遺跡（セ249）	平成９年７月11日～８月７日	北見一弘

第２節　調査遺跡の概要と歴史環境

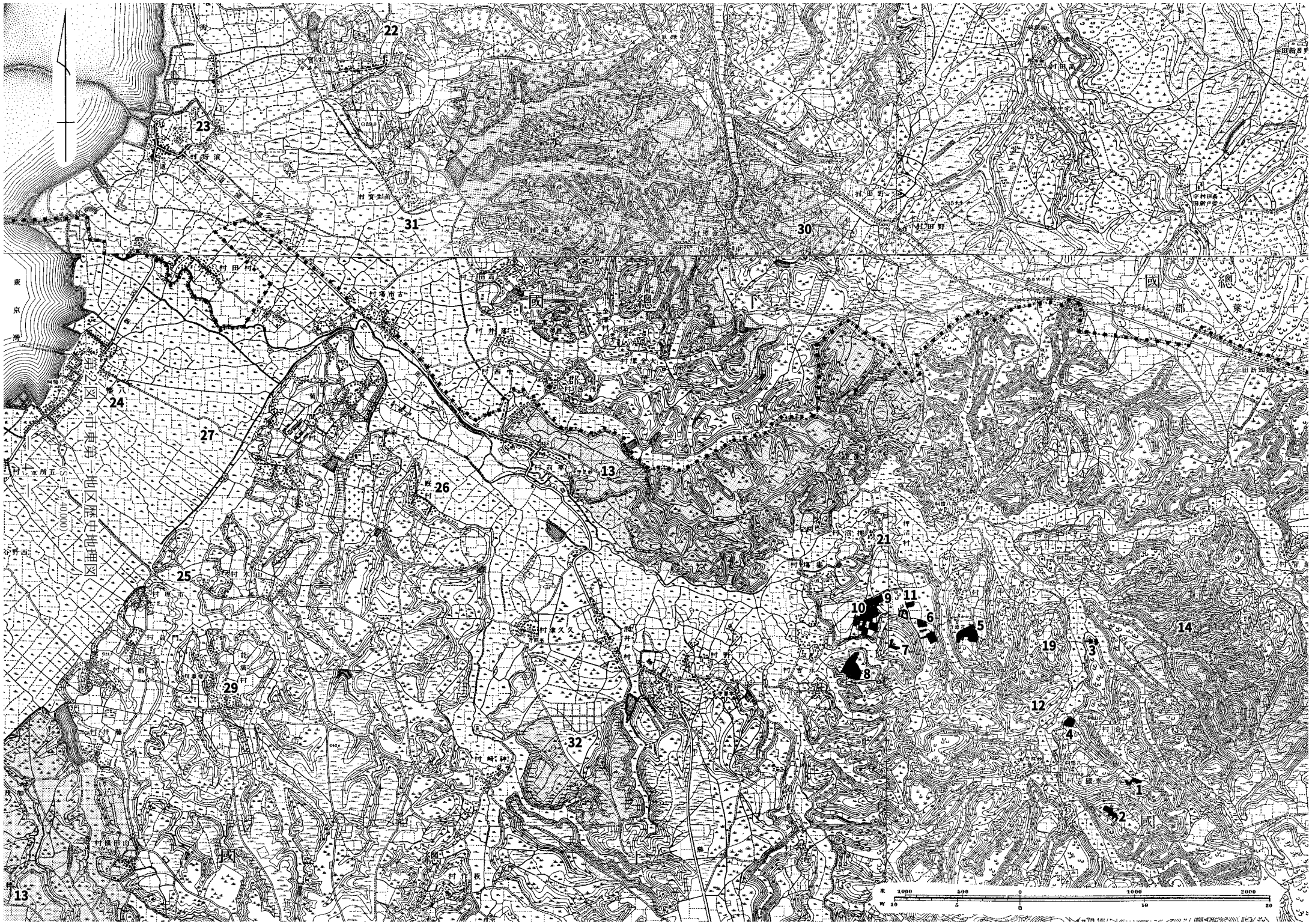
１．調査遺跡の位置と概要

第１図は房総半島中央部の一番くびれた部分にあたる。黒丸で示したのが，確認調査を実施した遺跡である。事業地は東西約3.5km，南北約1km，約303haの面積を有し，その範囲に存在する15か所の遺跡の面積は合計で78haである。事業地は，市原市北部の千葉市との境界を流れて東京湾に注ぐ村田川の中流域に位置する。北側を村田川本流が，南西側を支川村田川が流れる標高50m～80mの台地上に立地する。

確認調査を実施した11遺跡（第１表）は，事業地を南北に分断するように流下する村田川の支流瀬又川によって，２つのまとまりに区分できる（第２・３図）。事業地の西側部分は村田川本流左岸域にあたり，もっとも東側の細長い台地上に中野寺沢台遺跡（５）が，支谷を挟んで西側の広大な台地上には，中野向山遺跡（６），中野鹿ノ原遺跡（11），永吉金原遺跡（９a・９b），永吉松ノ木台遺跡（10）が存在する。その南側の支谷に開削されて複雑な地形をした台地上には永吉鬼子母神遺跡（７）と，永吉花ノ台遺跡（８）が存在する。一方，事業地東側は，瀬又川流域にあたり，支谷の奥に向かって高倉ママダ上遺跡（３），東国吉下台遺跡（４），東国吉大門遺跡（１），東国吉寺谷（２）が存在する。第1表には，今回の確認調査の成果をもとにして，おもな時期を示した。全体として，旧石器時代，縄文早期～中期，古墳時代，奈良・平安時代，中世の資料が多い。

２．周辺の遺跡と環境

第２図にみえる村田川を挟んだ両岸は，縄文時代から古墳時代の大規模集落，古代上総国と下総国の境界（黒の列点）となり，上総国側には国府・国分寺が置かれるなど重要な遺跡が集中する。北岸では千葉東南部地区（30），千原台地区（13），南岸では国分寺台地区（28），潤井戸地区（28）など大規模な都市計画に伴う発掘調査が行われたのをはじめとして，重要な発見や資料は枚挙に暇がない。


第2図 市東第一地区歴史地理図
(S=1/40,000)
東京湾
國
總
下
郡
葉
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
19
21
22
23
24
25
26
27
29
30
31
32

事業対象遺跡　　（第２図・第３図凡例）

1	東国吉大門	セ190	7	永吉鬼子母神	セ203
2	東国吉寺谷	セ196	8	永吉花ノ台	セ227
3	高倉ママダ上	セ193	9a	永吉金原1次	セ216
4	東国吉下台	セ221	9b	永吉金原2次	セ248
5	中野寺沢台	セ206	10	永吉松ノ木台	セ214・249
6	中野向山	セ226	11	中野鹿ノ原	セ247

周辺遺跡

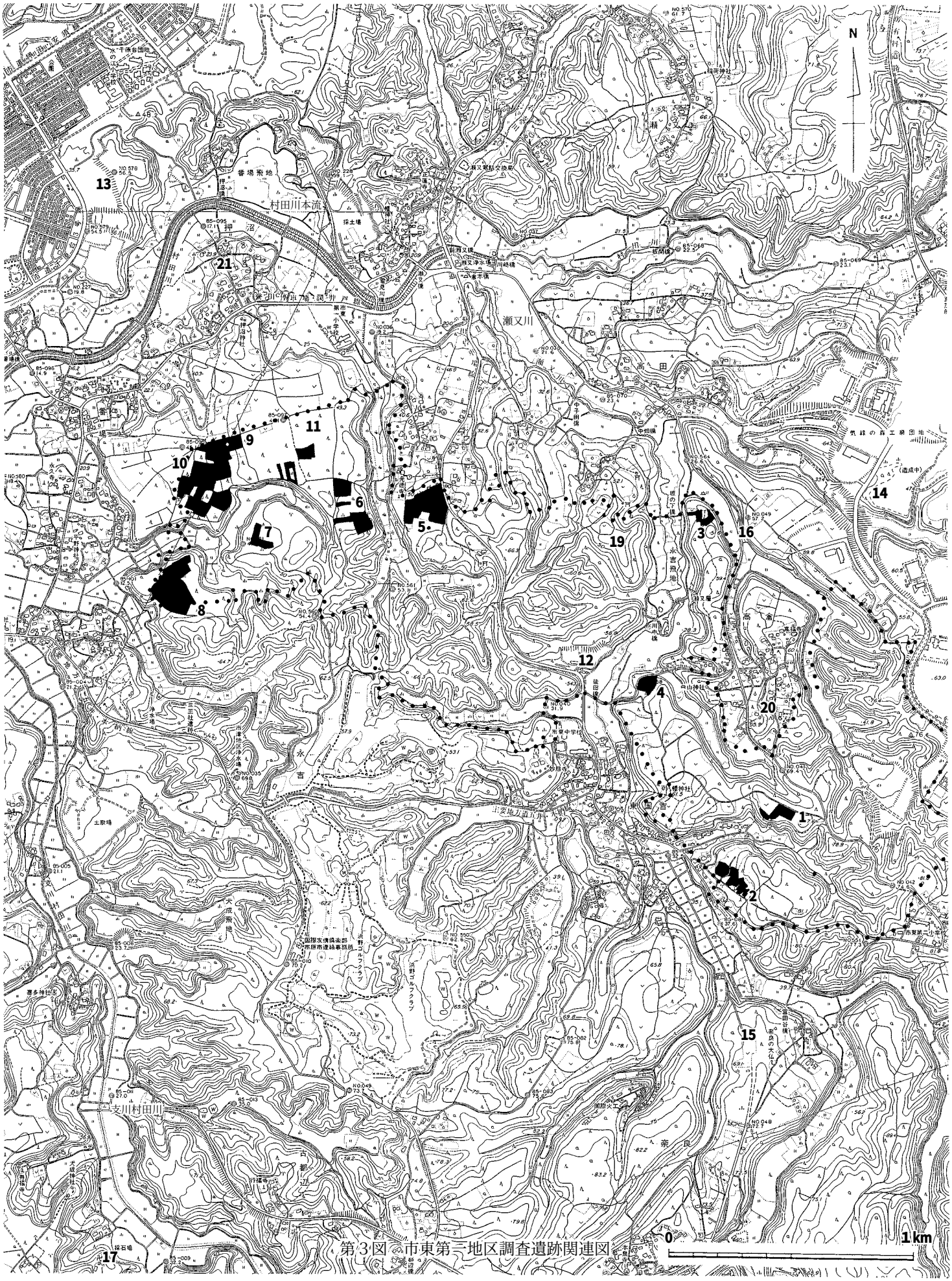
12	川中遺跡	（田中清美1987）	23	浜野城跡	（簗瀬裕一2000）
13	千原台ニュータウン	（小久貫隆史ほか1980）	24	御墓堂遺跡	（櫻井敦史2005）
14	土気緑の森工業団地	（西口徹1994）	25	白船城跡	（小高春雄1999）
15	奈良大仏台遺跡	（大村直1992）	26	大廐館跡	（小高春雄1999）
16	下片岡須恵器窯跡	（半澤幹雄1990）	27	市原条里制遺跡	（小久貫隆史1999）
17	犬成城跡	（小高春雄1999）	28	国分寺台遺跡群	（宮本敬一1999）
18	中野城跡	（小高春雄1999）	29	能満城跡	（小高春雄1999）
19	高田城跡	（小高春雄1999）	30	千葉東南部ニューウタウン	（沼澤豊1975）
20	高倉内畑遺跡		31	浜野川神門遺跡	（寺門義範ほか1991）
21	押沼城跡	（小高春雄1999）	32	潤井戸地区	（猪俣昭喜2003）
22	生実城跡	（簗瀬裕一2003）	33	高倉溝谷遺跡	（高橋1994）

第２図：第一軍管地方迅速速図２万分の１（明治15・16年測図。佐倉近傍－中野村・土気町・千葉町・八幡町）を結合し４万分の１に縮尺。第３図：市原市地形図１万分の１（Ｈ７測図，２・３結合図）を２万分の１縮尺。

事業地内の遺跡群（１～11）が位置する村田川中流域から奥の地域は，遺跡自体は多いが，各時代の集落分布等の中心から離れ，遺構や遺物の出土量はかなり少ない。標高は南東に行くに従って緩やかに高くなり，村田川最上流部の千葉市土気南遺跡群では90mを超える。同遺跡群の鐘つき堂遺跡（村田1996）から西側を望むと，今回の事業地を経て市原市役所庁舎を目視することができた。さらに谷奥側の千葉市昭和の森遺跡群（塚原・飛田2004）は標高が約100mあり，東には太平洋を望むことができる。この付近は，古鬼怒湾水系（鹿島川水系）・東京湾水系（村田川水系）・九十九里水系（南白亀川水系）という下総台地の三大水系の分水嶺がひとつに結節する，特別な場所ということができる。

旧石器時代の石器ブロック群，縄文早期前葉撚糸文期の遺跡，縄文時代の陥し穴など，狩猟活動が活発な時期の遺跡・遺物が集中しているのは，分水嶺が主要な交通路となり，三大水系の分水界の分岐点という特別な場所が，交通網の結節点として重要であったことを物語る事実といえるだろう。さらに，土気南遺跡群・弥三郎第１遺跡（小川・横田1993），辰ヶ台貝塚（川戸1970，寺門他1989）など，中・下流域では類例の少ない縄文前期の集落が存在すること，土気緑の森工業団地（14，西口徹1994）などで縄文中期・加曽利EⅡ式からEⅢ式にかけての遺跡が多いことなどが特徴である。今回報告する遺跡群は，やや分水嶺から離れた地区であるが，旧石器時代，縄文早期前葉，前期，中期中葉～後葉の遺物が多い点で，共通の傾向を示している。

事業地の周辺（第３図）のおもな遺跡をあげると，瀬又川水系に縄文中期中葉の小規模集落を検出した奈良大仏台遺跡（15，大村1992），下片岡須恵器窯跡（16，半澤1990），前述の土気緑の森工業団地遺跡群（14，西口1994）などが存在する。これらは，確認調査の成果を検討する上で重要であり，まとめの章において再度取り上げることとなる。



第3図　市東第三地区調査遺跡関連図

(S=1：20,000)

第３節　確認調査の方法

確認調査は，調査対象面積に対し上層は10%，下層は１％を基本として実施した。遺構・遺物の検出状況によって適宜拡張や省略を行った部分もある。上層調査では，ソフトローム上面を確認面とし，縄文時代以降の遺構・遺物の検出を行った。下層調査では立川ローム第Ⅱ黒色帯付近まで掘り下げ，ローム層中の遺物確認を行った。必要な範囲については本調査を実施することを前提にしていたものであり，確認調査の目的は本調査範囲を確定するためのデータを得ることにあった。

調査は，地権者の承諾や許認可等の事務が整った地区から順次行った。測量は，関東第Ⅸ系平面直角座標（旧座標系）による基準点測量の成果をもとに行った。表土除去はバックホーを用いて行い，手作業によって確認面を精査して遺構の有無を観察した。検出した遺構は，本調査の対象となる時期のものかが不明瞭な場合など，一部について半裁やサブトレンチの設定を行った。遺物については，原位置を保つことの困難な遺物を中心に記録・採集を行った。下層確認については，上層遺構が検出されなかった部分に２m×２mのグリッドを設定し，クラムシェルにより掘削を行った。一回の掘削深度は10～20cmとし，深度ごとに掘削残土中の遺物の有無を確認した。調査終了後は埋め戻しを行い，現在は農地に復元されている。

各遺跡の確認調査範囲は，五千分の一の地形図に網点で示し，確認グリッド（ないしトレンチ）の配置は千分の一の地形図に示した。検出した遺構の輪郭も図示したが，確認調査のみで終了しているため，個々の遺構について番号を付すことや，時期・種類を表現することなどはあえて行わなかった。今回の確認調査は，本調査の範囲を決定するために，必要最低限の作業を実施したものである。今後本格的な調査も可能な状況で，少ない情報から遺構の時期・性格等を推定することは避けるべきと判断したものである。

第２章　確認調査の成果

確認調査を実施した11遺跡の成果について，遺跡ごとに記述を行う。先に述べた２つのまとまりに従って，まず第１節～第４節で瀬又川流域の遺跡について記載する。次いで，第５節以降では村田川左岸の遺跡について記載するが，永吉金原遺跡の１次・２次調査の地点はかなり離れており，それぞれ別遺跡の調査区と隣接しているため，第９節と第11節に分けて記載した。

第１節　東国吉大門遺跡（セ190）

（１）概要（第４・５図，図版３）

東国吉大門遺跡（県・市遺跡コード：886）は，市原市東国吉字大門に所在する。第４図１の網点部分が6,000㎡の調査対象範囲である。遺跡の位置は，瀬又川の２つの支谷に挟まれた舌状台地の基部にあたる。標高は73m前後で，南側低地との比高差は30m以上とかなり急峻な地形となっている。南西方向300m付近には，谷を隔てて東国吉寺谷遺跡（２）がある。また北方向には高倉上人塚（黒四角印）が存在する。その北西には縄文早期・撚糸文土器と，中世カワラケが出土した高倉溝谷遺跡（33，高橋1994）が存在する。

確認調査は台地鞍部中央に，東西に長いトレンチと南北に短いグリッドを設定し，西側は緩斜面部分までトレンチを設定した（第５図）。遺構確認面までの深さは，鞍部で30～40cm，北側の道寄りで70～80cmであった。なお，調査対象外であるが，Ｅ７区で昭和前半期の炭窯を検出した。

（２）遺構・遺物（図版３）

保管上の問題で遺物を図示できないが，調査者の所見と年報によれば，第５図の星印地点で旧石器時代の剥片・砕片が出土し，上層からは縄文早期と中期の土器が出土したらしい。図版３下段左は，台地鞍部中央のＥ８区で検出した土坑で，陥し穴の可能性がある。また，Ｅ６・Ｅ８区付近で炉を有する掘りこみを検出した。竪穴住居とみられるが時期は不明である。

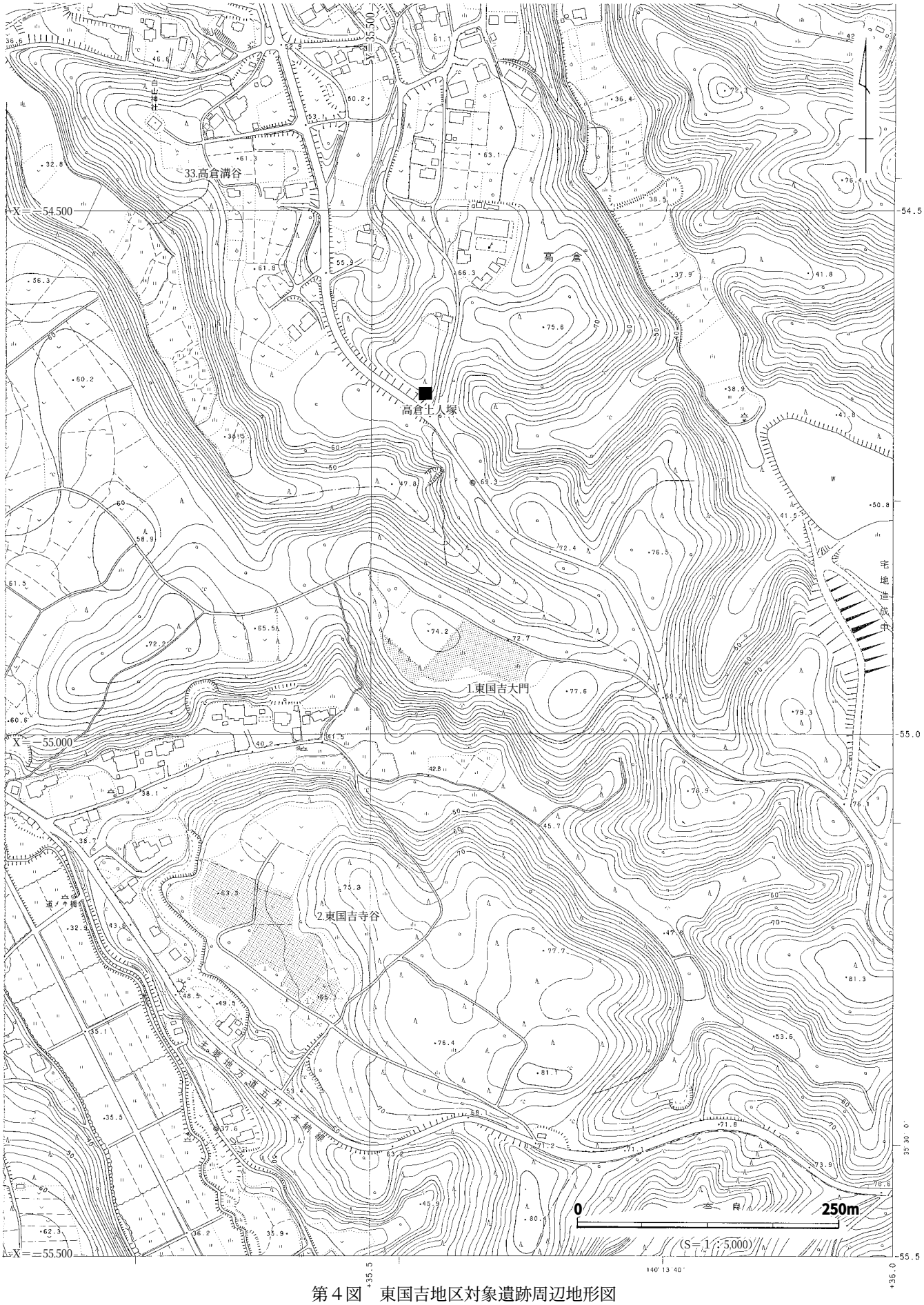
第２節　東国吉寺谷遺跡（セ196）

（１）概要（第４・６図，図版４）

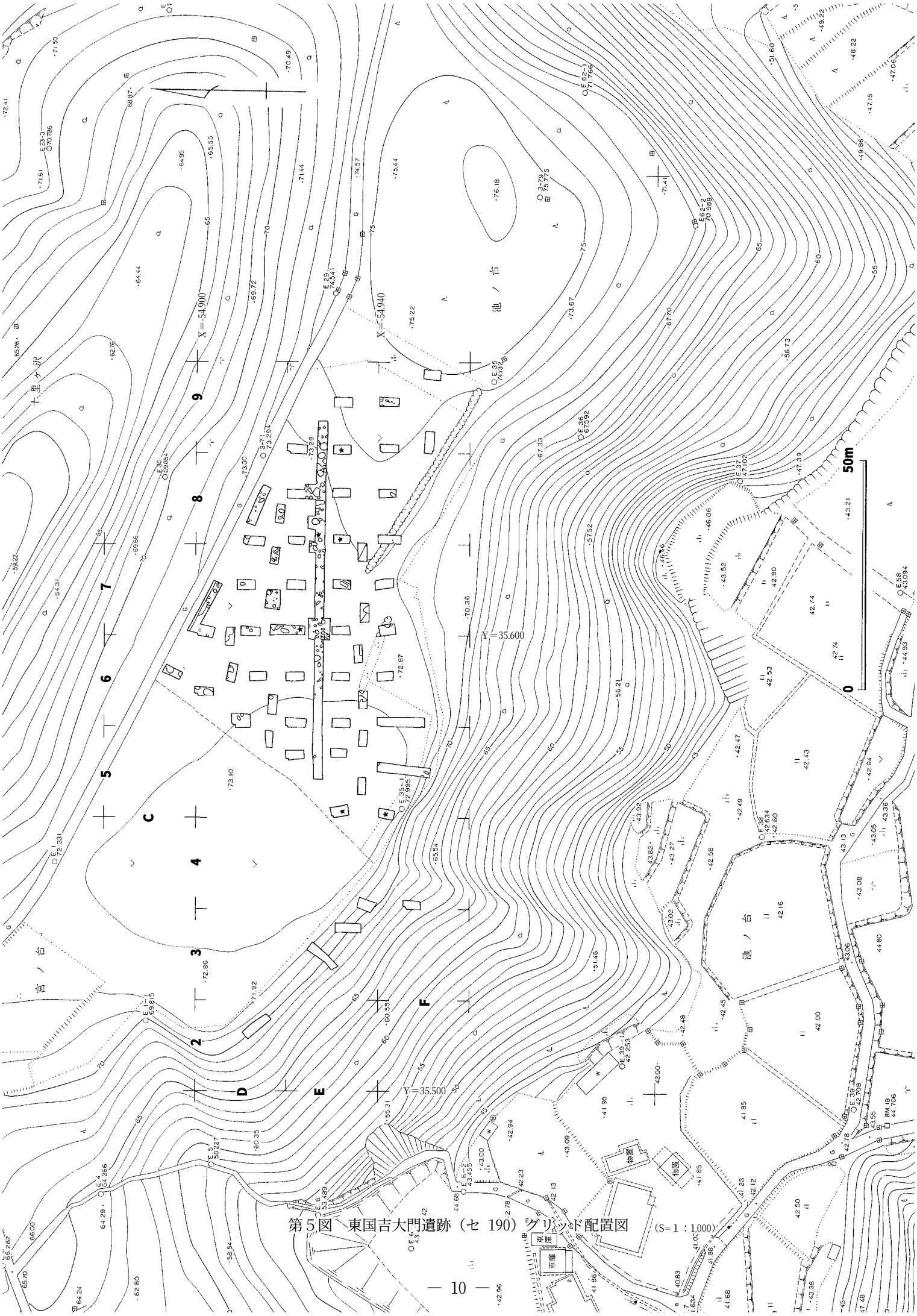
東国吉寺谷遺跡（県・市遺跡コード：887）は，市原市東国吉字寺谷に所在する。第４図２の網点部分が8,330㎡の調査対象範囲である。台地先端と西側は民家によって削られ，台地南側には瀬又川右岸を台地沿いに県道五井本納線が通っている。台地東側の標高80mの山林から，北西に向かって低くなり，調査区付近は標高65m～62mの畑地となっている。遺構確認面までの深さは50cm～40cmである。畑地と山林間には一部削平された区域が存在する。

（２）遺構・遺物（第６～８図，図版４・17）

Ｂ２・Ｂ３区，Ｅ５区で円形の掘り込みが検出されている。出土遺物からみても，中期加曽利EⅡ～EⅢ式期の集落が存在した可能性がある。図版４のＥ６区bは形状から陥し穴か。Ａ３・Ｂ３区・Ｅ５区では竪穴住居跡状の掘り込みがみえる。Ｇ７区では土坑を検出した。Ｃ４区cのピット群は掘立柱建物跡の可能性がある。また，Ｇ８区a（第６図星印）で旧石器剥片が１点出土している。出土層位はソフトローム上面から120～140cmと記録されているので，立川ローム層第Ⅱ黒色帯相当と考えられる。



第４図　東国吉地区対象遺跡周辺地形図

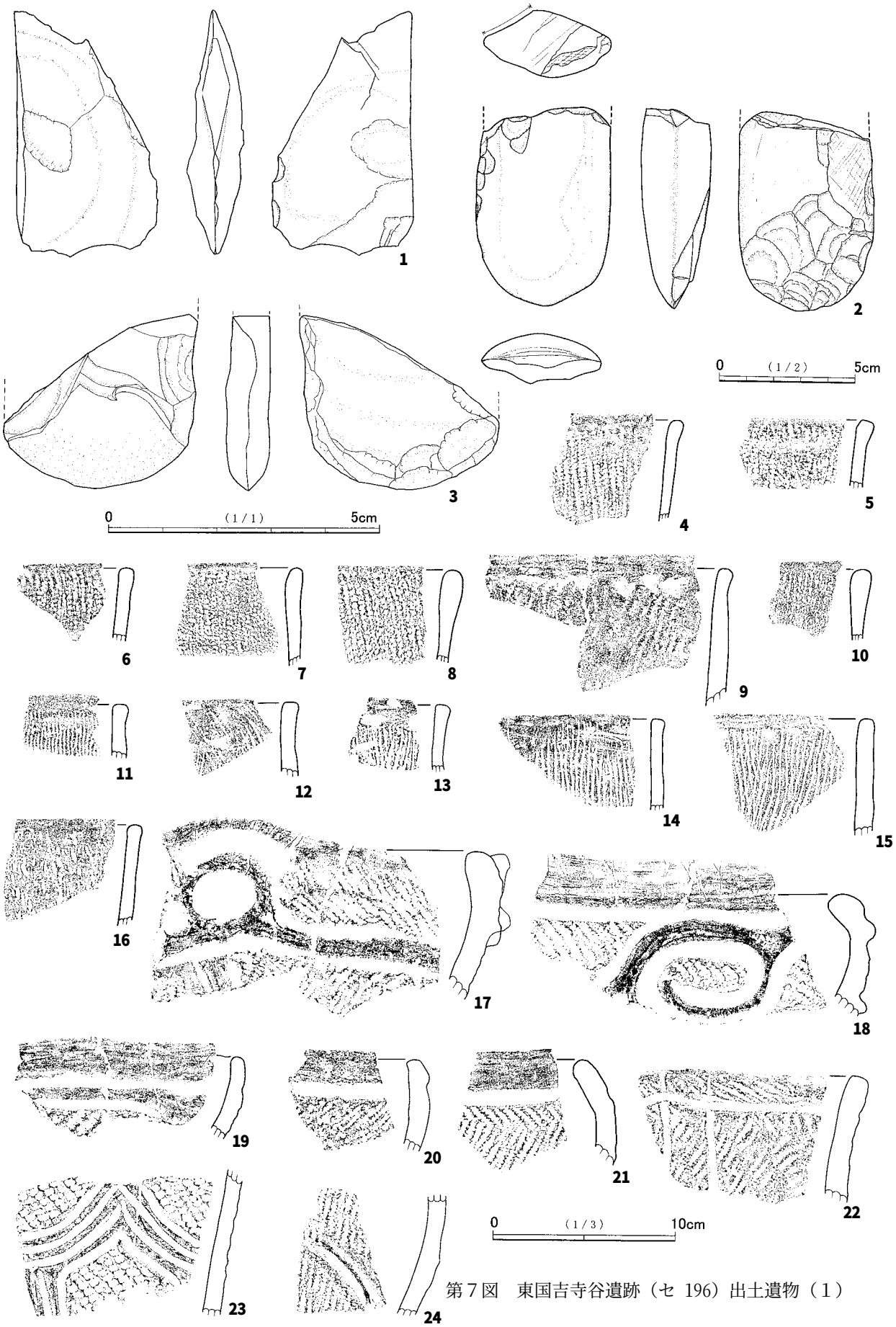


第５図　東国吉大門遺跡（セ 190）グリッド配置図

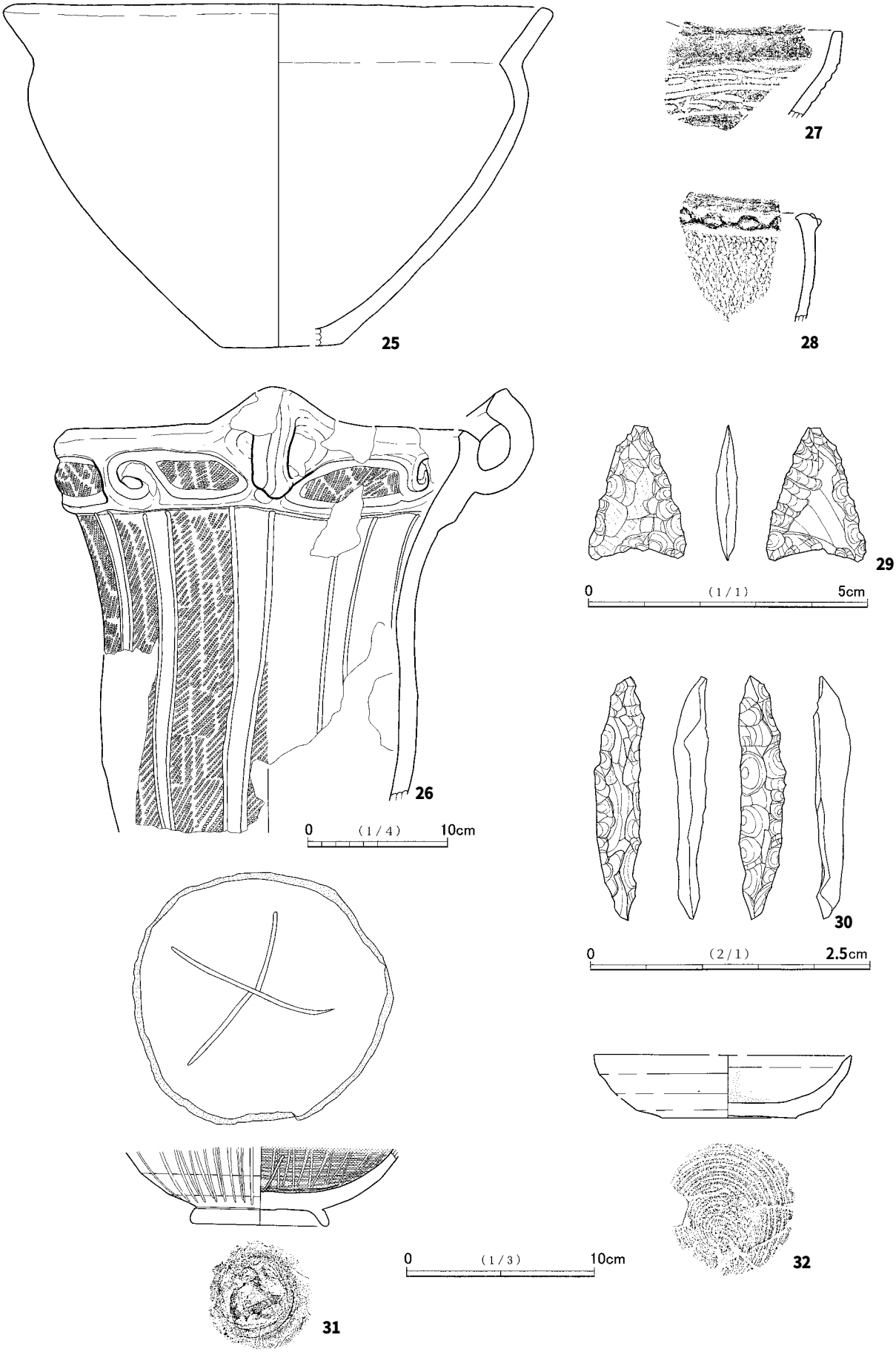
(S=1：1,000)

第6図　東国吉寺谷遺跡（セ 196）グリッド配置図

(S=1：1,000)



第７図　東国吉寺谷遺跡（セ 196）出土遺物（１）



第８図　東国吉寺谷遺跡（セ 196）出土遺物（２）

出土遺物は，縄文早期前葉と中期中葉～後葉の遺物が比較的まとまっている。そのほかには，土師器・須恵器約30点，旧石器，弥生土器，中世陶磁器類，鉄滓が数点出土している。早期前葉・撚糸文土器はＦ７区に集中しており，Ｆ６区にも多い。中期中葉～後葉・加曽利Ｅ式はＥ５区とＧ７区に集中しており，加曽利ＥⅡ式とＥⅢ式がみられる。とくに，加曽利ＥⅡ式は完形土器や大破片を含んでおり，小規模な集落が存在した可能性が高い。

第７図１はローム層中から出土した横長剥片である。２・３は自然礫の片面を加工したもので，縄文早期に多い礫斧とされるものに似る。３は撚糸文土器の集中区から，２もこの時期の土器を伴うグリッドから出土している。４～16は撚糸文土器である。17～24，第８図25・26は加曽利Ｅ式土器である。17～19，26は加曽利ＥⅡ式のキャリパー型土器，23は連弧文系土器である。25はこの時期の鉢型土器である。20・21・24は加曽利ＥⅢ式土器である。22はＥⅡ式・Ⅲ式のいずれかに伴うものであろう。27・28は後期中葉・加曽利Ｂ式土器である。29は石鏃，30は錐である。いずれもチャート製である。Ｅ５区からはこのほか図示しないチャート等の剥片・砕片が７点取り上げられている（第２表）。加曽利Ｅ式土器と共伴しており，この時期の石器製作に関わる資料とみられる。31は平安時代の土師器坏であり，内面にヘラ記号を有する。32は13世紀の大型のカワラケである。内面に油煙の付着が認められる。

第３節　高倉ママダ上遺跡（セ193）

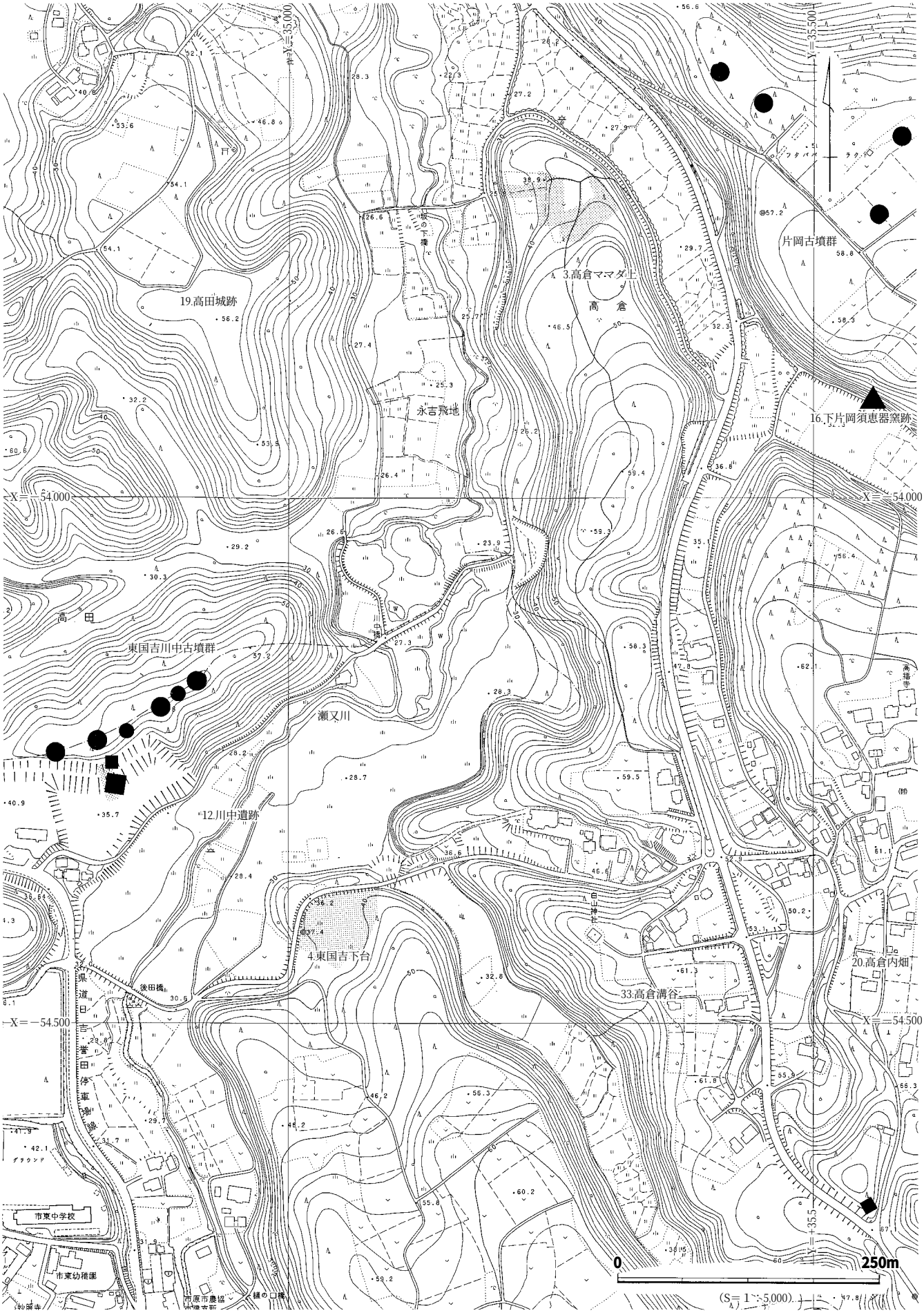
（１）概要（第９・10図，図版５）

高倉ママダ上遺跡（県・市遺跡コード：375）は，市原市高倉字ママダ上に所在する。第９図３の網点部分が調査対象範囲の4,000㎡である。事業地内の北東端にあたり，瀬又川とその支谷に挟まれた南北に長い舌状台地の先端に位置する。遺跡の立地する台地は，標高60mの台地基部，標高50m前後の段丘面，標高40m前後の段丘面と３面が認められ，調査地点は３段目にあたる台地先端部である。なお，台地の西側斜面下には「瀬又の貝層」として知られる露頭が存在する。瀬又川の支谷を挟んだ地点は土気緑の森工業団地の西大野第１遺跡（西口1994）である。ここが千葉市との行政界となったのは，元々上総国山辺郡に含まれていた（第１図）土気地区が，千葉市に編入されてからのことである。当遺跡から南東300mには，９世紀代の操業とされる下片岡（しもかとか）須恵器窯跡（16）が台地斜面に位置する。また，19の高田城跡付近の台地上畑地には縄文中期の土器片が数多く散布している。

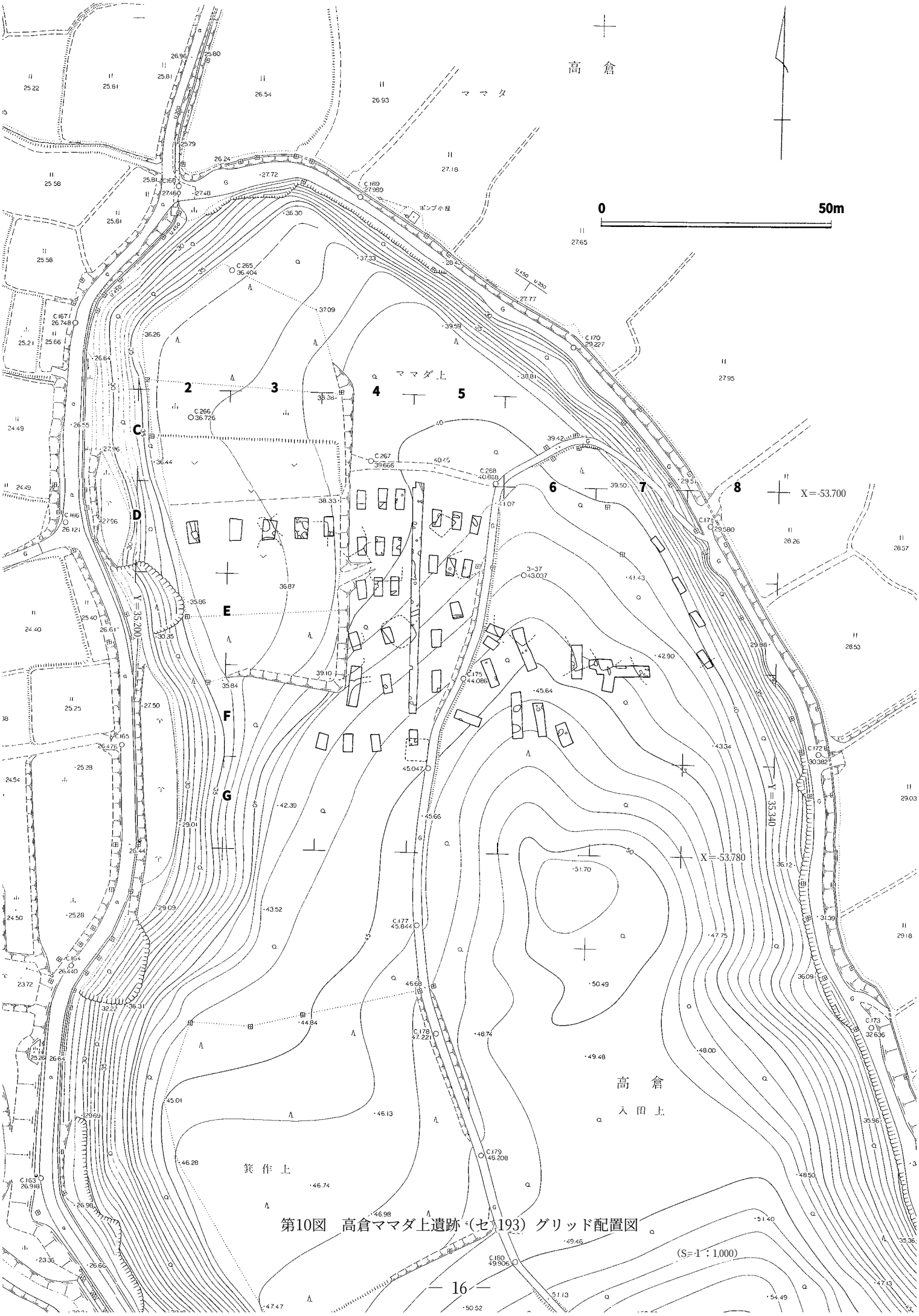
（２）遺構・遺物（第10・11図，図版５・18）

遺構確認面までは20～30cmと浅い部分から，１mを越える深い部分まである。調査時の所見によれば，先述の３面の段丘面は台地整形を伴う中世遺構群が存在する可能性がある。そのほか，住居跡の可能性をもつ掘り込みがほぼ全域で検出されている。図版５にはＤ５・Ｆ５・Ｆ６の竪穴住居跡，Ｆ６区の土坑，Ｄ４区の溝の検出状況を示した。

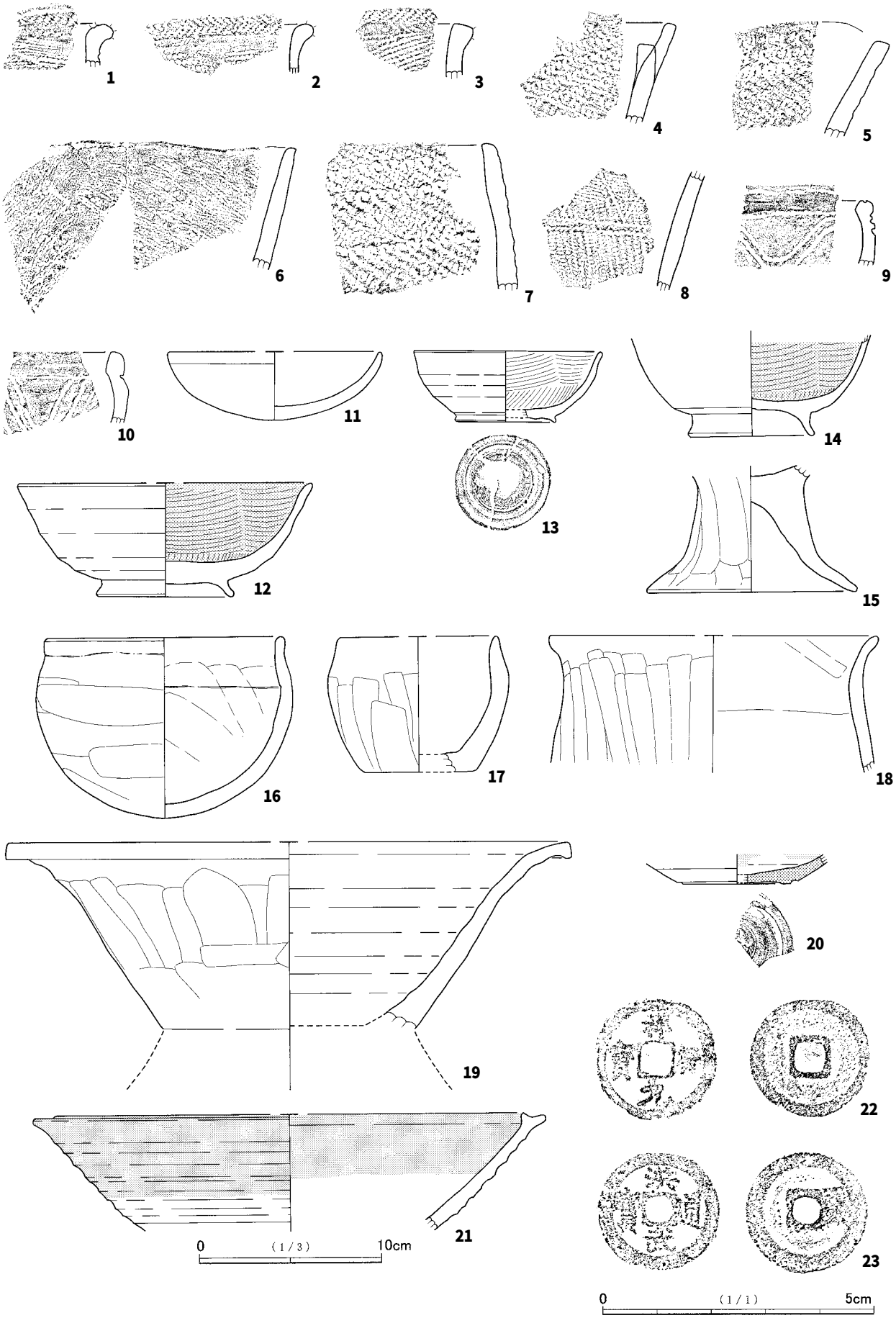
出土遺物はすべて遺跡一括取り上げであり，分布状態や検出遺構の時期検討はできなかった。土師器・須恵器が比較的まとまっており，古墳後期と平安時代・10世紀前半代が中心である。やや多いのは縄文前期前葉～中葉と中期前葉の土器である。これ以外の時期の遺物はごくわずかである。現地では，掘り込みの形状などから弥生時代の住居跡や，中世の遺構を想定したが，弥生土器は皆無であ



第９図　高倉・東国吉地区対象遺跡周辺地形図



第10図　高倉ママダ上遺跡（セ193）グリッド配置図



第11図　高倉ママダ上遺跡（セ 193）出土遺物

り，中世の陶磁器類も全部で５点にすぎない。

第11図１～10は縄文土器である。１～３は早期前葉・撚糸文土器である。４・５は前期前葉・関山式であり，４の口縁には片口が付いている。６は黒浜式であろう。７・８は中期初頭の土器であろう。９・10は阿玉台式である。11～18は土師器である。11は杯，15は高杯，16・17は小型甕，18は甕である。以上は７世紀代を中心とした古墳後期に比定される。12～14はロクロ調整の椀で，12・14の内面は黒色処理されている。19は大型の高台付鉢である。以上は平安時代・10世紀前半に比定される。20・21は15世紀第3四半期に比定される瀬戸美濃系陶器である。20は緑釉小皿，21は折縁深皿である。22・23は中世銭である。

第４節　東国吉下台遺跡（セ221）

（１）概要（第９・12図，図版６）

東国吉下台遺跡（県・市遺跡コード：895，東国吉宮ノ台遺跡）は，市原市東国吉字下台に所在する。第９図４の網点が調査対象範囲の5,650㎡である。図の中央を南流する瀬又川の右岸にある台地の先端部に位置する。この台地は南東の標高約60mの段丘面，48～49mの段丘面を形成し，調査区付近ではさらに標高約38mの段丘面が存在する。北西対岸の東国吉川中遺跡（12，田中1987）では，古墳前期の方形墳３基と弥生後期の住居跡２軒を調査している。確認面までの深さは平均で50cmほどであった。

（２）遺構・遺物（第12・13図，図版６）

旧石器時代の礫群がE14区とG13区から出土した。南西から北東方向の段丘傾斜変換線上に位置する。縄文時代では，E12～E15区で住居跡の可能性がある掘りこみや，集石炉（図版６）を検出している。出土遺物からみて，前期後葉黒浜式の集落が存在した可能性がある。E12・E13区，F12～F14区，G12～G14区で検出した掘り込み群は古墳時代の住居跡と推定された（図版６）が，明確ではない。中世は，調査区西半分に整地を伴う遺構群の存在が予想される。

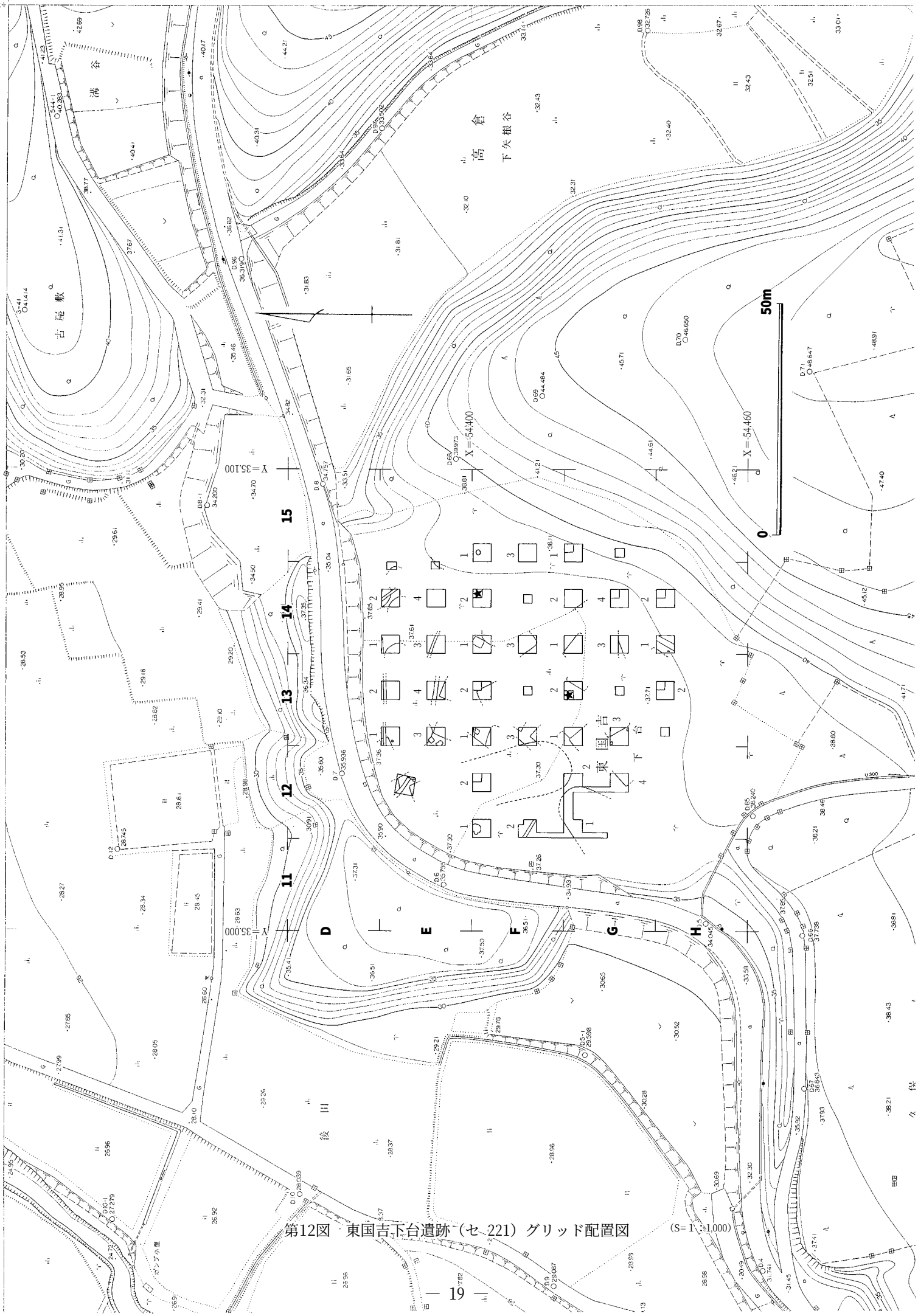
出土遺物の傾向として，旧石器時代の礫，縄文前期中葉の土器，土師器・須恵器が比較的多く出土している。礫はE13・14区に多く，一部はⅣ層下部に礫群を形成していた。縄文土器はE13・14・15区，F14・15区に多く（図版６），住居跡と推定した掘り込みが多い範囲と重なっている。土師器・須恵器はE13・14，F12～14，G12～14区から散漫に出土している。

第13図１～10は縄文土器である。１～９は前期中葉黒浜式であろう。10-1・10-2は同一個体で，大木８a式であろうか。大破片だが単独で出土しており，中期前葉～中葉の土器は遺跡全体でも数点しかみられない。11は大型の磨製石斧である。12は扁平な軟質石材を使った台石で，２箇所の窪みをもつ。11・12は一括取り上げであるが，前期中葉の土器群に伴う可能性がある。13は古墳時代後期の高杯である。14は瀬戸・美濃系の緑釉小皿，15は常滑の片口鉢であり，いずれも15世紀代に比定される。

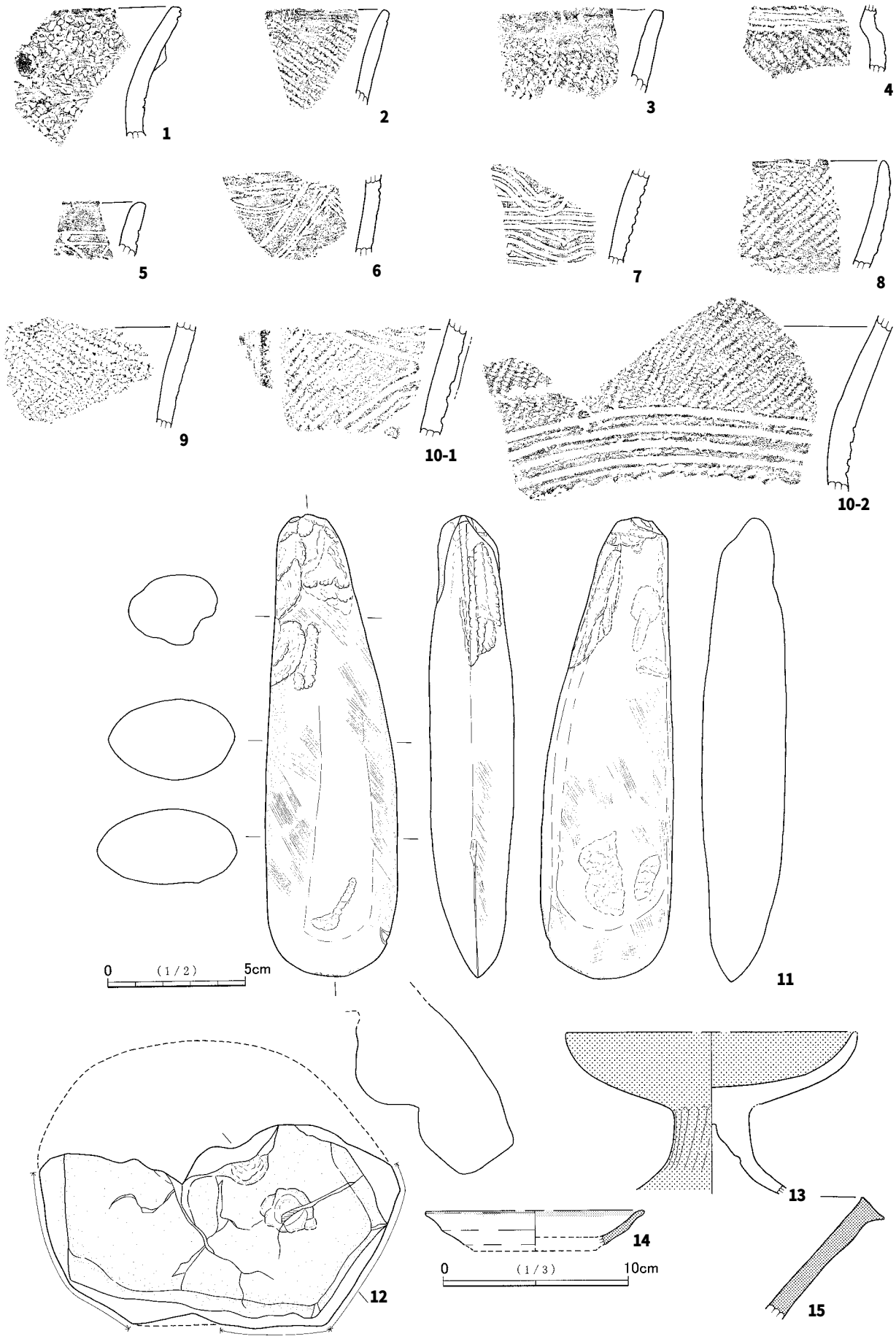
第５節　中野寺沢台遺跡（セ206）

（１）概要（第14・15図，図版７）

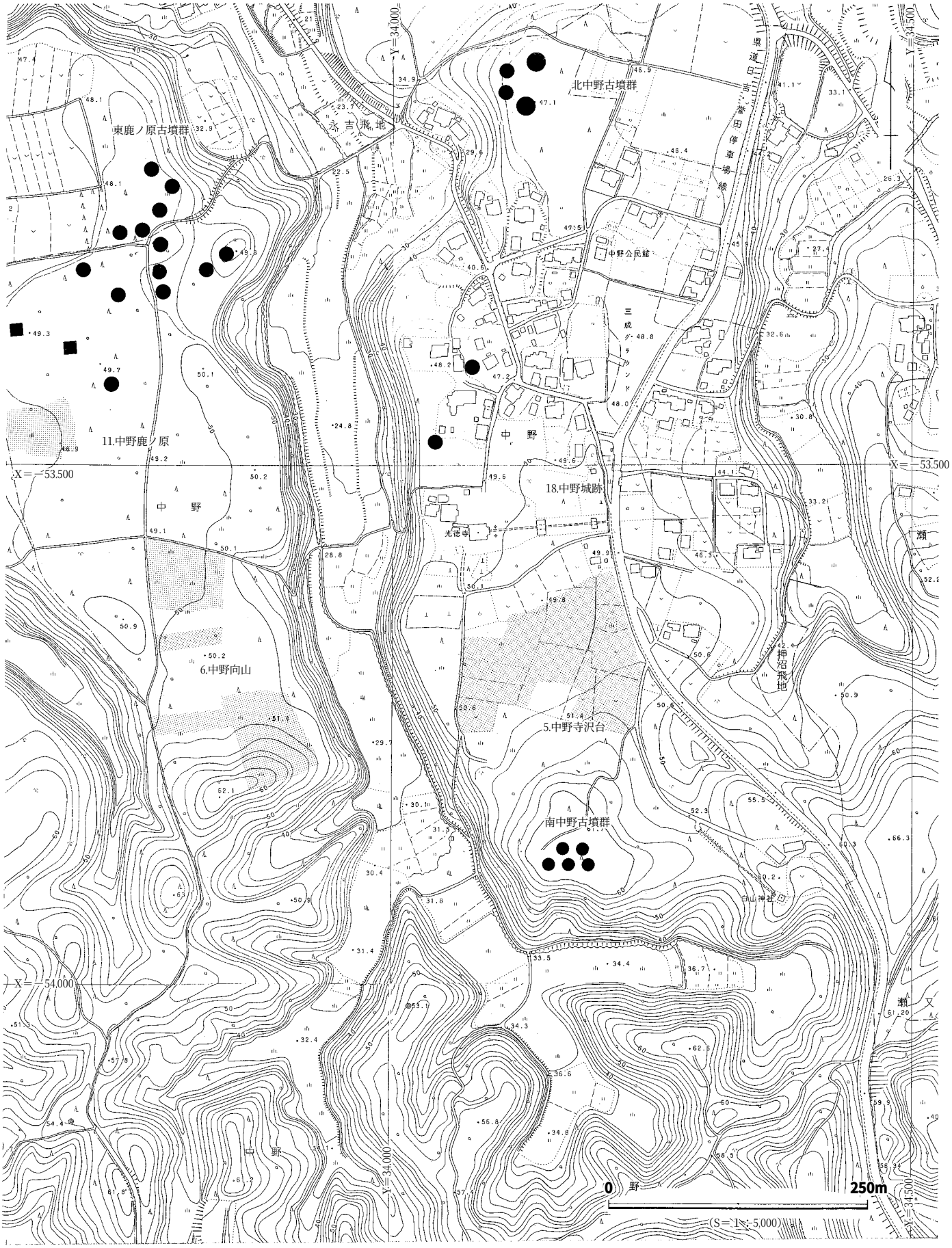
中野寺沢台遺跡（県・市遺跡コード：867中野遺跡群）は，市原市中野字寺沢台に所在する。第14



第12図　東国吉下台遺跡（セ 221）グリッド配置図　(S=1：1,000)



第13図　東国吉下台遺跡（セ 221）出土遺物



第14図　中野地区対象遺跡周辺地形図

図５の網点が調査対象範囲の19,473㎡である。遺跡は，村田川本流左岸，君見川橋と市東第一小学校の間の支谷と，瀬又川左岸の支谷に挟まれた東西約300m，標高50mほどの台地上奥に位置する。調査地点は台地中央の平坦部である。分布地図では，中野遺跡群（867）の一部が，中野城跡（988）として重複記載されている。北側の光徳寺（創立寛正元年1460年）に隣接し，多少の土塁状の高まりも散見するが城郭施設は見当たらない。

（２）遺構・遺物（第15～17図，図版７・８・20・21）

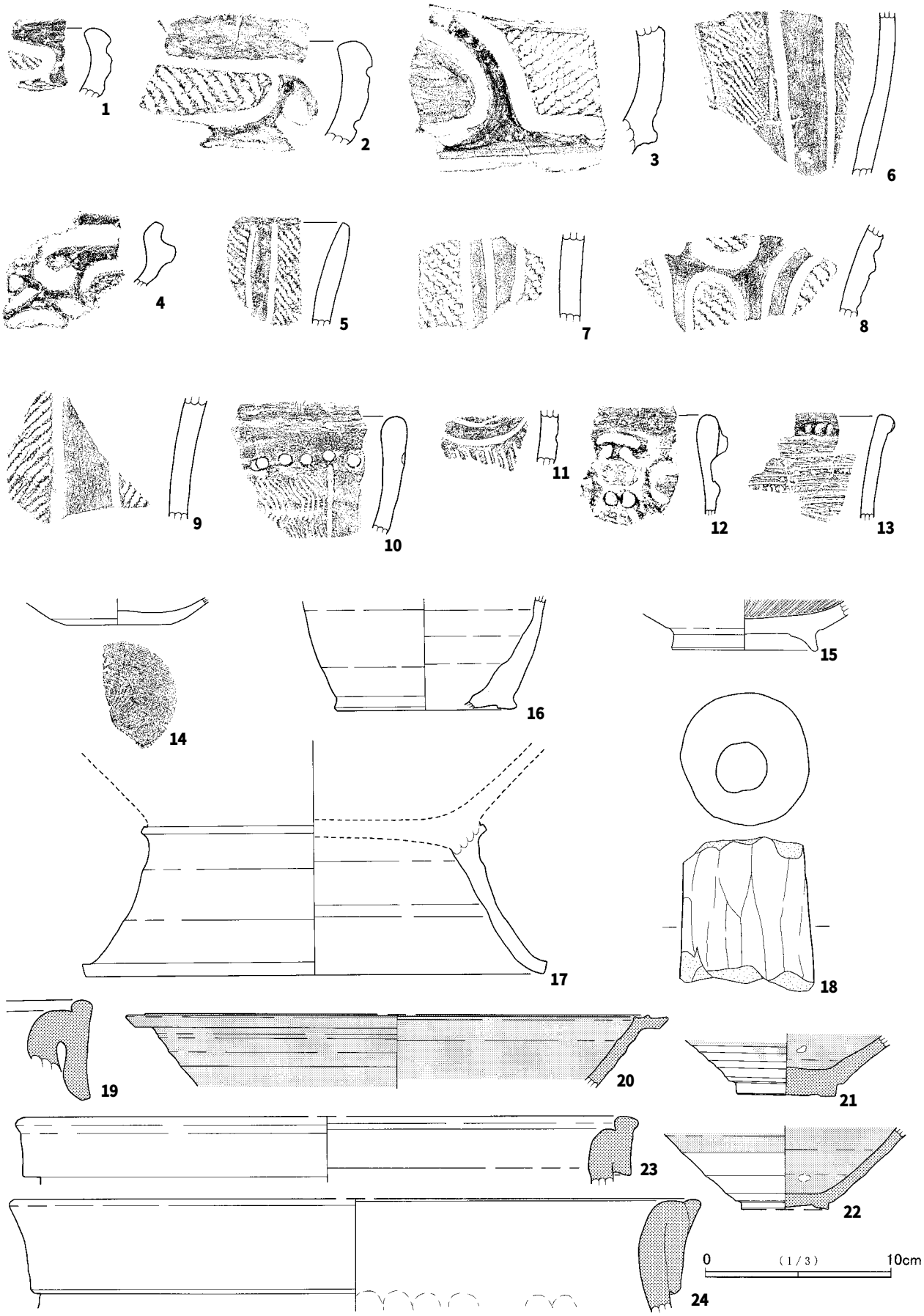
上層の確認調査では，A10・A11・B10区，Ｂ５区，Ｍ６・Ｎ６区，Ｏ４区，Ｋ９区，J11区など広範囲で住居跡の可能性のある掘り込みを検出した（図版７）。遺構も地下式坑，方形竪穴，土坑が全面に検出されている。第15図の２つの網点は，一段低く掘り窪められた平坦面であり，出土遺物から中世の台地整形区画を伴う遺構群が存在する可能性が高い。東の区画は約60m四方，西の区画は南北35m，東西80m以上の規模を有している。下層の確認も行ったが遺物は出土しなかった。

遺物は，縄文中期加曽利Ｅ式土器約180点，平安時代を中心とした土師器・須恵器約1030点，中世陶磁器類約110点，鉄滓・鉄塊約70点，羽口３点が出土している。加曽利Ｅ式土器はA４・Ａ５区，Ｎ５・Ｎ６区，Ｏ４・Ｏ６区の広域に分布する。土師器・須恵器は中世の整形区画を避けるように広域から出土しており，Ａ４～Ａ６区，A10・A11区，Ｂ５・Ｂ６区，Ｋ９・Ｌ８・Ｌ９区，Ｎ６・Ｎ７区，O12区でとくに多かった。竪穴住居跡と推定された掘り込みの分布とは，必ずしも一致しておらず，平安時代を中心とした住居跡が散漫に分布しているものとみられる。また，製鉄関連遺物の分布傾向は土師器・須恵器と一致しており，鍛冶施設をもつ集落であったと考えられる。なお，掘り込みの形状から古墳時代後期の住居跡と推定したものがあるが，この時期の遺物はごく少ない。中世陶磁器類は東西の台地整形区画内を中心に出土しており，とくにＬ９区とL11区に集中していた。

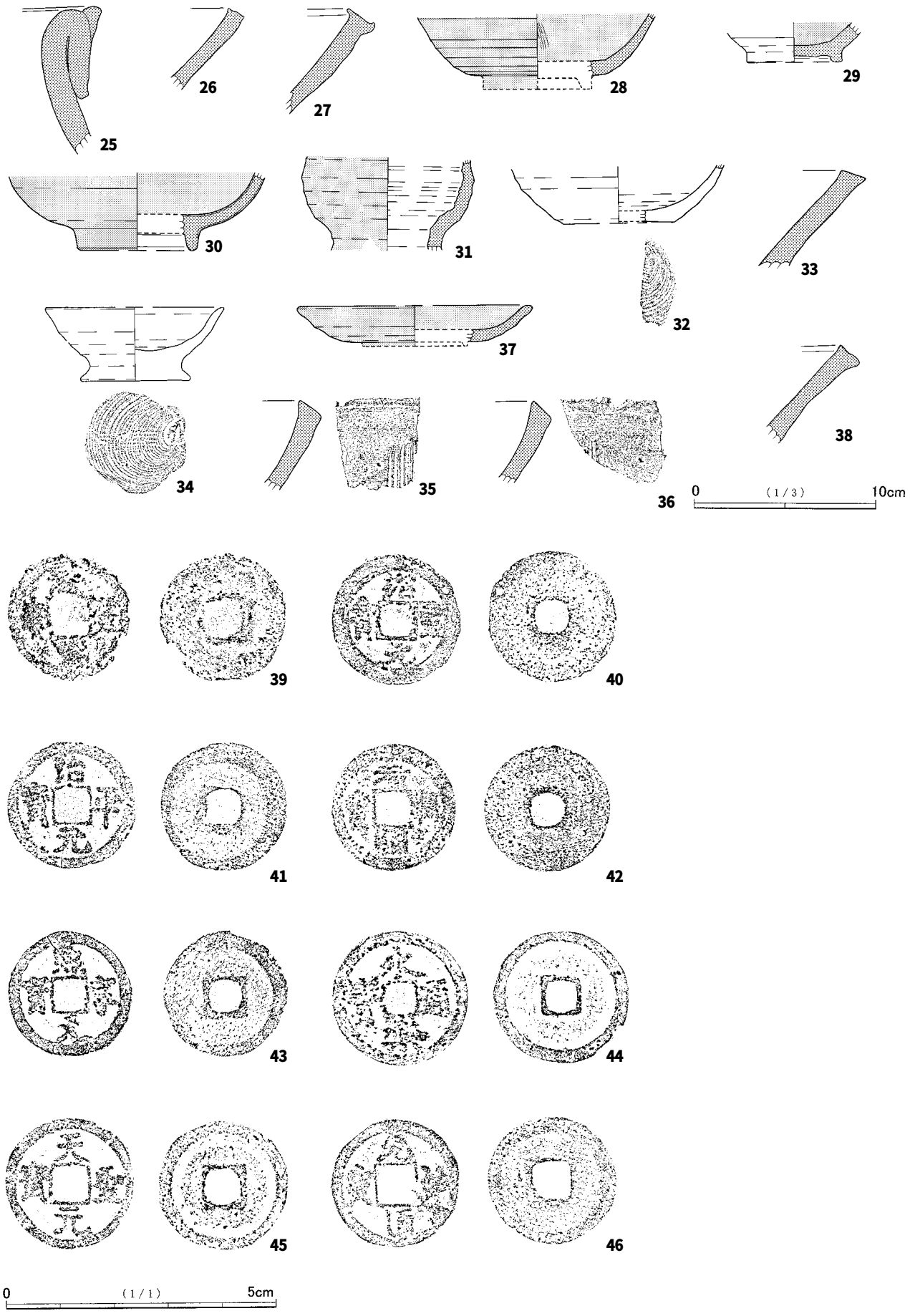
第16図１～13は縄文土器である。１～９・11は中期・加曽利EⅡ式を中心としている。10は後期初頭～前葉の素文系土器であろう。13は後期・加曽利Ｂ式，12は晩期安行式であろう。14～17は古代の土器である。14・15は土師器坏，17は大型の台付鉢，16は灰釉陶器壷であり，いずれも９世紀中葉～10世紀前半代に比定される。14は底面に「×」状のヘラ記号を有する。18はフイゴの羽口である。中世陶磁器類は，第７表のように竜泉窯系磁器３点，渥美産陶器４点，常滑産炻器79点，瀬戸・美濃系陶器17点，志野陶器１点，備前産陶器・炻器３点，在地土器５点，合計112点が出土している。図示したのは第16図19～24と第17図25～38である。28・30は竜泉窯系青磁椀である。19・23～25は常滑産甕・大甕，26・27・33・38は常滑産片口鉢である。35・36は備前産擂鉢である。20～22・29・31・37は瀬戸･美濃系陶器で，20は折縁深皿，21・22は平碗，29は天目茶碗，31は尊式花瓶，37は丸皿である。32・34は在地の土師質土器で，32は中型のカワラケ，34は柱状高台土器である。14世紀後葉～15世紀前葉の資料が多く，台地整形と遺構群の中心的な時期を示すものと考えられる。39～46は中世の渡来銭であり，銭種と鋳造年代は第10表に示した。３は判読不能だが，４～７，９，10は北宋銭，８は明銭である。３～７はA12区aで一括して出土したものである。そのほか，K11区dとＬ９区aで被熱した骨，L10区cではウマの歯牙2点が取り上げられた。K11区のものはすべて灰白色でひび割れの顕著な火葬人骨である（第8表）。また，K09区aで出土した繊維状の圧痕をもつ焼成粘土塊は壁土が焼けて残ったものの可能性がある。

第15図　中野寺沢台遺跡（セ 206）グリッド配置図

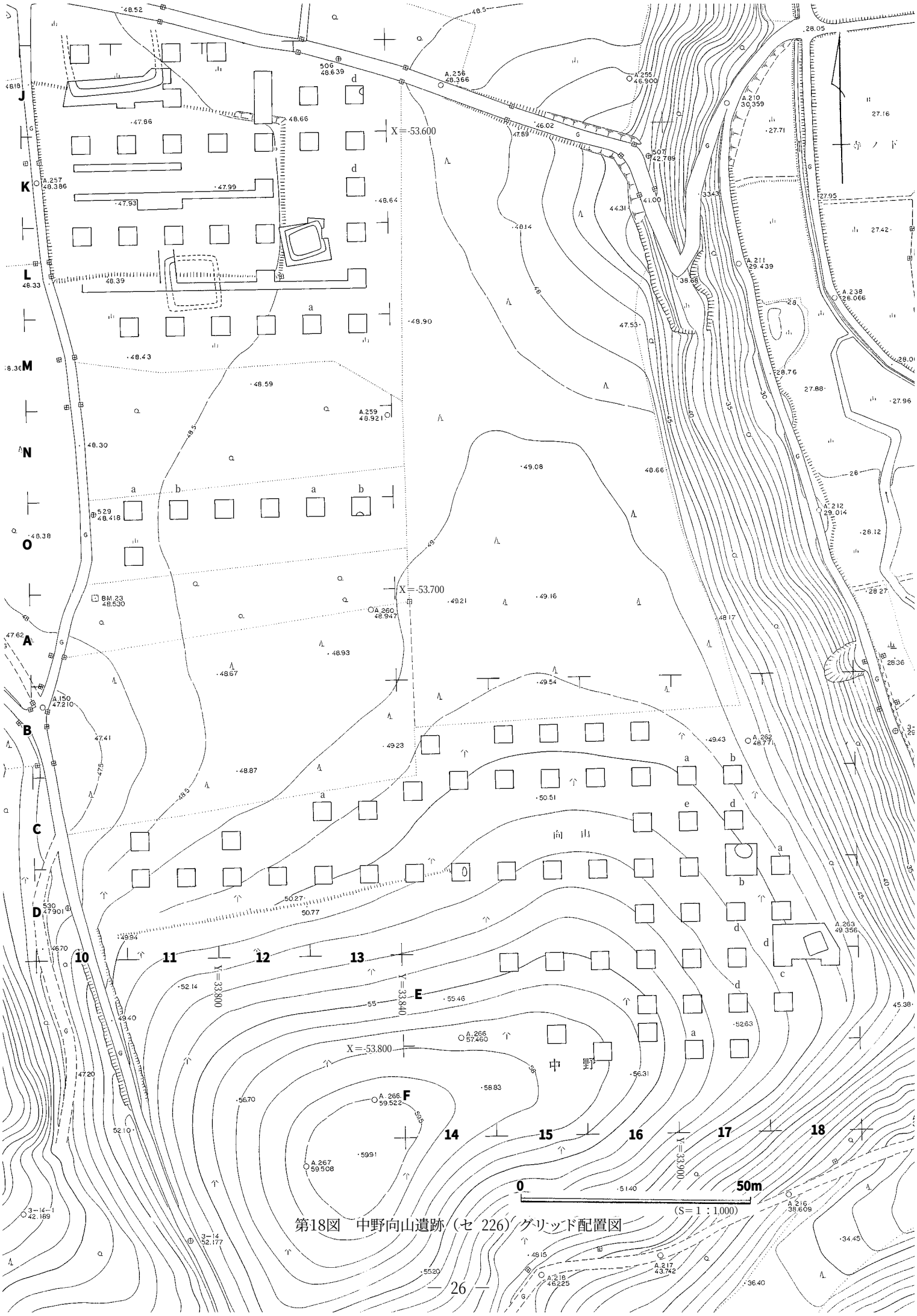
(S＝1：1,000)



第16図　中野寺沢台遺跡（セ 206）出土遺物（1）



第17図　中野寺沢台遺跡（セ 206）出土遺物（2）



第18図　中野向山遺跡（セ 226）グリッド配置図

第６節　中野向山遺跡（セ226）

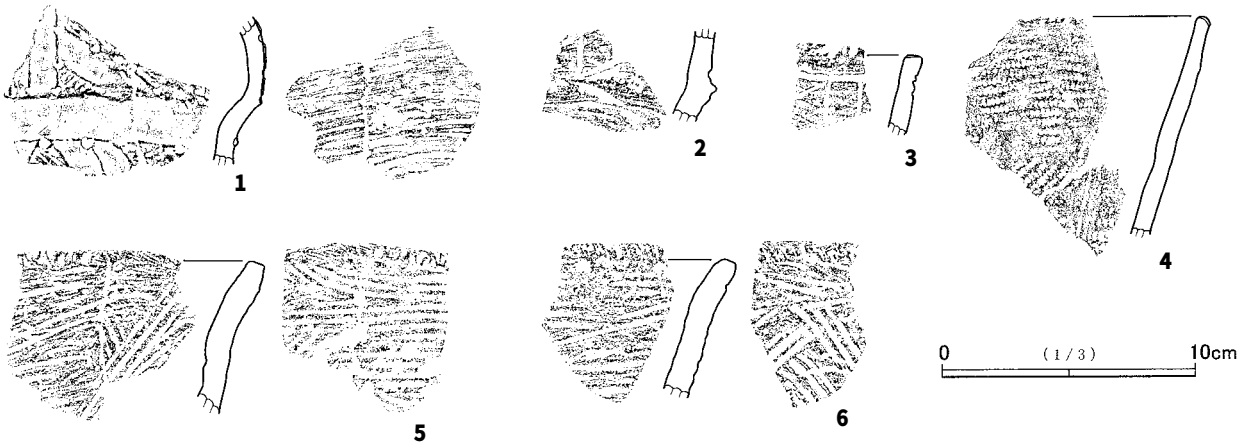
（１）概要（第14・18図，図版８）

中野向山遺跡（県・市遺跡コード：861鹿ノ原遺跡の一部）は，市原市中野字向山に所在する。第14図６の網点部分が調査対象範囲の15,350㎡である。遺跡は，中野寺沢台遺跡（５）と支谷を挟んだ対岸に位置しており，標高50m前後の台地上に立地する。調査は北側・中央・南側の３区に分けて行っており（第18図），北側・中央の調査区は平坦地，南側の広い調査区は狭い尾根状の部分である。表土は薄く，上層確認面までの深さは平均で50cmほどである。下層確認グリッドを39か所設定したが，遺物は検出されなかった。

（２）遺構・遺物（第18・19図，図版９）

C17区の円形の掘り込みやD14区の陥し穴状の土坑は縄文時代であろう。ほかにD18・E18区で竪穴住居跡を検出しているが，時期は不明である。北側調査区では方形墳墓３基を検出した（図版９）。J10・J11区のものは一辺20m，L11・L12区は一辺12m，L12・L13区は一辺８mであり，出土遺物は少なく時期は特定できなかった。調査区の北方500mに存在する東鹿ノ原古墳群（第14図，現21基確認）に続くものであろうか。

遺物は，早期後葉の土器が約80点出土した。ほかの時期の資料はごくわずかであり，全体として遺構・遺物の分布はきわめて希薄であると推定される。掲載したのは，すべて縄文土器である。第19図１は微隆帯，２・３は沈線による区画と意匠文の充填をもつ土器であり，鵜ヶ島台式である。５・６は無文系の土器であるが，５はフネガイ科の貝殻殻頂部と腹縁部の圧痕，６は口唇上に刻みを施す。４は口唇上に刻みをもつ土器である。中期初頭のものであろうか。

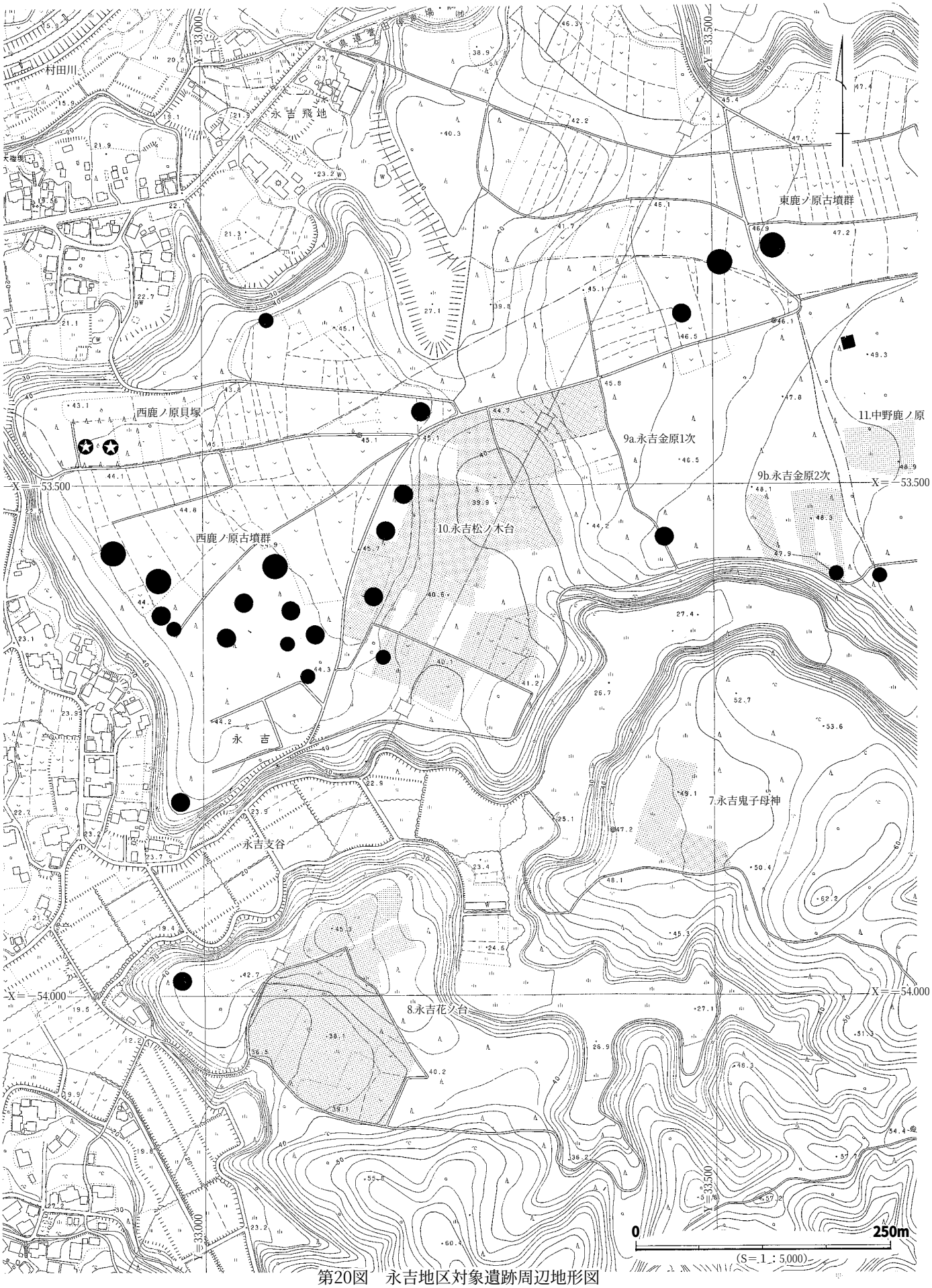


第19図　中野向山遺跡（セ 226）出土遺物

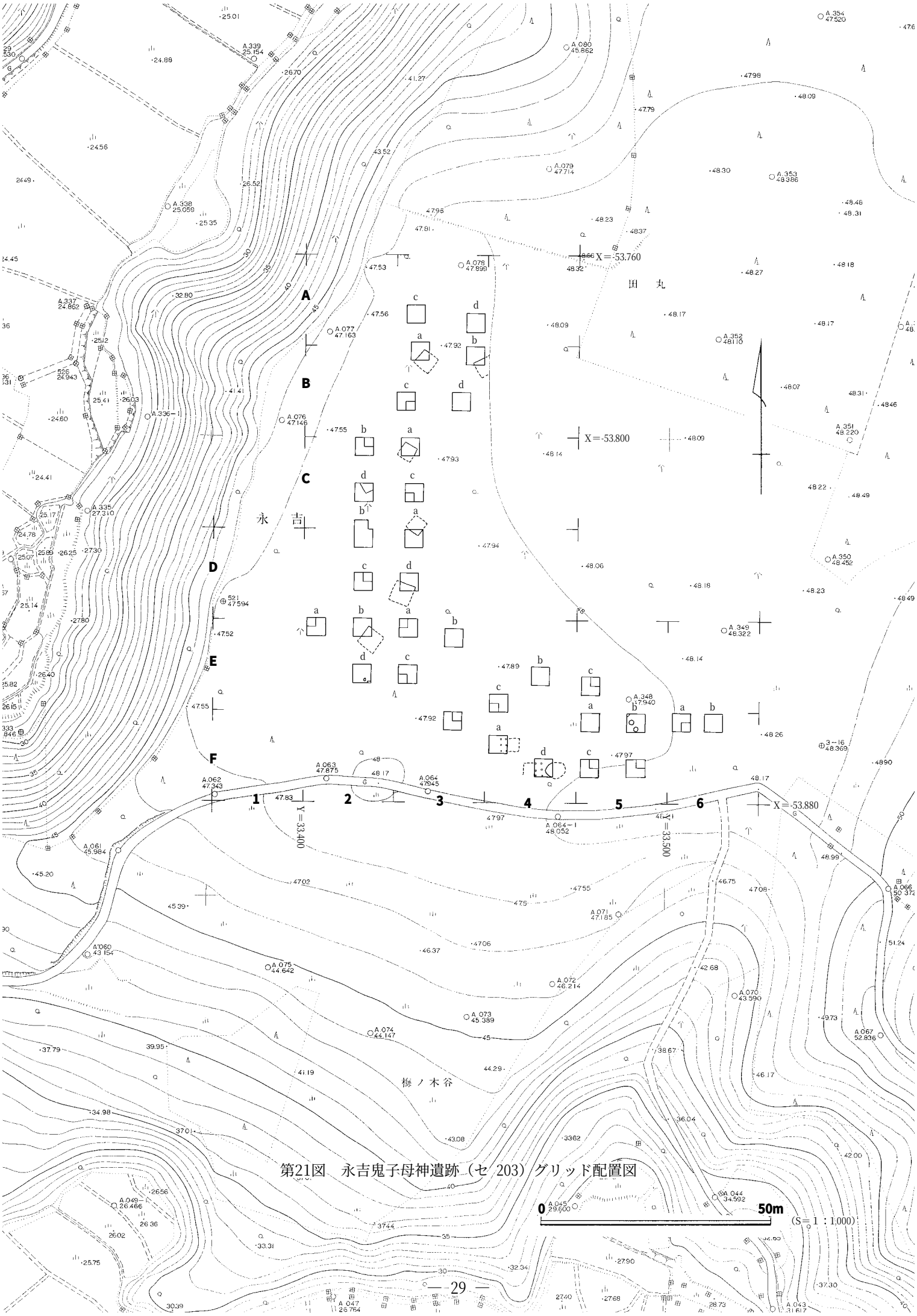
第７節　永吉鬼子母神遺跡（セ203）

（１）概要（第20・21図，図版10）

永吉鬼子母神遺跡（県・市遺跡コード：374）は，市原市永吉字田丸に所在する。第20図７の網点部分が調査対象範囲の4,955㎡である。遺跡は，支川村田川から東に入り込む永吉支谷が分岐する部分の台地上に立地する。台地上の標高は48m～50mで，東から西に緩やかに傾斜している。低地面からの比高差は20m以上あり，急な崖面を形成している。上層確認面までの深さは平均50cm程度であった。下層確認調査も実施したが旧石器時代の遺物は検出されていない。



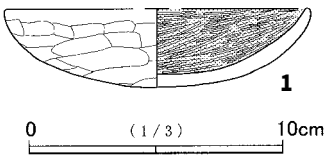
第20図　永吉地区対象遺跡周辺地形図



第21図　永吉鬼子母神遺跡（セ 203）グリッド配置図

（２）遺構・遺物（第21・22図，図版10・21）

台地西側から南側縁辺にいたる広範囲で遺構と思われる掘り込みを検出した。形状から，古墳時代～奈良・平安時代のいずれかの時期の竪穴が中心とみられる（図版10）。台地全体に集落が広がる可能性がある。Ｆ４・Ｆ５区のピット群は掘立柱建物跡の可能性がある。



第22図　永吉鬼子母神遺跡（セ 203）出土遺物

遺物は土師器・須恵器が約100点出土した。Ｂ３・Ｃ２・Ｅ４区に若干のまとまりがみられる。そのほかの時期の資料は皆無に近い。全体として取り上げられた遺物は少ないが，遺構と思われる掘り込みの数からみると，調査時点で遺構の掘り下げや遺物の回収を行った場所が少なかったなど，調査方法によるところが大きいと推定される。第22図１は内面黒色処理の土師器坏で，７世紀代に比定される。

第８節　永吉花ノ台遺跡（セ227）

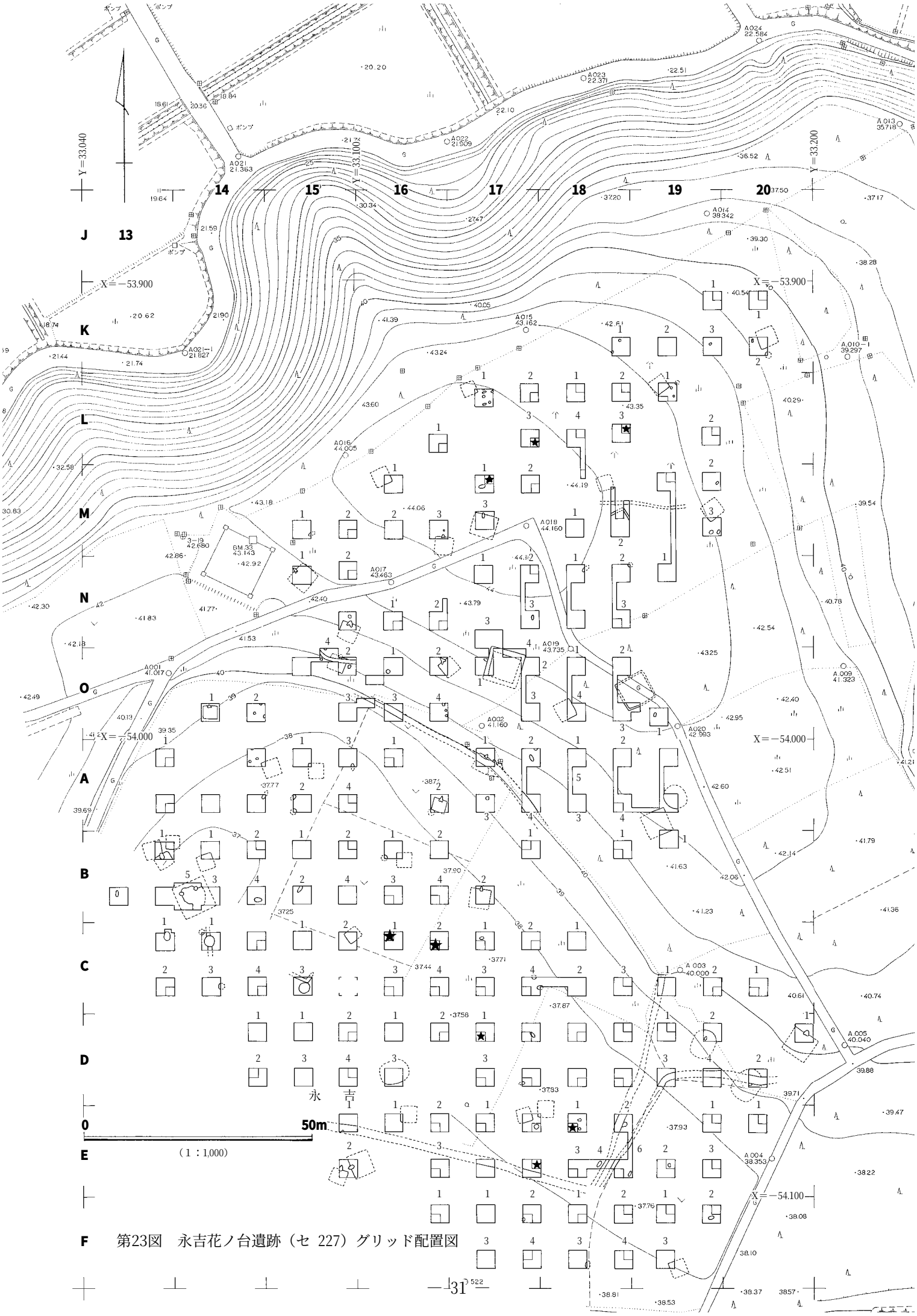
（１）概要（第20・23図，図版11）

永吉花ノ台遺跡（県・市遺跡コード：864）は，市原市永吉字花ノ台に所在する。第20図８の網点部分が調査対象の23,450㎡である。遺跡は，鬼子母神遺跡（７）から南西に400mの支谷を隔てた台地上にある。台地の標高は36m～45mで，中央部に浅い谷が入っている。そのためか鬼子母神遺跡の台地より10mほど低い。調査範囲は中央部の浅い谷から北側の高い部分にかかっている。調査の結果，この浅い谷は，南から北に入って東側に向きを変えていた。複雑な地形のため，上層確認面までの深さ30cm～50cmの部分と，100cmの部分があった。

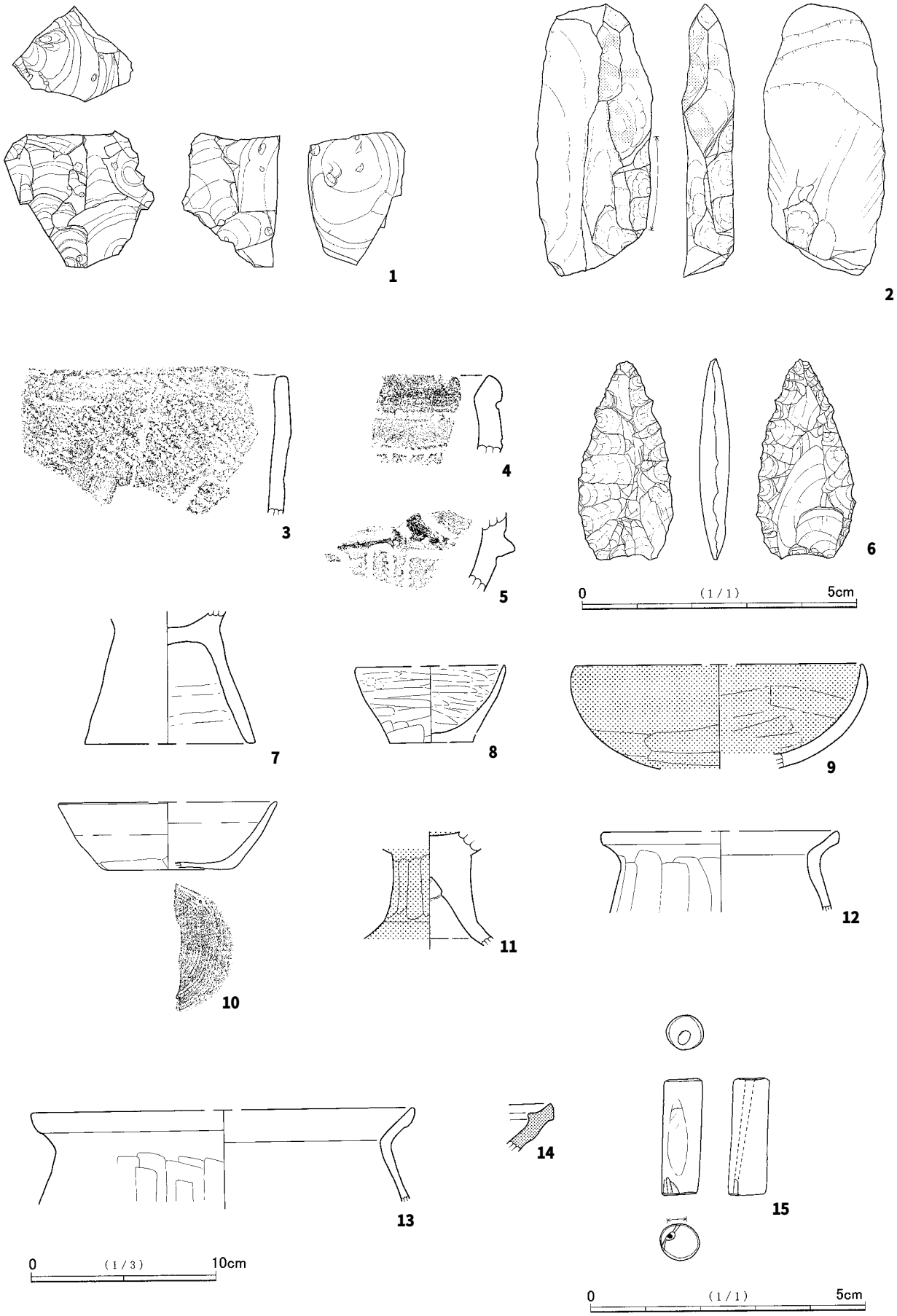
（２）遺構・遺物（第23・24図，図版11・22）

北側のC16区，M17・L17・L18区をはじめ，下層確認グリッド７か所で石器類を検出した。C16区1-2-3-4では，ソフトロームからハードロームにかけて14点の剥片・石核が出土しており，素材がホルンフェルス９点とまとまっていることから，ブロックを形成していた可能性が高い。そのほか，南側のC16・D17・E17・E18区などから礫・石器類が少数出土しており，出土地点を第23図に星印で示した。上層で確認した掘り込みは縄文時代の陥し穴や，弥生時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡，掘立柱建物跡が多いと推定された（図版11）。北側では方形の墳墓３基もみつかっている。弥生時代から平安時代までの集落が台地全面に広がっていた可能性がある。

遺物は旧石器が中心である。土師器･須恵器も比較的多いが，時期はばらつく。石器製作に伴う石核・剥片類はC19-16，L11-18で出土している（第２表22～38）。また，礫がB19区で48点出土している。現地の記載によれば，このほかに第23図で星印をつけたグリッドから礫が出土したが，現状では資料を確認できない。弥生土器はD19～F19・D20区と，P20区から合計で約50点出土している。土師器・須恵器が，A19～F19，K11～O11区等の広範囲から，合計で600点余り出土している。第24図１・２は旧石器である。１はE19-７区のソフトローム層から単独で出土した石核である。２はC19-16区の石器ブロックから出土した側縁に加工をもつ縦長剥片である。３～５は縄文土器である。３は前期中葉・黒浜式である。４・５は同一個体で中期前葉・狢沢式である。６は平基式の石鏃である。７・８は弥生後期の土器である。７は台付甕，８は小型鉢である。９～13は土師器である。９・10は



第23図　永吉花ノ台遺跡（セ 227）グリッド配置図



第24図　永吉花ノ台遺跡（セ 227）出土遺物

坏，11は高杯，12・13は甕である。５世紀末（９），古墳後期（11），奈良・平安期（10・12・13）と時期はまとまりがない。14は内面に鬼板を施釉した瀬戸・美濃系陶器の大皿である。15は管玉である。P20区より出土しており，土師器に伴うものであろう。

第９節　永吉金原遺跡１次（セ216）

（１）概要（第20・25図，図版12）

永吉金原遺跡（県・市遺跡コード：861鹿ノ原遺跡の一部）は，市原市永吉字金原に所在する。第20図９の網点部分が調査対象範囲の8,624㎡である。金原遺跡１次調査は，松ノ木台遺跡1次調査と調査期間が一部重複して行われた。調査範囲も農道を境に隣接しており，住居跡を折半している箇所もある。金原遺跡は大小30基ほどの円墳から構成される西鹿ノ原古墳群と東鹿ノ原古墳群の中間に位置する。標高40mほど台地に，南から埋没谷が入り，北側の村田川本流側の台地からも支谷が入り込んでいる。この部分で台地は浅く分断されている。調査区域は南側の埋没谷を中心としており，上層確認面までの深さは谷頭付近で薄く30cm程度であるが，埋没谷部分では１m前後となっている。

（２）遺構・遺物（第25～27図，図版12・23）

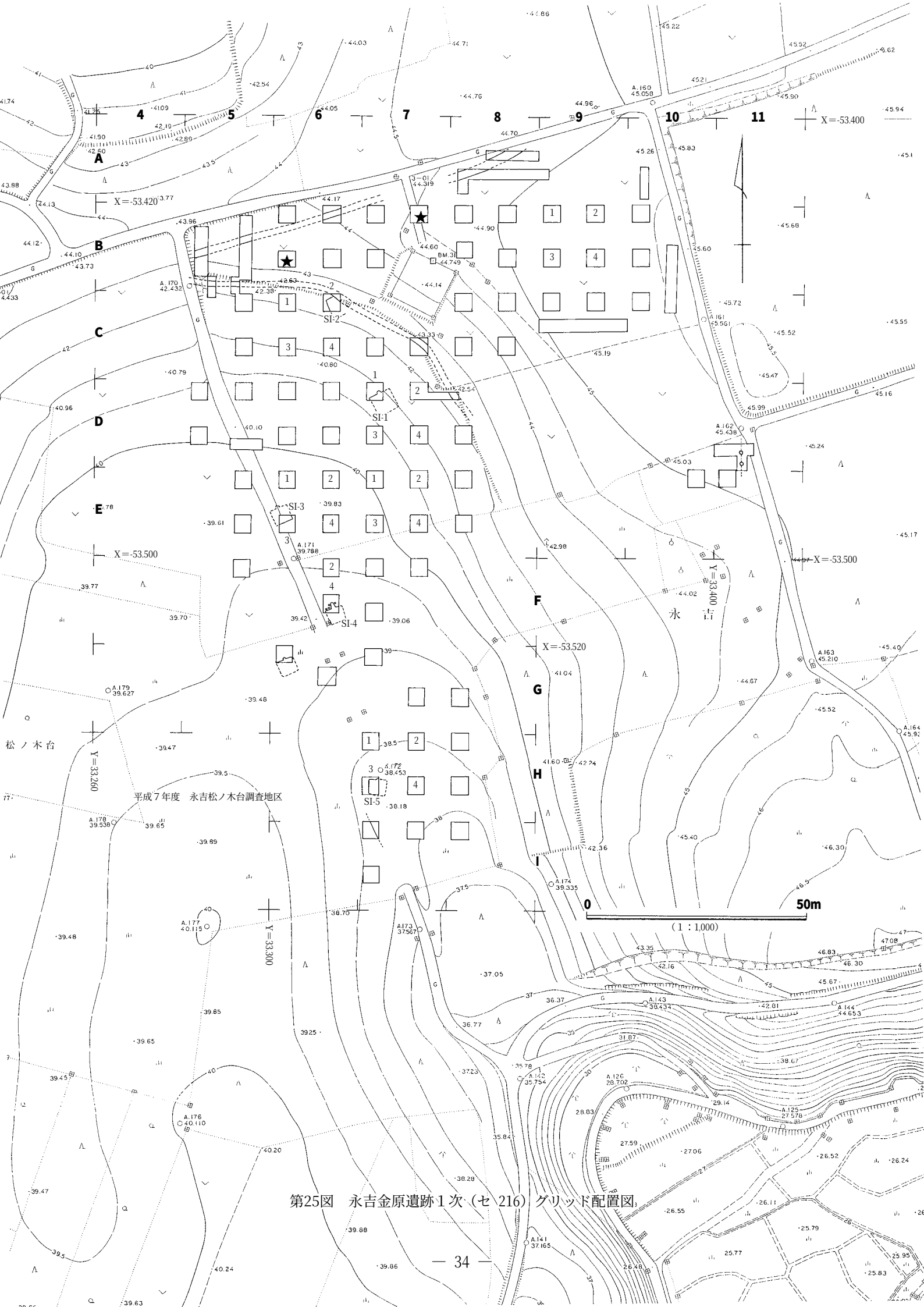
上層では住居跡とみられる掘り込みが散漫に見つかっている。一部は隣接する松ノ木台遺跡の集落範囲の東側限界を示していると考えられる。旧石器はB６区３で立川ローム第２黒色帯下部IX層から，やや気泡の混ざった薄灰色の黒曜石製縦長剥片が２点出土している。B７区２からは珪質頁岩製調整剥片と砕片が出土している。また，D11・E11区で25点，I6・H7・I7区で26点の礫が出土しており，これも旧石器時代のものとみられる。土師器・須恵器は全体で約170点出土しており，E11区とH７区でやや多い。これ以外の時期の資料はごくわずかである。カマドのついた竪穴住居跡や溝等を検出している（図版12）が，全体として遺構・遺物の分布は希薄であろう。

第26図１～４は旧石器である。１・２はB６区のIX層下部から出土した黒曜石製の剥片で，使用痕が認められる。３も使用痕をもつ剥片である。４は折り取られた端部に歯をつけた掻器である。５は縄文草創期の槍先形尖頭器である。第27図６～14は縄文土器である。６は早期中葉・田戸下層式土器，７は中期初頭の土器である。８～10は中期前葉の西関東系の土器で，８は狢沢式，９は勝坂１式，10は阿玉台Ⅲ式であろう。11～14は中期後葉・加曽利Ｅ式土器である。14はＥⅡ式またはＥⅢ式，他はＥⅡ式であろう。15・16は石鏃である。17・18は奈良・平安時代の土師器で，17は甕，18は坏である。

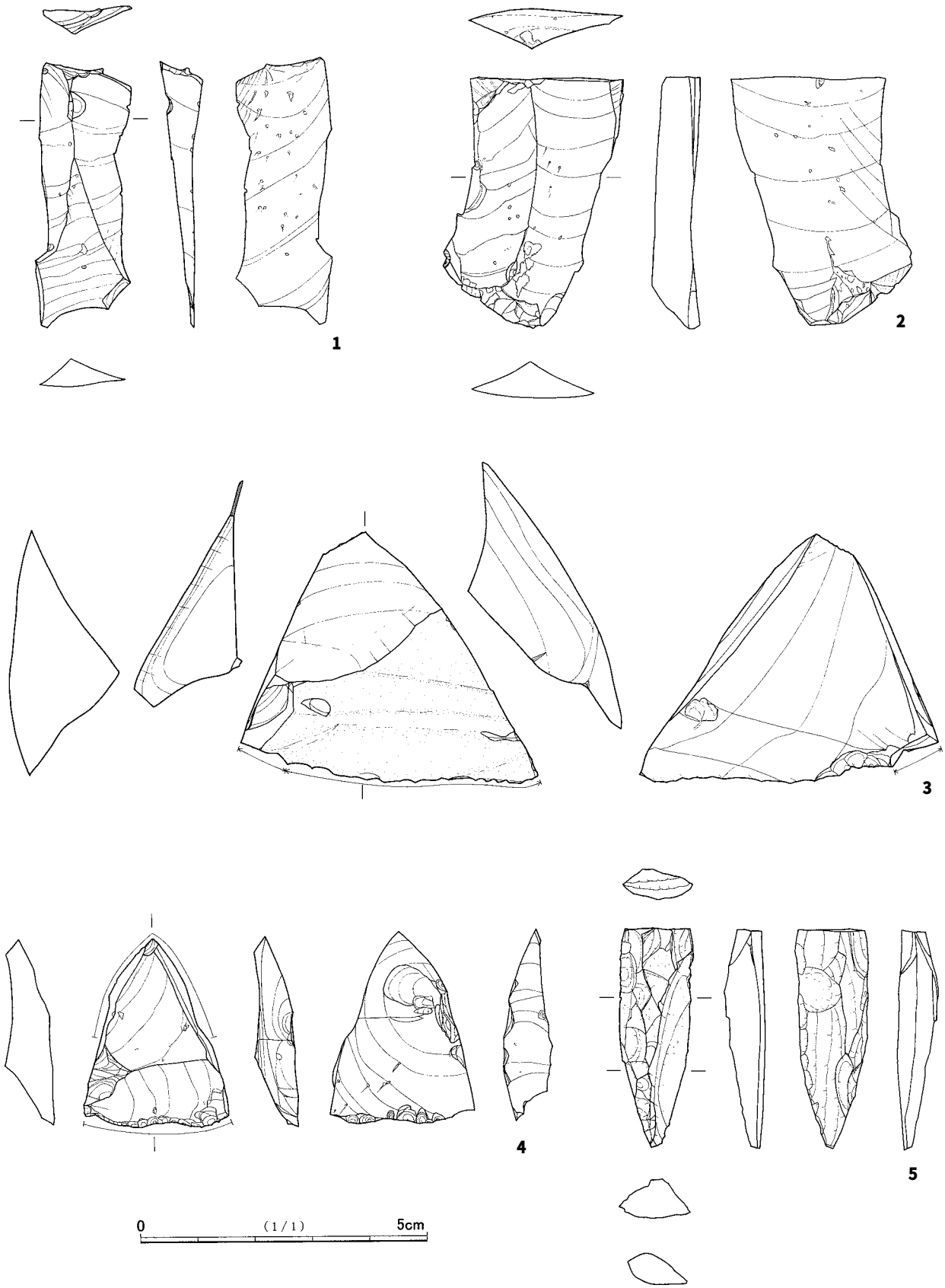
第10節　永吉松ノ木台遺跡（１次・セ214，２次・セ249）

（１）概要（第20・28・29図，図版13・14）

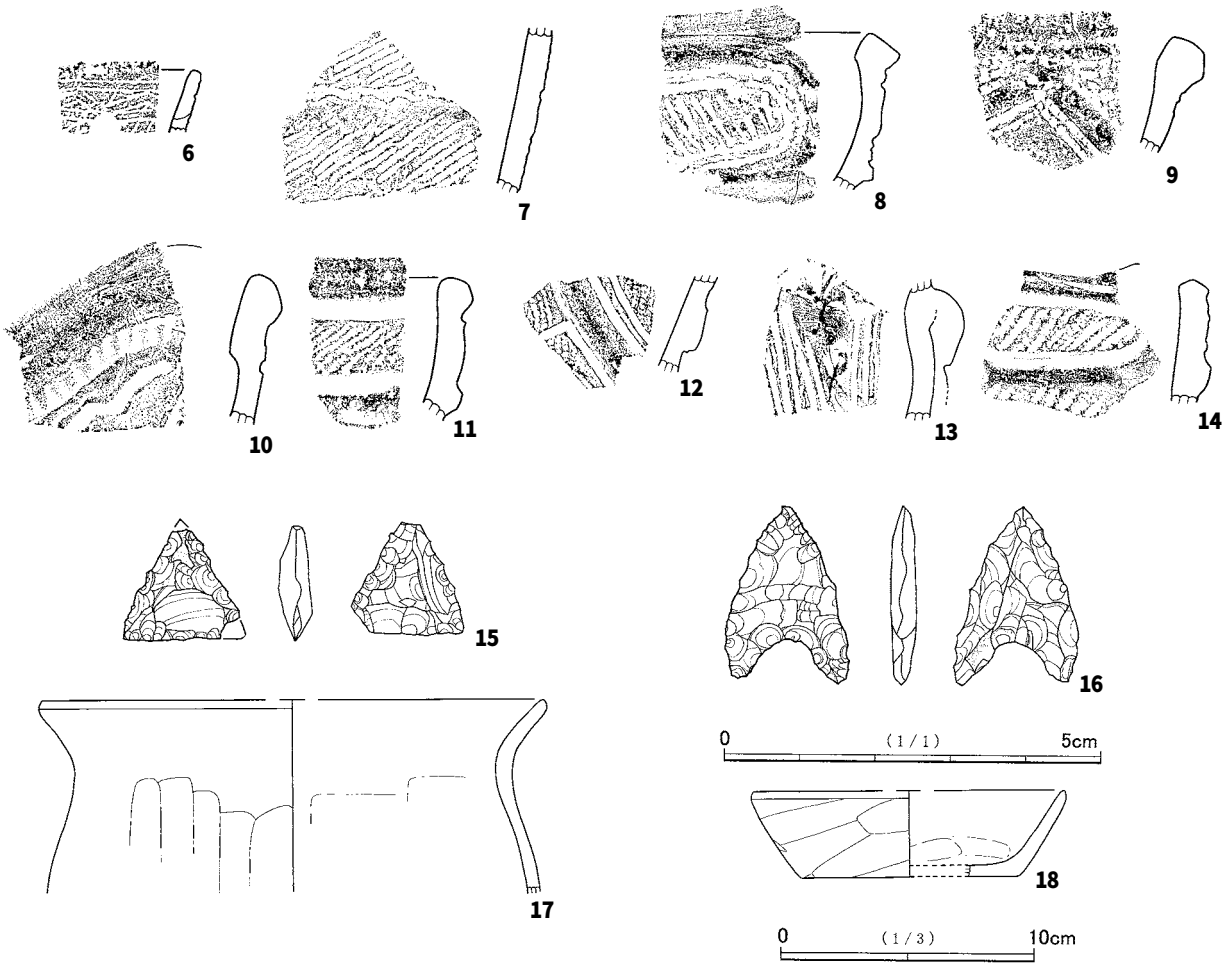
永吉松ノ木台遺跡（県・市遺跡コード：861鹿ノ原遺跡の一部）は，市原市永吉字松ノ木台に所在する。第20図10の網点部分が調査対象範囲である。西側には西鹿ノ原古墳群と西鹿ノ原貝塚（星印），東側には永吉金原遺跡が存在する。事務上の都合により，平成７年度に対象面積24,690㎡を，平成９年度に対象面積5,315㎡を調査している。便宜上，平成７年度を１次調査，平成９年度を２次調査と呼称し，本節でまとめて報告する。調査範囲は南北300m，東西220mあり，グリッド配置図は「I」列で，南北に２分割して掲載した（第28・29図）。遺跡は，支川村田川右岸の旧永吉村背後の



第25図　永吉金原遺跡１次（セ 216）グリッド配置図



第26図　永吉金原遺跡１次（セ 216）出土遺物（１）

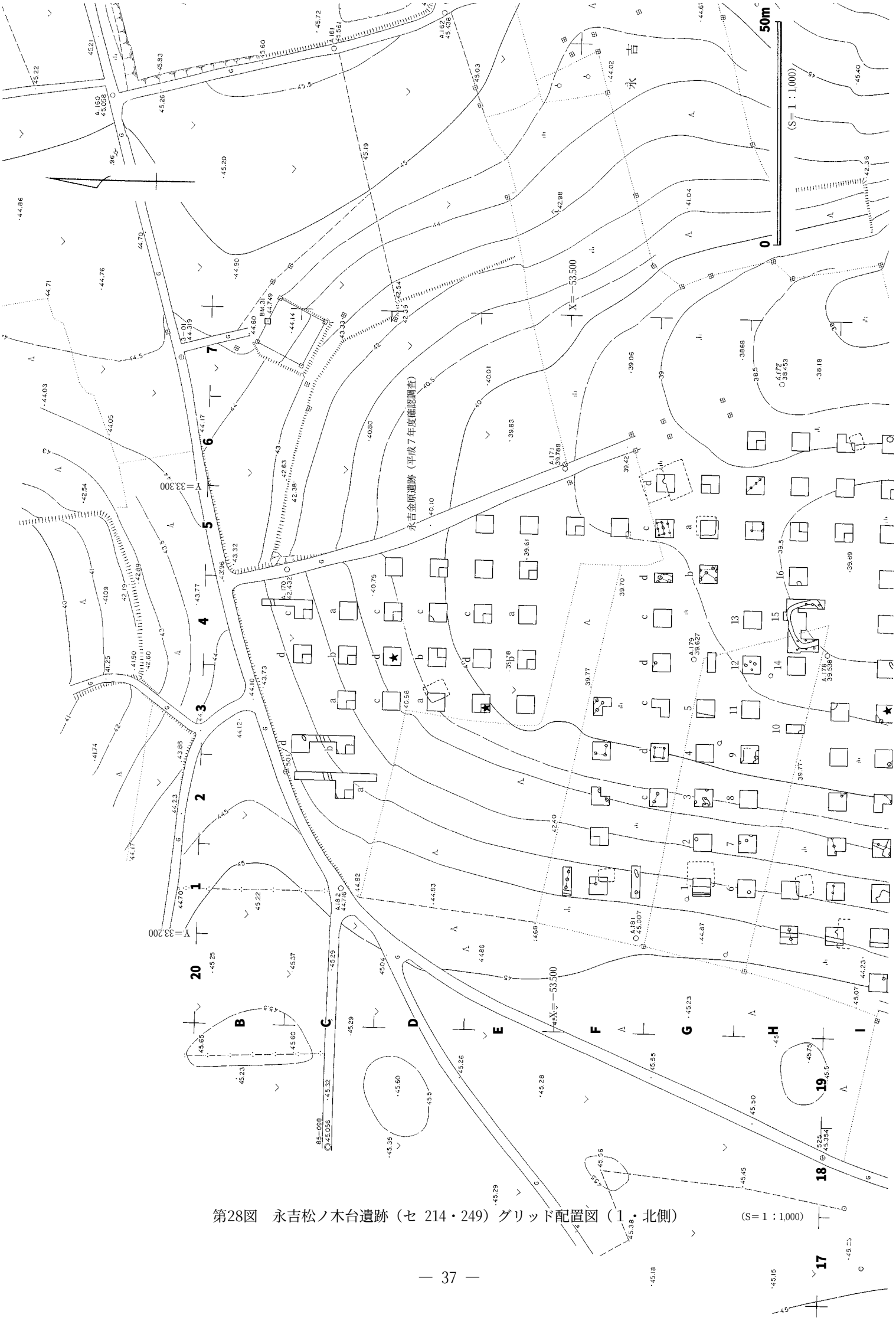


第27図　永吉金原遺跡１次（セ 216）出土遺物（２）

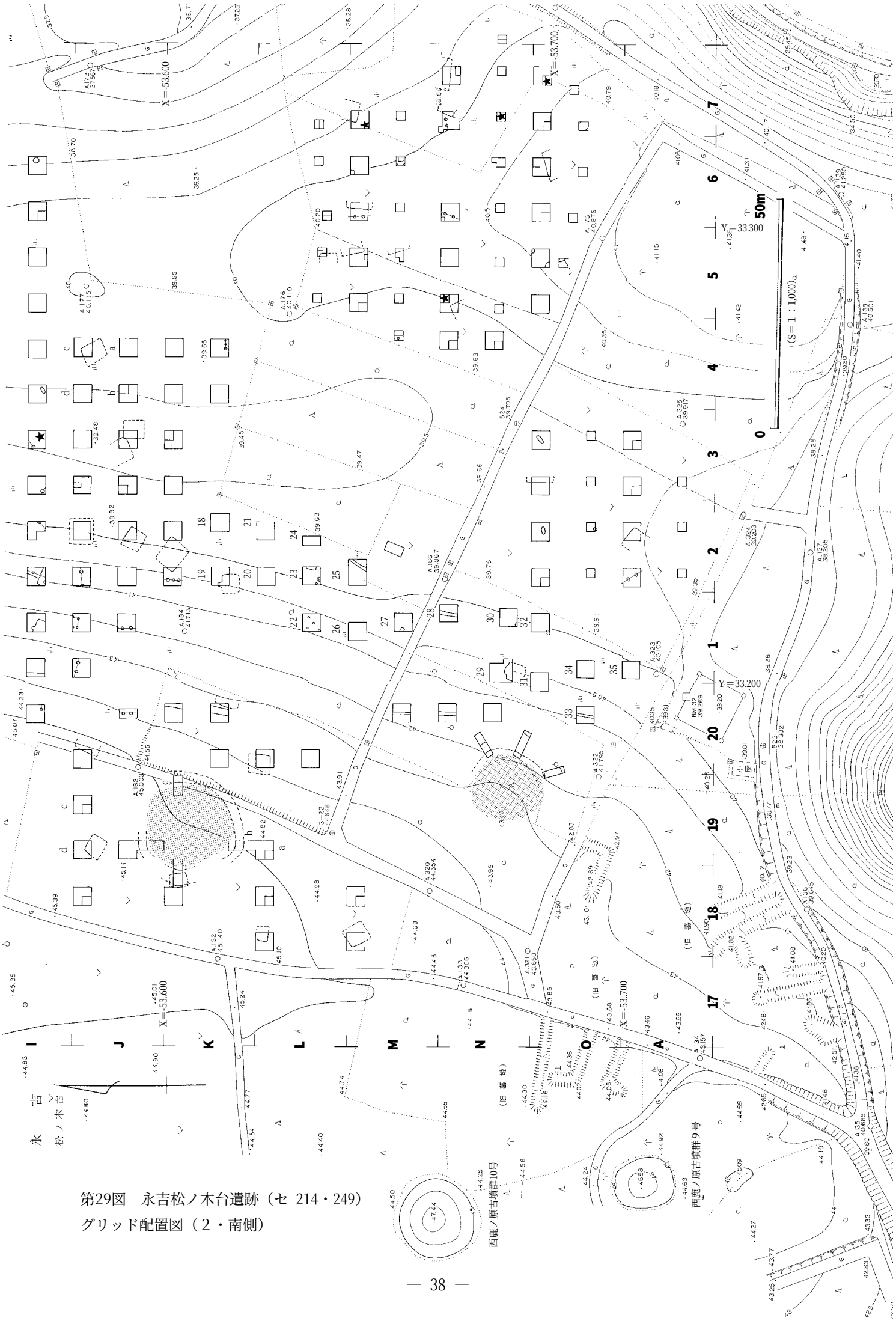
支谷奥にある。支谷底は標高23m～27mあり，遺跡の占地する標高40m～45mの台地上との比高差は約20mである。前述のとおり，金原遺跡１次調査区とは，隣接しており，当遺跡に広がる集落の一部が，金原遺跡のほうにかかっている状況である。調査範囲内には南から大きな埋没谷が入り込む。谷を取り巻く部分ではローム層上面まで30cm程度と浅いのに対して，中央の浅谷内では黒色土が厚く堆積し，120cmを超えている。ただし，奈良･平安時代中心とみられる遺構は30cm～50cmほど下がった黒色土中で確認可能であった。したがって，表土除去は十分注意して行った。

（２）遺構・遺物（第28～31図，図版13・14・23・24）

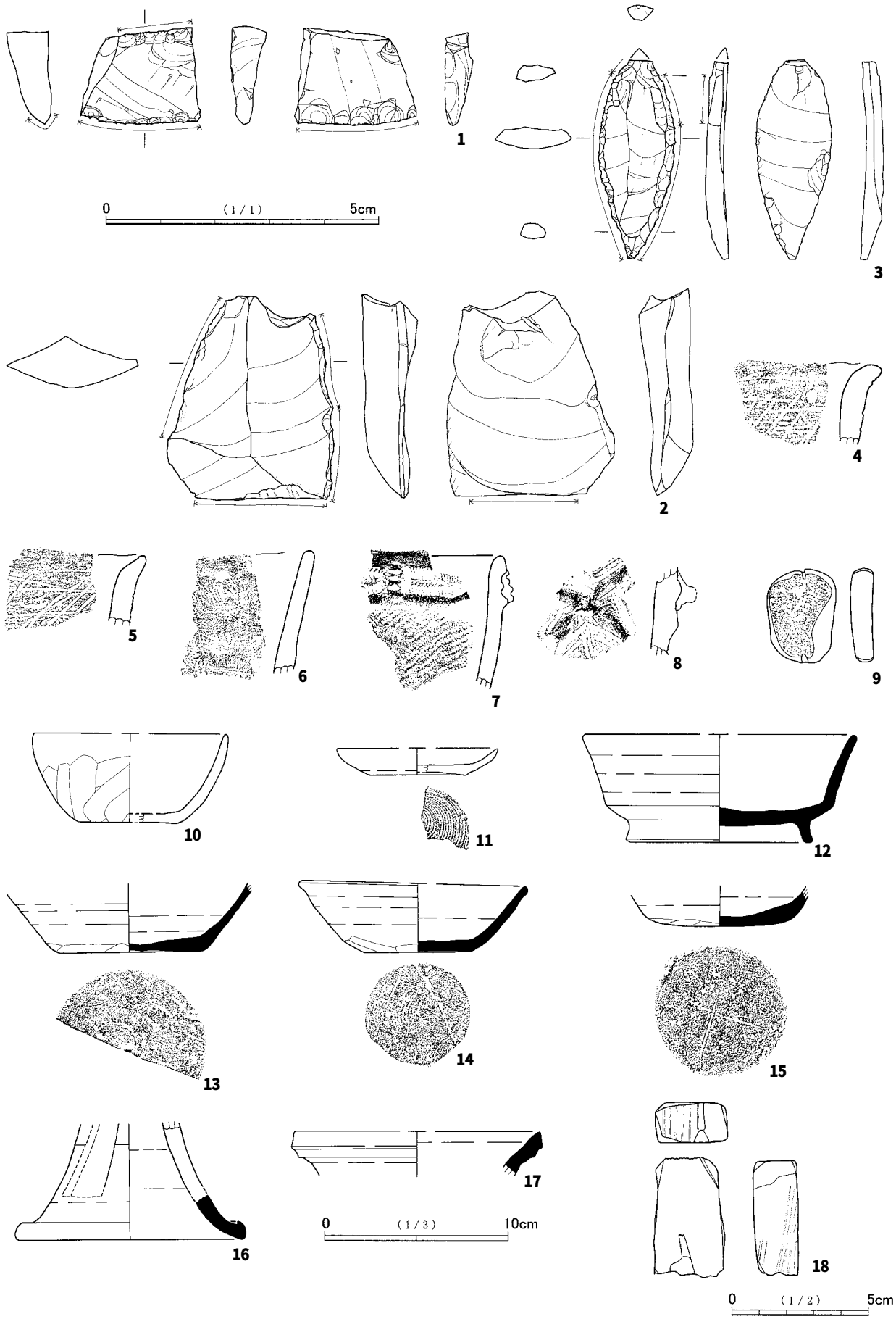
旧石器は星印の地点から出土した。単独出土である。隣接する金原遺跡１次の出土地点と同じ標高であり，占地の共通性を示す。J19・K19区で径25mほどの，N19・O19区で径20mほどの円墳を検出した。等高線には高まりがみられるが盛土は失われていた。これらは西鹿ノ原古墳群に所属し，浅い谷の西側に位置している。山林中には同様な規模で墳丘をもつ古墳が存在している。竪穴住居跡とみられる掘り込みは多くのグリッドで検出されており，奈良・平安時代を中心とした集落が広範囲に展開していた可能性が高い。掘立柱建物跡とみられるピット群も多い。そのほか，時期の明確でない中世以前の溝が，金原遺跡１次調査地区から中央の浅い谷を巡り，当遺跡まで延びてきている。



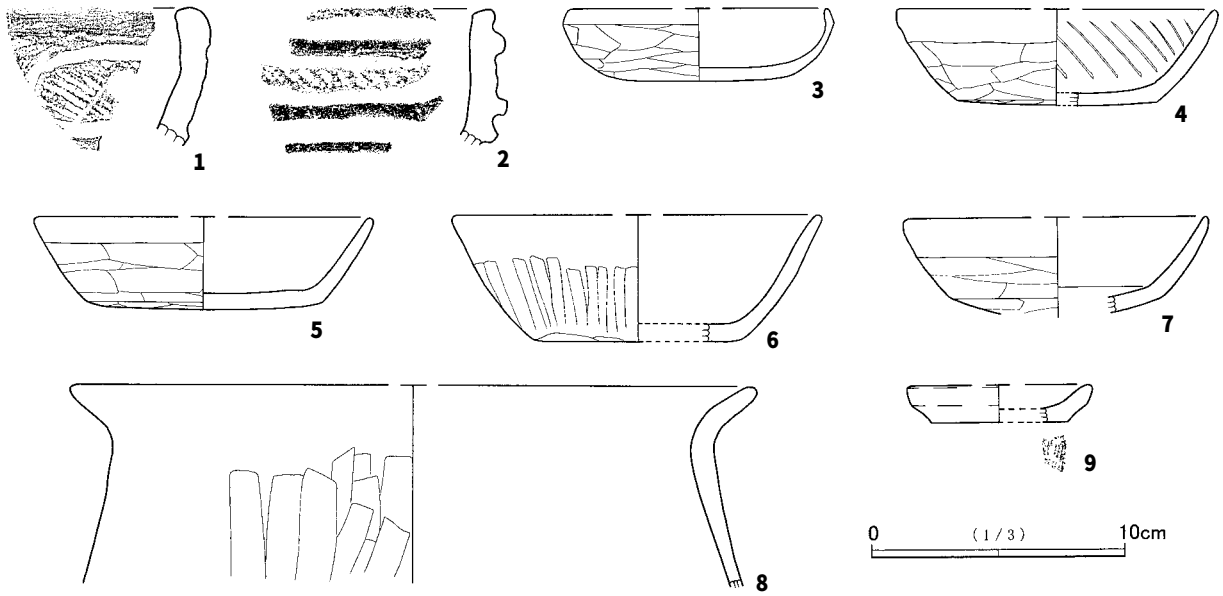
第28図　永吉松ノ木台遺跡（セ 214・249）グリッド配置図（１・北側）　(S＝1：1,000)



第29図　永吉松ノ木台遺跡（セ 214・249）
グリッド配置図（2・南側）



第30図　永吉松ノ木台遺跡１次（セ 214）出土遺物



第31図　永吉松ノ木台遺跡２次（セ 249）出土遺物

遺物は土師器・須恵器が多数出土している。全体ではセ214で約900点，セ249で約250点出土しており，広域に分布している。土師器・須恵器以外の遺物はごく少ない。以下は便宜的に１次・２次に分けて報告する。

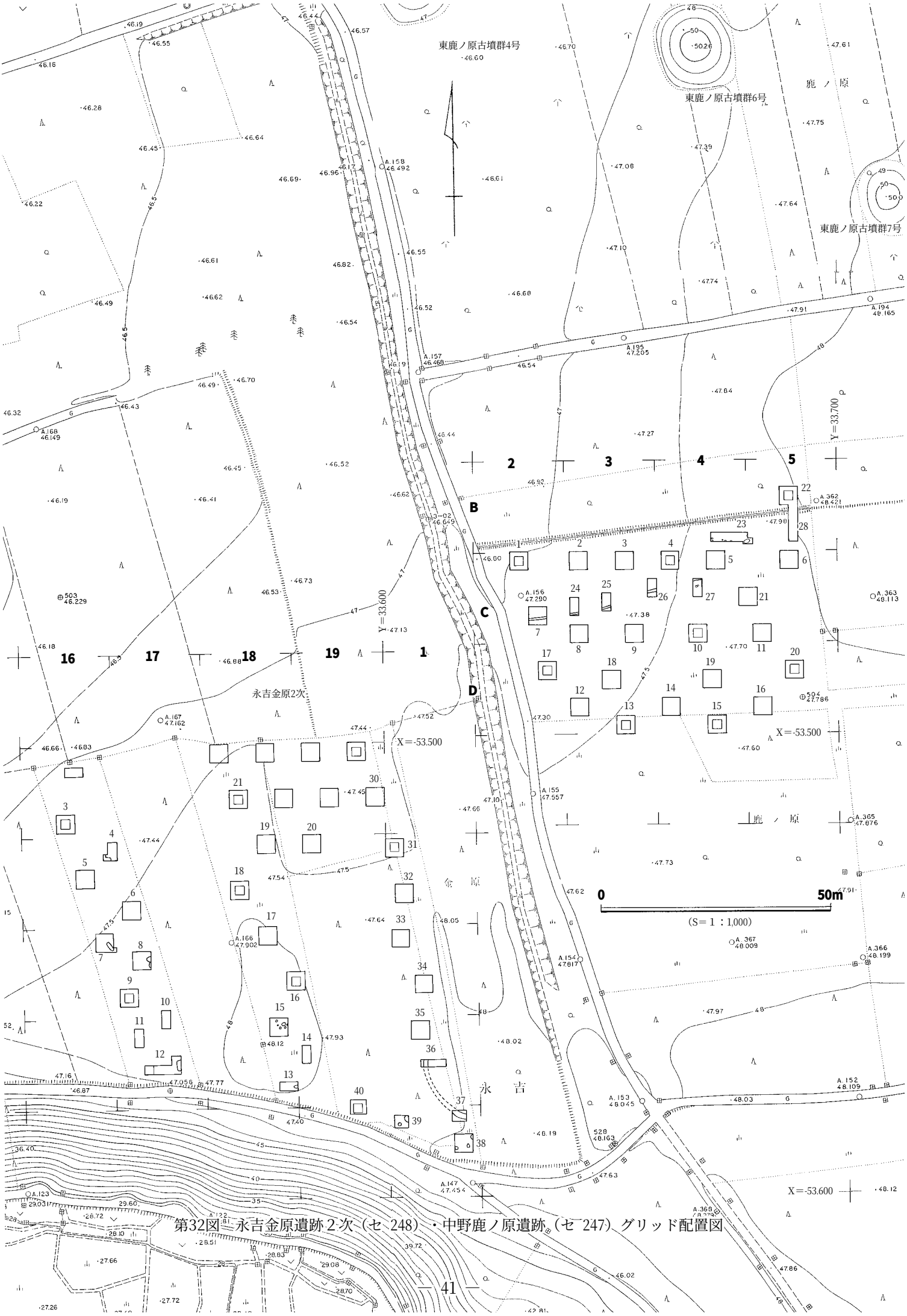
１次調査遺物（セ214，第30図）　旧石器を３点図示したが，いずれも単独の出土である。１は２側縁に，２は２辺に加工をもつ。３は槍先形尖頭器である。４～８は縄文土器である。４・５は内削ぎ状の口唇をもつ早期中葉・沈線文土器である。３は擦痕調整の無文土器であり，同時期のものであろうか。７は中期前葉・狢沢式，８は後期前葉・堀之内であろう。９は中期の土器片を使った土器片錘である。10・11は土師器，12～17は須恵器である。10・12～15は坏で，12は高台をもつ。15の底面にはヘラ記号がある。11は小皿，16は透かしをもつ高杯の脚である。17は小型甕または長頸壷であろう。時期は16が５世紀後半（？），10が８世紀前半，13～16は８世紀後半～９世紀代で，ばらついている。18は砥石である。図示しなかったものには，支脚片，土製丸玉，古代平瓦２点がある（第９表）。

２次調査遺物（セ249，第31図）　１・２は縄文土器である。１は加曽利EⅡ式またはEⅢ式，２は加曽利EⅡ式であろう。３～８は土師器である。３～６は坏，７は高杯，８は甕で，７は５世紀，３は７世紀，４～６は８世紀と推定され，時期はばらついている。９は中世のカワラケである。

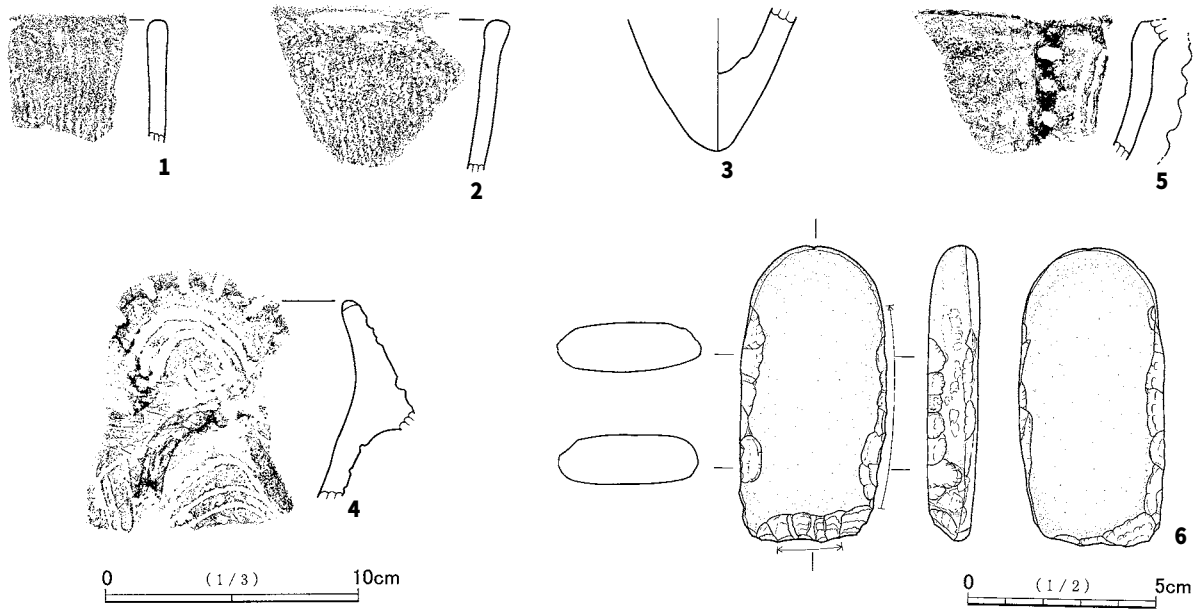
第11節　永吉金原遺跡２次（セ248）

（１）概要（第20・32図，図版15）

永吉金原遺跡については，すでに第９節において１次調査についての記載を行っている。第20図９bの網点部分が２次調査対象範囲の3,900㎡である。調査は，隣接する中野鹿ノ原遺跡（11）から継続して実施した。１次調査区は金原遺跡の東端，２次調査区は西端で，その間は250mほど離れてい



第32図 永吉金原遺跡2次（セ248）・中野鹿ノ原遺跡（セ247）グリッド配置図



第33図　永吉金原遺跡２次（セ 248）出土遺物

る。しかも，１次調査区は永吉松ノ木台遺跡（10）と接しており，２次調査区は中野鹿ノ原遺跡と接している。5,000分の１地形図も別図になるため，別々に報告することとした。南側に底面の標高28mの支谷が入り込み，台地上との比高差は48mある。台地上は南側が若干高く，北西方向に緩く傾斜している。上層遺構確認面のソフトローム上面までは平均50cmであるが，一部では縄文早期の包含層を挟んでいた。

（２）遺構・遺物（第32・33図，図版15・21）

縄文早期の包含層はG16・G17・H16・H17区付近でみられた。H1・I1区にまたがる円墳は，径20mほどある。G12区では須恵器甕の破片が約100点出土した。遺物は，礫と縄文早期前葉・中期前葉の土器が比較的多く出土した。縄文早期前葉・夏島式土器は包含層から出土したものが多いが，分布の密度はそれほど濃くない。第33図１・２は夏島式土器の口縁である。３は早期尖底土器の底部である。４・５は中期前葉・阿玉台式である。６は礫の３片を加工した斧状の石器である。一括取り上げで判然としないが，縄文早期の土器に伴う礫斧であろうか。

第12節　中野鹿ノ原遺跡（セ247）

（１）概要（第20・32図，図版16）

中野鹿ノ原遺跡（県・市遺跡コード：861）は，市原市中野字鹿ノ原台に所在する。第20図11の網点部分が調査対象範囲の3,300㎡である。東鹿ノ原古墳群の南側にあたり，永吉金原遺跡２次調査区（９b）の北東側に隣接する。遺跡は，標高47m，南から北に若干傾斜をもつ台地平坦面に立地する。上層確認面としたソフトローム上面までは平均50cmであった。北側の山林中には墳丘をもつ円墳が点在する（東鹿ノ原古墳群４号・６号・７号墳）。古墳は金原遺跡１次・２次調査区までまばらに見つかっており，当遺跡も古墳群の範囲に入る可能性があるが，今回の調査では古墳は検出されなかった。検出された遺構は近世以降の溝が1条と，時期不明の土坑１基にすぎない。出土遺物は陶磁器類小片１点と礫２点のみで図示できるものがない。

第３章　まとめ

第１節　旧石器時代

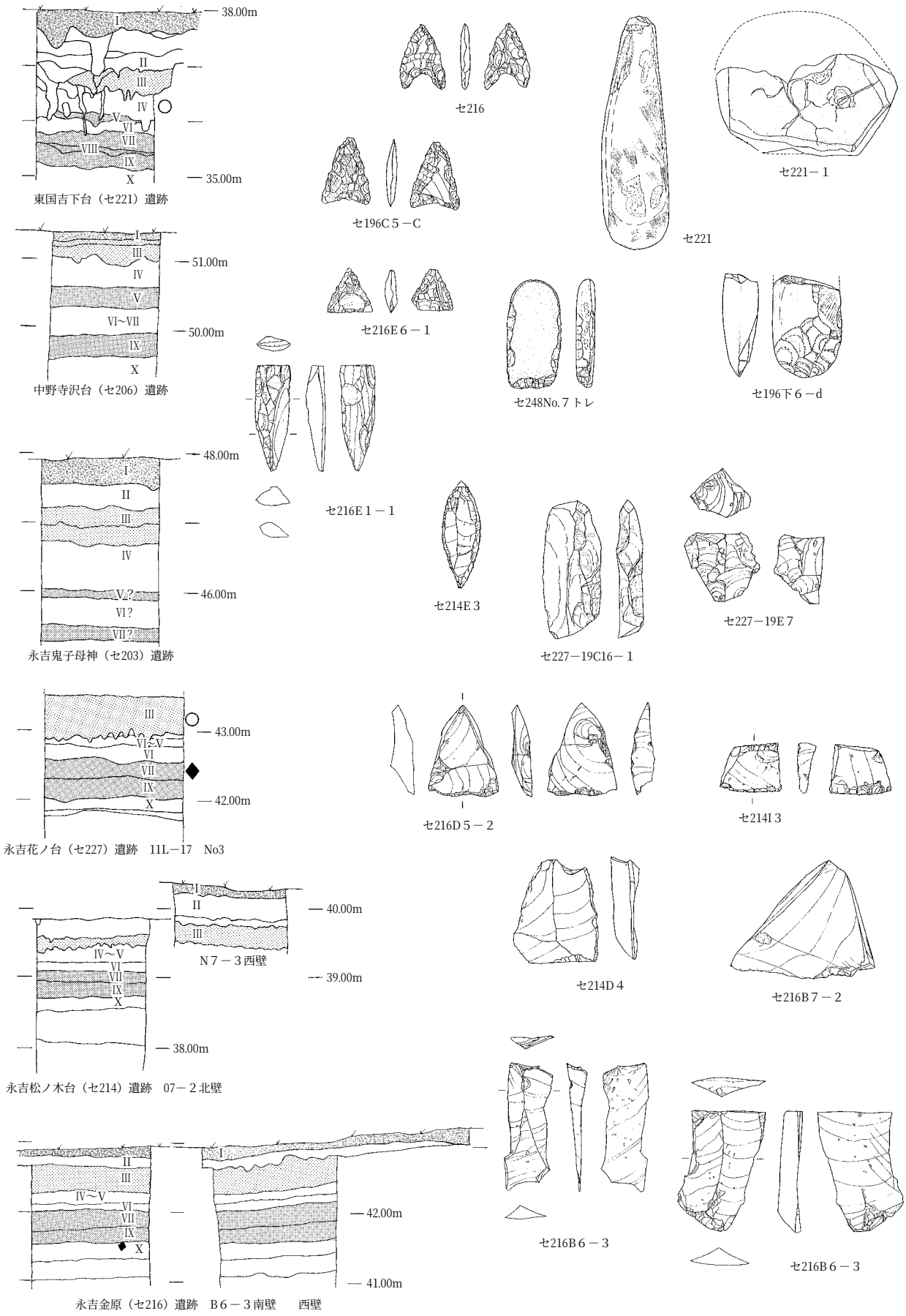
市原市内で旧石器の調査を行ったのは，国分寺台遺跡群の根田代遺跡（安井2005）で，調査年は昭和55年であった。その本報告では土壌の自然科学分析が行われ，姶良丹沢パミス（ＡＴ）層序の確定をして，出土遺物の層位がＡＴ層準下，立川ローム第２ブラックバンド上部Ⅶ層であることを追認している。根田代遺跡の遺物紹介の初出は，根田遺跡で報告されている（田村・橋本1984）。

市原台地上にある根田代遺跡と村田川流域の下総台地上にある市東第一土地区画整理用地内では，段丘面や標高等の立地条件が異なるが，立川ローム層序は基本的には変わりがない，また千葉県域でも基本層位は同じである（橋本1983・島立他1992）。市原市内でも基本層序は，武蔵野台地の基本層序と大きな差はない（近藤1987）。しかし千葉県内の立川ロームの堆積は全層で２m弱程度であり，ソフトロームは従来のⅢ層からさらに深く，Ⅳ層～Ⅴ層まで及ぶこともある。またⅤ層の第１ブラックバンドは色調が明確でないことが多く，したがってⅥ層のＡＴ層準の層厚が判然としない。そのため第２ブラックバンド上部のⅦ層の色調が薄いこともあって，線引きの際Ⅵ層の層厚が拡大する原因になる。それらの層序的混乱をそのまま持ち込んだ形で，市東第一地区の旧石器確認坑の露頭断面図はあるが，断面図は調査担当者の分層のままとし，あえて統一していない。第34図に主な遺跡の断面図を掲載し，表土層を砂目の斜線，ソフトロームを荒い網点，ブラックバンドを濃い目の網点とした。

東国吉下台遺跡では，Ⅱ層に縄文前期の遺物を包含している。○印のⅣ層からは黒いタールの付着した焼礫が２点出土している。Ⅹ以下は水の影響で粘土化しており，段丘面先端の遺跡である。中野寺沢台遺跡と永吉鬼子母神遺跡はⅤ層の第１ブラックバンドが検出されたことになっているが，Ⅴ層以下の層序が両遺跡比べるとかなり違うのがわかる。永吉花ノ台遺跡はⅢ層中の○印に焼礫が出土し，黒菱形の層位からは薄片がまとまって出土している。花ノ台遺跡はバックホーのクラムシェルアタッチメントによって，20cmごとに旧石器の確認調査をおこなって，Ⅲ層からⅥ層の出土資料を得ている。永吉松ノ木台遺跡の１・２次調査面積は調査中最も広いが，検出遺物は少ない。東側に隣接する永吉金原遺跡１次調査では，Ⅸ層下部から黒曜石製の縦長剥片が２点出土している。素材の黒曜石はやや気泡が入り透明な灰色を呈する。一点は断面で検出されたので黒菱形印が出土地点である。Ⅹ層とⅨの境界付近であるが，遺物が黒曜石製である点を考慮すると，Ⅸ層に由来すると考えられる。

千葉県でも最も古い旧石器時代の遺物は，村田川中流右岸の草刈遺跡C区（C-13Bブロック）の第１文化層として報告されている（島立2003）。旧石器時代の草刈遺跡群，六之台遺跡（島立・宇田川1994）は，後期旧石器時代でも古い時期の遺跡が多く，村田川流域はその面でも注目されている地域である。

草刈遺跡東部地区旧石器時代の第２図調査概要図（島立2003）を参考にすると，広い範囲に旧石器時代全般の遺物が，確実に分布する状態が窺える。市東第一地区土地区画整理用地内では，下層旧石器の確認調査遺跡11ヶ所中６遺跡において，旧石器の遺物を検出している。立川ロームⅣ層を代表する礫群も２遺跡で確認しており，今回出土例がなかったナイフ形石器の隆盛期時期の遺跡も存在するであろう。土気緑の森工業団地内の遺跡は当市東地区と草刈地区を挟む形で立地している。それらは立川ロームⅨ層段階から，Ⅲ層段階の全時期を含むことから，中間地点である当報告遺跡群は，同じ様相で展開していると考えられる（西口1994）。



第34図　市東第一土地区画整理事業内土層と層序

第２節　縄文時代

縄文人が当地域で活動の痕跡を数多く残したのは，早期前葉撚糸文期と中期加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期である。早期前葉の土器は調査地点の半数以上で出土しており（第１表），さらに土気緑の森工業団地遺跡群でも多かった（西口1994）。広域に渡って小規模な居住地点が展開している可能性が高い。

中期の土器も半数以上の調査地点から出土している。瀬又川水系には，小規模集落を検出した奈良大仏台遺跡が存在する。また，中野鹿ノ原遺跡に隣接する西鹿ノ原貝塚（第20図星印）では，中期のものとされる２地点の貝層が存在する。出土する土器は加曽利ＥⅡ式とＥⅢ式がほとんどであり，村田川の中流域にはこの時期小規模な集落が多数存在することが明らかになった。これらの遺跡群は，東京湾沿岸や印旛沼水系などに集中する中期の拠点集落の解体，すなわち分散居住型の居住様式への移行を考える上で，きわめて重要である。なぜなら，拠点集落はすべてが加曽利ＥⅡ式末（ないしＥⅢ式のはじめ）で消滅しており，一方で分散居住型の集落は大半がＥⅢ式から始まっていて，ＥⅡ式からＥⅢ式を跨ぐことが確実な集落はほとんど知られていなかったからである。当地域においては，２つの時期を跨ぐ集落がむしろ多数存在しているようである。拠点集落群の中心から離れた地域に，分散居住型の集落がいち早く存在し，その後しばらくは継続したことになる。

第３節　弥生時代から中世

永吉花ノ台遺跡で出土した弥生後期の土器は，数量は少ないが，谷奥への進出を示すものとして重要であろう。古墳時代から奈良・平安時代では，高倉ママダ上で古墳後期と10世紀前半代を中心とした土器が数多く出土している。対岸には９世紀代の操業とされる下片岡須恵器窯跡が存在する。寺沢台遺跡では土器に伴って鉄滓や羽口などの製鉄関連遺物が目立っている。須恵器や鍛冶など生産に関わる集落が比較的多い地域であった可能性がある。中世では，高倉ママダ上遺跡，東国吉下台遺跡，寺沢台遺跡で台地整形部分から中世陶磁器類が出土した。第6表に掲載資料を，第7表に非掲載資料も合わせた組成表を示した。大半は寺沢台遺跡から出土しており，一部12・13世紀に遡る資料が存在するが，中心となるのは14・15世紀代の常滑産甕・片口などの日常雑器である。

引用参考文献

市原郡教育会1985（復刻）「市東村」（千葉県市原郡誌町村誌篇』国書刊行会
伊藤智樹・大谷弘幸他2003『千原台ニュータウンⅧ－市原市草刈遺跡（東部地区縄文時代）－』財団法人千葉県文化財センター
猪股昭喜2003『潤井戸地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－市原市下鈴野遺跡－』財団法人千葉県文化財センター
大谷弘幸・西野雅人2004『千原台ニュータウンＸⅠ－市原市草刈遺跡（C区・保存区）－』財団法人千葉県文化財センター
大村　直1992『市原市奈良大仏台遺跡』財団法人市原市文化財センター
岡崎浩子1997「下総台地の地質」『千葉県の自然誌　本編2千葉県の大地』千葉県
小川和博・横田正美1993「弥三郎第Ⅰ遺跡，文六第１～３遺跡」『土気南遺跡群Ⅳ』財団法人千葉市文化財調査協会
小川浩一1998「永吉鬼子母神遺跡」『市原市文化財センター年報平成７年度』財団法人市原市文化財センター
小川浩一1998「中野寺沢台遺跡」『市原市文化財センター年報平成７年度』財団法人市原市文化財センター
小川浩一1998「永吉松ノ木台遺跡」『市原市文化財センター年報平成７年度』財団法人市原市文化財センター

小久貫隆史1980「序説」『千原台ニュータウン』財団法人千葉県文化財センター
小久貫隆史他1999『市原条里制遺跡』財団法人千葉県文化財センター
小高春雄1999「高田城跡」「押沼城跡」「白船城跡」「大廐堀ノ内」「能満城跡」『市原の城』自費出版
川戸　彰1970「千葉県千葉市辰ヶ台貝塚」『日本考古学年報18』
北見一弘1997「東国吉寺谷遺跡」『市原市文化財センター年報平成６年度』財団法人市原市文化財センター
北見一弘2000a「永吉松ノ木台遺跡」『市原市文化財センター年報平成９年度』財団法人市原市文化財センター
北見一弘2000b「永吉金原遺跡」『市原市文化財センター年報平成９年度』財団法人市原市文化財センター
北見一弘2000c「中野鹿ノ原遺跡」『市原市文化財センター年報平成９年度』財団法人市原市文化財センター
小出紳夫1998「永吉金原遺跡」『市原市文化財センター年報平成７年度』財団法人市原市文化財センター
近藤　敏1987「市原市の先土器時代」『市原市文化財センター研究紀要Ⅰ』（財）市原市文化財センター
櫻井敦史2000「永吉花ノ台遺跡」『市原市文化財センター年報平成８年度』財団法人市原市文化財センター
櫻井敦史2005「市原八幡宮と中世八幡の都市形成－文献・考古・石造物史料から－」『市原市文化財センター研究紀要Ⅴ』財団法人市原市文化財センター
島立　桂・新田浩三・渡辺修一1992「下総台地における立川ロームの層序区分」『研究連絡誌第35号』（財）千葉県文化財センター
島立　桂・宇田川浩一1994「第２章旧石器時代」『千原台ニュータウンⅥ－草刈六之台遺跡』（財）千葉県文化財センター
島立　桂2003『千原台ニュータウンⅩ－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』（財）千葉県文化財センター
高橋康男1994「溝谷遺跡」『平成５年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
高橋康男2000「中野向山遺跡」『市原市文化財センター年報平成８年度』財団法人市原市文化財センター
田所　真2000「東国吉下台遺跡」『市原市文化財センター年報平成８年度』財団法人市原市文化財センター
田中清美1987『川中遺跡』財団法人市原市文化財センター
田村　隆・橋本勝雄1984『房総考古学ライブラリー１先土器時代』（財）千葉県文化財センター
田村　隆2000「旧石器時代」『千葉県の歴史資料編考古１（旧石器・縄文時代）』千葉県
千葉県文化財センター1999『千葉県埋蔵文化財分布地図（３）』
塚原勇人・飛田正美2004「荻生道遺跡」『千葉市昭和の森遺跡群Ⅰ』財団法人千葉市教育振興財団
寺門義範他1989『千葉市辰ヶ台・住吉・東住吉遺跡－昭和の森遺跡群昭和60・61年度報告書－』財団法人千葉市文化財調査協会
寺門義範1991『千葉市神門遺跡』財団法人千葉市文化財調査協会
西口　徹1994『土気緑の森工業団地』財団法人千葉県文化財センター
沼澤　豊1975「位置と構成」『千葉東南部ニュータウン１』財団法人千葉県文化財センター
村田六郎太1996「鐘つき堂遺跡」『土気南遺跡群Ⅶ 南河原坂窯跡群 鐘つき堂遺跡』財団法人千葉市文化財調査協会
橋本勝雄1983「立川ローム層の層序区分」『研究連絡誌第５号』（財）千葉県文化財センター
半田堅三1997「東国吉大門遺跡」『市原市文化財センター年報平成６年度』財団法人市原市文化財センター
半田堅三1997「高倉ママダ上遺跡」『市原市文化財センター年報平成６年度』財団法人市原市文化財センター
宮本敬一1999『市原の遺跡⑴史跡上総国分寺跡－国分僧尼寺とその時代』財団法人市原市文化財センター
安井健一2005「旧石器時代」『市原市根田代遺跡』市原市教育委員会（財）市原市文化財センター
簗瀬裕一2003「東国の戦国城館成立期におけるひとつの実像－千葉市生実城跡の調査成果から－」『千葉城郭研究第７号』千葉城郭研究会
簗瀬裕一2000「小弓公方足利義明の御座所と生実・浜野の中世城郭」『千葉城郭研究第６号』千葉城郭研究会
簗瀬裕一2003「東国の戦国城館成立期におけるひとつの実像－千葉市生実城跡の調査成果から－」『千葉城郭研究第７号』千葉城郭研究会

第２表　石器

図で－は挿図なしで表で掲載。一部は写真図版もあり。計測値は最大・mm，重量はｇ。

表№	遺跡	図	№	位置	注記	時期	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	素材構成	遺存度	被熱	折れ(割れ)面	使用痕	備考
1	セ196	7	1	G08	G08-a-プレ-2	旧石器	剥片	ホルンフェルス	24.4	46.7	10.1	10.1	横長剥片		なし	なし	全面	ソフト上面より-140～160cm
2	セ196	7	2	F06	F06-d-2	縄文？	礫斧	ホルンフェルス	72	49.5	26.5	127.5	自然礫片面調整	基部欠損	なし	古い	風化顕著	Ⅱ層下部出土
3	セ196	7	3	G07	G07-a-2	縄文？	礫斧	ホルンフェルス	31.9	36.5	8.6	11.3	自然礫片面調整	基部欠損刃部のみ	なし	古い	風化顕著	覆土
4	セ196	7	29	C05	C05-c-3	縄文	石鏃凹基	チャート	24.9	17.4	3.4	1.4	自然礫面残存調整	先端欠損	なし	古い		Ⅱ層下部出土
5	セ196	7	30	E05	E05-c-2	縄文	錐(針状)	チャート	21.2	4.2	2.9	0.2	剥片	完形	なし	なし		Ⅱ層下部出土
6	セ196	－	－	E05	E05-c-2	縄文	剥片	珪質頁岩	18.1	14.7	4.2	1	調整剥片		なし			覆土
7	セ196	－	－	E05	E05-c-2	縄文	剥片	チャート(灰緑色)	23.5	20.9	6.8	2.4	調整剥片		なし	なし		〃
8	セ196	－	－	E05	E05-c-SI1	縄文	チップ	チャート	－	－	－	0.1			なし			覆土一括採集
9	セ196	－	－	E05	E05-c-SI1	縄文	〃	〃	－	－	－	0			なし			覆土一括採集
10	セ196	－	－	E05	E05-c-SI1	縄文	〃	〃	－	－	－	0			なし			覆土一括採集
11	セ196	－	－	E05	E05-c-SI1	縄文	〃	〃	－	－	－	0			なし			覆土一括採集
12	セ196	－	－	E05	E05-c-SI1	縄文	〃	〃	－	－	－	0			なし			覆土一括採集
13	セ221	13	11	一括	一括	縄文前期？	磨製石斧	硬質細粒凝灰岩	168	50	30	391	長辺礫	完形	なし		片面ガジリ多し	前面に整形擦痕
14	セ221	13	12	一括	一括	縄文前期？	凹石	軟質細粒凝灰岩	128.4	72.6	40.5	469	板状礫	半分以上欠損？	？	摂理面剥離	窪み形成	軟質使用に耐えるか？幅は現状
15	セ221	13	－	F14	F14-2-15-31	旧石器	礫	硬質中粒凝灰岩	94.6	89.3	43.1	627	礫	長端部欠損	あり	ありタール付着	端部敲打	Ⅳ層礫群下部ローム付着
16	セ221	13	－	F14	F14-2-15-32	旧石器	礫	硬質中粒凝灰岩	77.5	57.8	48.2	301	礫	長端部欠損	あり	ありタール付着	端部敲打	Ⅳ層礫群下部ローム付着
17	セ227	24	1	E19	E19-7	旧石器	石核	黒曜石	26.1	26.9	17.8	8.3	石核残核	半欠け？				ソフトローム層出土
18	セ227	24	2	C19	C19-16-1-42	旧石器	加工剥片	ホルンフェルス	42.1	32.8	8.7	14.1	残原礫面縦長剥片	完形	なし	なし	風化顕著	クラム確認１層
19	セ227	24	6	C19	C19-16	縄文	石鏃平基	珪質頁岩(黒色)	36.2	18.1	6.5	3.8	横長剥片	完形	なし？	打瘤除去	最先端欠損	
20	セ227	24	15	P20	P20-20	古代以降	管玉	滑石(灰緑色)	21	6.7	6.2	1.7	角棒状剥片素材	穿孔時一端部欠損			端部ガジリ	横長剥片素材使用
21	セ227	－	－	C19	C19-16-1-49	旧石器	剥片	硬質細粒凝灰岩	38.1	16.6	11	5.7	調整剥片	ガジリ	なし			クラム確認１層ソフト上面－20cm
22	セ227	－	－	C19	C19-16-1-50	旧石器	石核	硬質細粒凝灰岩	36.4	24.4	14.2	10.9	石核残核	完形半欠	なし	打面調整あり		クラム確認１層
23	セ227	－	－	C19	C19-16-1-41	旧石器	剥片	ホルンフェルス	51.5	41.9	9.9	17.5	幅広剥片	完形	なし	なし	風化顕著	クラム確認１層
24	セ227	－	－	C19	C19-16-1-43	旧石器	剥片	ホルンフェルス	32.8	28.9	8.6	9.7	側縁原礫面剥片	完形	なし	先端折り取り？	風化顕著	クラム確認１層
25	セ227	－	－	C19	C19-16-1-44	旧石器	残核	ホルンフェルス	44.2	33.9	20.2	22	側縁原礫面	完形	なし	先端ガジリ	風化顕著	クラム確認１層
26	セ227	－	－	C19	C19-16-1-45	旧石器	剥片	ホルンフェルス	34.1	21	12.3	9.1	側縁原礫面	完形	なし	先端調整	風化顕著	クラム確認１層
27	セ227	－	－	C19	C19-16-1-46	旧石器	剥片	ホルンフェルス	30	32.1	7	7.4	幅広剥片	完形	なし	なし	風化顕著	クラム確認１層
28	セ227	－	－	C19	C19-16-2-35	旧石器	加工剥片	頁岩(黒色)	48.7	21.8	9.4	11.1	縦長剥片	完形端部ガジリ	あり？	なし	風化顕著	クラム確認２層　－40cmタール付着
29	セ227	－	－	C19	C19-16-2-51	旧石器	剥片	チャート	22.1	23.8	11.8	5.6	小円礫分割	完形	なし	なし	側縁部刃毀れ	クラム確認２層
30	セ227	－	－	C19	C19-16-2-40	旧石器	剥片	ホルンフェルス	53.5	35.8	18.8	32.4	分割剥片	完形	なし	なし	風化顕著	クラム確認２層
31	セ227	－	－	C19	C19-16-2-47	旧石器	剥片	ホルンフェルス	34.4	27	11.3	8.7	側縁原礫面剥片	完形	なし	なし	風化顕著	クラム確認２層
32	セ227	－	－	C19	C19-16-3-52	旧石器	加工剥片	珪質頁岩	30	26.4	8.7	5.3	縦長剥片	完形	なし	先端折り取り	なし	クラム確認３層－60cmまで
33	セ227	－	－	C19	C19-16-4-48	旧石器	剥片	ホルンフェルス	51.5	41.8	18.9	26.7	分割剥片	完形	なし	なし	なし	クラム確認出土標高37.048m
34	セ227	－	－	L11	L11-18-2	旧石器	剥片	硬質細粒凝灰岩	21.5	13.5	5.5	1.1	幅広剥片	完形	なし	なし	風化顕著	ソフトローム層出土
35	セ227	－	－	L11	L11-18-3	旧石器	剥片	ガラス質安山岩(黒色)	44.8	30.7	10.8	16.1	側縁原礫面剥片	完形	なし	なし	風化顕著	ソフトローム層出土
36	セ227	－	－	L11	L11-18-4	旧石器	剥片	軟質細粒凝灰岩	23.3	20.7	11.5	5.4	側縁原礫面剥片	完形	なし	端部ガジリ	風化顕著	ソフトローム層出土
37	セ227	－	－	L11	L11-18-5	旧石器	剥片	ガラス質安山岩(黒色)	35.4	28.6	13	9.8	背面原礫面	完形	なし	なし	なし	ソフトローム層出土
38	セ227	－	－	D19	D19-16-3	旧石器	石核	メノウ(万田野産)	15.1	24.1	10.9	43.5	残核	完形	なし	なし	なし	撹乱出土
39	セ227	－	－	D19	D19-17-3	旧石器	石核	メノウ	47	32.8	21	7.2	礫	完形	なし	なし	なし	ソフトローム上面から-140～160cm
40	セ227	－	－	E19	E19-17-№プレ	旧石器	礫	火山礫凝灰岩	88	42.7	42.2	208	礫	完形	なし	礫面擦痕	敲打痕	Ⅶ層出土
41	セ216	26	1	B06	B06-3-プレ-5	旧石器	使用剥片	黒曜石	46.6	16.3	4.8	3	縦長剥片打面除去	完形	なし	打面折り取り	右辺、左辺上	Ⅹ層上部出土
42	セ216	26	2	B06	B06-3-プレ-5	旧石器	使用剥片	黒曜石	44.2	26.2	7.4	8.2	縦長剥片打面除去	完形	なし	下端部折り取り	左右辺	Ⅹ層上部出土
43	セ216	26	3	B07	B07-2-プレ-2	旧石器	使用剥片	硬質頁岩	52.4	51.8	20.2	27.8	残原礫面残核	完形	あり	古い	下辺刃こぼれ	
44	セ216	26	4	D05	D05-2-19	旧石器	掻器	黒曜石	3.48	26.4	9.2	7.1	縦長剥片折り取り	完形	なし	二等辺三角形状	風化顕著	打面遺存
45	セ216	26	5	E01	E01-1-24	縄文草創期	尖頭器	ガラス質安山岩(黒色)	38	12.9	6.7	3.5	大型剥片	先端欠損	なし	先端部分	目立たず	表面ローム付着
46	セ216	26	15	E06	E06-1-23	縄文草創期？	石鏃平基	黒曜石	15.3	15.2	4.3	0.9	残原礫面剥片	右下端欠損	なし		２端部欠損	腹部中央ブランク残す
47	セ216	26	16	一括	一括	縄文中期？	石鏃凹基	黒曜石	24.6	16.2	3.8	1.2	小型剥片	完形	なし			やや非対称再生途上か？
48	セ216	－	－	B07	B07-2	旧石器	調整剥片	珪質頁岩	21.4	4.5	3.4	0.4	削片		なし			表面ローム付着
49	セ216	－	－	B07	B07-2	旧石器	砕片	〃	－	－	－	0.1	屑片		なし			
50	セ214	30	1	I03	I03-4	旧石器	削器？	黒曜石	21.6	16.2	6	2.7	横長剥片切断	完形	なし	両端		
51	セ214	30	2	D04	D04-1	旧石器	加工剥片	硬質頁岩(茶色)	36.9	31.7	6.9	9.4	縦長剥片	完形	なし		左辺刃こぼれ	
52	セ214	30	3	E03	E03-2	旧石器	尖頭器	硬質頁岩(灰緑茶色)	36.2	13.9	3.8	2.4	縦長剥片	完形	なし			打面遺存周辺加工
53	セ214	30	18	G05	G05-4	古代以降	砥石	流紋岩質凝灰岩	44	26.8	16	35	切り出し	半分以上欠	なし	古い	端部なし	
54	セ214	－	－	I03	I03-4	旧石器	調整剥片	〃	19.2	14	4.8	0.9	打面原礫面残存		なし	右端		
55	セ248	33	6	一括	一括	縄文	礫斧	硬質砂岩	78.9	39.5	13.6	73.9	扁平礫	完形	なし	なし	側面敲打痕	

第３表　縄文土器

セ№	図	№	時期１	時期２	器種	部位	位置	注記	観察事項
セ196	7	4	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	F06	F06-b	LR密に重畳施文
セ196	7	5	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	F06	F06-d	口唇外反。内面→内面上端ケズリ。外面RL施文不良
セ196	7	6	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	F06	F06-d	縄文重畳施文。原体不明
セ196	7	7	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	G07	G07-b	縄文重畳施文。原体不明
セ196	7	8	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	G07	G07-b-20	縄文重畳施文。原体不明
セ196	7	9	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	G07	G07-d	口唇折り返し→下端指押圧。RL?節大，接触不良
セ196	7	10	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	G07	G07-c	口唇肥厚。RL?重畳施文
セ196	7	11	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	G07	G07-b	口唇外反orやや肥厚。口唇やや下から撚糸文密施文
セ196	7	12	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	G07	G07-c	撚糸文粗く施文。器壁歪み顕著
セ196	7	13	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	F06	F06-d	撚糸文粗く施文→口唇近くナデ。器壁歪み顕著
セ196	7	14	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	G07	G07-a	口唇やや外反，撚糸文やや粗に施文
セ196	7	15	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	G07	G07-b	撚糸文粗く施文→口唇近くナデ
セ196	7	16	早期前葉	稲荷台	深鉢	口縁	G07	G07-c	原体太い撚糸文を粗に施文
セ196	7	17	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	E05	E05-c	キャリパー形。隆帯（一部で＋沈線）区画内RLタテ→ヨコ充填，胴部RLタテ施文
セ196	7	18	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	G07	G07-a-SK5-52,58	キャリパー形。隆帯＋沈区画内RL充填
セ196	7	19	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	G07	G07-a-SK5-38,27	キャリパー形?。沈線区画内RL
セ196	7	20	中期中葉or後葉	加曽利EⅡorⅢ	深鉢	口縁	B03	B03-a	浅い沈線区画内にRL
セ196	7	21	中期後葉	加曽利EⅢ	深鉢	口縁	B03	B03-a	浅い沈線区画内にRL・LR
セ196	7	22	中期	加曽利E	深鉢	口縁	E05	E05-c	RLタテ粗に施文→沈線タテ区画→ヨコ区画→口縁部にRLヨコ充填
セ196	7	23	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	胴	B02	B02-a	連弧文系。集合沈線による弧状文。LRL
セ196	7	24	中期後葉	加曽利EⅢ	深鉢	胴	B03	B03-a	両側なぞりによる微隆帯。RL
セ196	8	25	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	完形	B02	B02-a	無文鉢。強く屈曲した外反口縁。口縁歪み（傾き）顕著
セ196	8	26	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁～胴	E05	E05-c-5	４単位橋状把手。隆帯＋沈線区画。RLタテ。頸～胴下部一周遺存
セ196	8	27	後期中葉	加曽利B	鉢	口縁	C05	C05-b	突起もつ口縁。入念なミガキ→沈線区画→単沈線充填→口縁部再度ミガキ
セ196	8	28	後期中葉	加曽利B	深鉢	口縁	B02	B02-a	粗文系土器。口唇直下に指押捺もつ紐線。胴部LR
セ193	11	1	早期前葉	井草	深鉢	口縁	一括	－	口唇強く外反。内面上端原体圧痕・LR，外面上端LR，外面撚糸文横施文。上に原体圧痕
セ193	11	2	早期前葉	井草	深鉢	口縁	一括	－	口唇強く外反。丁寧なナデ→口唇上端LR・RL，外面LR粗に施文
セ193	11	3	早期前葉	井草	深鉢	口縁	一括	－	口唇肥厚・上端平坦。上端LR→外面RL→口唇外面RL施文不良
セ193	11	4	前期前葉	関山	深鉢片口付	口縁	一括	－	波状口縁，上向きの片口付。末端環付縄文多段施文，以下付加縄文?。繊維含む
セ193	11	5	前期前葉	関山	深鉢	口縁	一括	－	波状口縁。口縁原体不明縄文横帯形成，以下LR・RL羽状施文。繊維含む
セ193	11	6	前期中葉	黒浜	深鉢	口縁	一括	－	歪んだ口縁。付加条縄文羽状施文。。繊維含む
セ193	11	7	前期前葉	関山	深鉢	口縁	一括	－	歪んだ口縁。足長末端環付縄文RLによる幅広区画。繊維含む
セ193	11	8	中期初頭		深鉢	胴	一括	－	LR縦横施文→原体圧痕による区画，山形意匠文
セ193	11	9	中期前葉	阿玉台	深鉢	口縁	一括	－	隆帯＋単角押文区画内，複列角押文波状施文
セ193	11	10	中期前葉	阿玉台	深鉢	口縁	一括	－	結節沈線区画内，結節沈線充填
セ221	13	1	前期中葉	黒浜	深鉢	口縁	F14	F14-2	平縁外反。LR・RL羽状施文，解けた原体端部による結節回転圧痕付属。口縁・頸に円形刺突列区画。繊維含む
セ221	13	2	前期中葉	黒浜	深鉢	口縁	F14	F14-2-18	平縁。RLヨコ。繊維含む?
セ221	13	3	前期中葉	黒浜	深鉢	口縁	F15	F15-3	平縁やや外反。LRタテ。繊維含む
セ221	13	4	前期中葉	黒浜	深鉢	頸	F15	F15-3	頸部屈曲。重畳する沈線区画。RLヨコ。繊維含む
セ221	13	5	前期中葉	黒浜	深鉢	口縁	E14	E14-1	平行沈線区画内平行沈線充填。刺突。繊維含む
セ221	13	6	前期中葉	黒浜	深鉢	口縁	E14	E14-2-12	３本平行沈線意匠文。繊維含む
セ221	13	7	前期中葉	黒浜	深鉢	胴	E15	E15-P1	平行沈線区画→波状平行沈線意匠文重畳
セ221	13	8	前期中葉	黒浜	深鉢	胴	F15	F15-1-12	平縁。RLヨコ。内面調整ごく弱いナデ。繊維含む
セ221	13	9	前期中葉	黒浜	深鉢	胴	F15	F15-1-31	LR・RL羽状施文。繊維含む
セ221	13	10	中期中葉	大木8a?	深鉢	頸	F15	F15-1-45,46,95	大破片は頸部以上，小片はその下か。沈線4・波状沈線により頸部区画。RL→沈線意匠文。タテ区画隆帯上もRL
セ206	16	1	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	A06	A06-a	キャリパー形。隆帯＋沈区画内RL充填
セ206	16	2	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	O06	O06-d	キャリパー形。隆帯＋沈区画内RL充填
セ206	16	3	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	N06	N06-3	キャリパー形。隆帯＋沈区画内LRL充填
セ206	16	4	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	O06	O06-d	キャリパー形胴部。RLタテ充填
セ206	16	5	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	A06	A06-a	キャリパー形波状口縁。
セ206	16	6	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	胴	一括	－	RLタテ→沈線
セ206	16	7	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	胴	O06	O06-d	キャリパー形胴部。LRLタテ
セ206	16	8	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	胴	O06	O06-d	胴部文様帯もつキャリパー形頸部。隆帯＋沈線区画内LRL
セ206	16	9	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	胴	O06	O06-d	キャリパー形胴部。RLタテ
セ206	16	10	後期初頭～前葉		深鉢	口縁	一括	－	刺突列区画。タテ沈線内に7本歯櫛状工具による集合沈線文様
セ206	16	11	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	胴	O06	O06-d	連弧文系？弧状沈線文，集合沈線
セ206	16	12	晩期前半	安行3a	深鉢	口縁	A11	A11-a	平縁。帯縄文＋沈線区画，ブタ鼻状突起
セ206	16	13	後期中葉	加曽利B	深鉢	口縁	O11	O11-d	口縁や下に指押圧もつ紐線。縄文施文→粗い条線
セ226	19	1	早期後葉	鵜ヶ島台	深鉢	頸	一括	2T土坑	微隆帯区画内，押引文充填。口縁・頸部に文様帯。内面条痕。繊維含む

セ226	19	2	早期後葉	鵜ヶ島台	深鉢	頸	C17	C17-d	口縁部沈線意匠文。内外面条痕。繊維含む
セ226	19	3	早期後葉	鵜ヶ島台	深鉢	口縁	C17	C17-d	沈線区画内沈線充填。口唇刻み。外面条痕。内面荒いナデ
セ226	19	4	中期初頭		深鉢	口縁	F17	F17-a	口唇上原体圧痕。LRタテ
セ226	19	5	早期後葉	条痕文	深鉢	口縁	C17	C17-d	口唇上刻み。内外面条痕
セ226	19	6	早期後葉	条痕文	深鉢	口縁	C17	C17-d	口唇上フネガイ科殻頂・腹縁圧痕。内外面条痕
セ227	24	3	前期中葉	黒浜	深鉢	口縁	C19	C19-17-7	歪んだ平縁。RL。繊維含む
セ227	24	4	中期前葉	狢沢	深鉢	口縁	L11	L11-18	4・5同一個体。隆帯＋密な押引・意匠文。交互刺突による半隆起線
セ227	24	5	中期前葉	狢沢	深鉢	口縁	L11	L11-16	4・5同一個体
セ216	27	6	早期中葉	田戸下層	深鉢	口縁	H07	H07-SI5	小形深鉢。鋭い平行沈線区画・山形意匠文。補修孔
セ216	27	7	中期初頭		深鉢	口縁	一括	26G	無節L，結節回転文
セ216	27	8	中期前葉	狢沢	深鉢	口縁	一括	35G	隆帯＋複列角押文楕円区画内押引文充填
セ216	27	9	中期前葉	勝坂1	深鉢	口縁	一括	05G	隆帯＋複列密な角押文三角区画
セ216	27	10	中期前葉	阿玉台	深鉢	口縁	一括	21G	大波状口縁。幅広角押文区画，波状沈線
セ216	27	11	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	一括	14G	キャリパー形。隆帯＋沈区画内LR（!）充填
セ216	27	12	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	一括	09G	隆帯＋沈線区画。RL
セ216	27	13	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	一括	14G	曽利系，頸部。隆帯区画，集合沈線
セ216	27	14	中期中葉or後葉	加曽利EⅡorⅢ	深鉢	口縁	一括	09G	キャリパー形。波状口縁。隆帯＋沈区画内RL充填
セ214	30	4	早期中葉	沈線文	深鉢	口縁	E04	E04-2-138	口縁外反。集合沈線。外面に豆粒様の圧痕?
セ214	30	5	早期中葉	沈線文	深鉢	口縁	E04	E04-4-16	口縁外反。集合沈線
セ214	30	6	早期中葉	沈線文	深鉢	口縁	G05	G05-2-79	歪んだ口縁。外面擦痕，内面ごく粗い調整
セ214	30	7	中期前葉	狢沢?	深鉢	口縁	C03	C03-4-131	隆帯楕円区画内に剣先状押引文。RL
セ214	30	8	後期前葉	堀之内	深鉢	口縁	E04	E04-3-197	隆帯＋平行沈線区画。後期前葉?
セ214	30	9	中期前葉～中葉		土器片錘	―	一括	―	阿玉台or加曽利E式土器転用。RL
セ249	31	1	中期中葉or後葉	加曽利EⅡorⅢ	深鉢	口縁	一括	35G	キャリパー形。隆帯＋沈区画内RL充填
セ249	31	2	中期中葉	加曽利EⅡ	深鉢	口縁	一括	35G	キャリパー形。隆帯＋沈区画内RL
セ248	33	1	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	一括	38G-35	縄文?重畳施文。原体不明。内外面劣化
セ248	33	2	早期前葉	夏島	深鉢	口縁	一括	38G-35	口唇肥厚。RL重畳施文
セ248	33	3	早期前～中葉		深鉢	底	一括	08G	尖底部。外面タテミガキ
セ248	33	4	中期前葉	阿玉台	深鉢	口縁	一括	15G-3	朝顔形把手もつ大波状口縁。隆帯＋結節沈線区画内結節沈線充填。把手上刻み，文様は沈線
セ248	33	5	中期前葉	阿玉台	深鉢	口縁	一括	35G	強く外反する口縁部剥離，偽口縁あり。隆帯＋角押文区画

第４表　縄文土器集計

遺跡	グリッド	合計	01群	02群	03群	04群	05群	6-8群	09群	10群	14群	15群	15-17群	17-18群	縄文のみ	沈線のみ	無文
セ196	合計	486	150	2						171		4	2		120	13	24
	E5	68	1							41					15	7	4
	F6	39	15							5			1		17		1
	F7	20	6							3		1			7		3
	G7	223	122							52					41		8
	G8	20	5							6					9		
セ193	合計	49	8			14	1		17	3	1	1	4				
セ221	合計	175			6	118	4		5		1	2		6	22	2	9
	E13	11			2	4									3		2
	E14	31			4	20									6		1
	E15	9				8										1	
	F12	14				4	4		1					1	2		2
	F13	12				6			2					1	1	1	1
	F14	60				44					1	2		3	7		3
	F15	26				25			1								
セ206	合計	265								177		2		5	44	12	25
	A04	21								15					4		2
	A05	61								43				1	7	3	7
	N05	13								12						1	
	N06	33								25					7	1	
	O04	42								27					9		6
	O06	45								34					6	1	4
セ226	合計	92	1		79	3		2	2								5
	C17	67			67												
セ203	合計	8			8												
セ216	合計	92		1				1	8	23					35	4	20
セ214	合計	85		5					16	17					25	5	17
セ249	合計	22							1	11					1	2	7
セ248	合計	91	33	3	1				23	2					6		23
	G17	23	2	2					12								7
	H17	13	4	1					4								4
	H18	10	5						2								3
	H19	11	7						1								3
	I20	13	8						1						3		1

第５表　弥生土器・土師器・須恵器

図	№	遺跡	位置	注記	種別	器種	帰属時期	遺存	色調	外面	内面	胎土	口径	底径	高さ
8	31	セ196	C04	C04-1	土師器	坏	9C後葉～10C前葉	破片。	外5YR7/8橙。内10YR3/1黒褐	ロクロ調整。粗いヘラミガキ。	ヘラミガキ。内面、黒色処理。ヘラ記号施す。	密。白粒・微量・黒粒少量。赤粒極めて微量。		7.0	4.3
11	11	セ193	一括	―	土師器	坏	7c	口縁～底部1/2残。	7.5YR6/6橙	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。一部、強いヘラナデ。	密。白色粒微量。黒色粒少量。赤褐色粒微量。	11.8	5.0	3.8
11	12	セ193	一括	―	土師器	碗	10C前半	口縁～底部2/3残。	外5YR5/6明赤褐。内10YR3/1黒褐	ロクロ調整。	ヘラミガキ。黒彩か。		16.2	7.6	6.2
11	13	セ193	一括	―	土師器	碗	10C前半	ほぼ完存。	外7.5YR6/6橙。内5YR6/8橙	ロクロ調整。	(丁寧なヘラミガキ。		10.4	5.6	3.9
11	14	セ193	一括	―	土師器	碗	10C前半	体部上半～底部2/3残。	外7.5YR6/6橙。内5YR2/1黒	ロクロ調整。器面状態不良。	ヘラミガキ。全面、黒色処理。		―	6.8	―
11	15	セ193	一括	―	土師器	高杯	鬼高(7c	脚部のみ3/4残。	7.5YR7/6橙	ヘラケズリ	やや強いヘラナデ		―	11.6	―
11	16	セ193	一括	―	土師器	小型甕	鬼高	口縁～底部3/4残。	外2.5YR5/8明赤褐。内5YR3/1黒褐	体部ヘラケズリ。口縁部、輪積み痕あり。	体部ヘラナデ。頸部、輪積み痕あり。	やや粗。白色粒少量。赤色粒微量。	13.2	7.4	9.9
11	17	セ193	一括	―	土師器	小型甕	鬼高	口縁～底部1/6残。	外2.5YR5/6明赤褐被熱顕著。内2.5Y3/1黒褐	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	密。白色粒少量。赤色粒微量。	8.6	6.0	7.4
11	18	セ193	一括	―	土師器	甕	鬼高か	口縁部～体部上半1/6残。	7.5YR6/6橙	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	密。白色粒微量	18.0	―	7.4
11	19	セ193	一括	―	土師器	台付鉢	10C前半	口縁～底部1/3残。台部は全て欠。	10YR7/4にぶい黄橙。内10YR6/4にぶい黄橙	ヨコナデ。体部下半、ヘラケズリ。	ヨコナデ。		30.6	―	―
13	13	セ221	G12	G12-4-2,4-6	土師器	高杯	鬼高	口縁～体部下端1/2残。	外10R4/6赤。内10R5/6赤	ヘラケズリ。一部、強いナデ。赤彩。	ヘラミガキか。赤彩。	密。白粒・微量・赤粒少量だが均等。	15.8	―	8.8
16	14	セ206	B06	B06-3-1	土師器	坏	9c後葉	体部上半～底部1/3残。	2.5YR5/6明赤褐	体部下端・底部外周回転ヘラケズリ。底部中央回転糸切り痕。底部「×」ヘラ記号	ロクロ調整。	密。白色粒・黒色粒・小砂少量	―	5.6	―
16	15	セ206	N05	N05-c-4	土師器	坏	9C後葉～10C前葉	体部上半～底部1/3残。	外7.5YR6/6橙。内N1.5/0黒	ロクロ調整。	ヘラミガキ。黒色処理。	密。黒色粒少だが均等	―	8.0	―
16	16	セ206	K10	K10-a-1	灰釉陶器	壺	9C中～後	体部下端～底部1/6残。	外2.5Y7/2灰黄。内2.5Y7/1灰白	ロクロ調整。	ロクロ調整。	緻密。微黒色粒均等。白色粒少	―	9.3	―
16	17	セ206	A10	A10-a-1	土師器	台付鉢	10C前半	台部のみ1/3残。	外10YR6/4にぶい黄橙。内7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	密。白色粒少	―	24.8	―
22	1	セ203	B03	B03-b-2	土師器	坏	7c	口縁～底部1/2残。	10R5/8赤	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	ヘラミガキ。黒色処理。	白色粒・黒色粒・白色針状物少	15.6	6.4	5.6
24	7	セ227	C19	C19-17-1	弥生土器	台付甕	弥生後期	破片。	外7.5YR6/6橙。内5YR6/6橙	ヘラナデ。	ナデ。	やや粗。白色粒・黒色粒少量	―	9.2	―
24	8	セ227	F19	F19-17-1	弥生土器	鉢	弥生後期	口縁～底部3/4残。	7.5YR6/6橙	強いヘラナデ。	強いヘラナデ。	やや粗。白色粒・黒色粒微量	8.0	4.5	4.1
24	9	セ227	D20	D20-20-1	土師器	坏	5c末	口縁～体部下半1/4残。	10R5/8赤	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。赤彩。	ヘラナデ。赤彩。	白色粒・黒色粒・白色針状物少	15.6	6.4	5.6
24	10	セ227	A19	A19-17-2	土師器	坏	9C後	口縁～底部1/4残。	7.5YR7/6橙	ロクロ調整。底部、回転糸切り無調整。体部下端、手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	密。白色粒・黒色粒少。白色針状物微量	11.7	6.8	3.7
24	11	セ227	D20	D20-20-2	土師器	高杯	鬼高	破片。	10R5/6赤	ヘラケズリ。脚裾部、ヨコナデ。赤彩。	ヘラミガキ。赤彩。	密。白色粒・黒色粒少	―	―	―
24	12	セ227	N11	N11-15-24	土師器	甕	奈良・平安	破片。	外2.5YR5/6明赤褐。内2.5YR4/4にぶい赤褐	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	密。白色粒・黒色粒少	12.6	―	―
24	13	セ227	O11	O11-14-1	土師器	甕	奈良・平安	破片。	2.5YR5/6明赤褐	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	密。白色粒・黒色粒少	20.4	―	―
27	17	セ216	一括	31G	土師器	甕		破片。	外2.5YR6/6橙。内5YR6/6橙	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	密。黒粒微量。白粒少量。	19.7	―	7.5
27	18	セ216	SB1	SB1-1	土師器	坏	8c中葉	破片。	5YR6/6橙	ヘラケズリ。底部、手持ちヘラケズリ。	口縁部、ヨコナデ。下部、ヘラナデ。	密。黒粒微量。石英粒微量。	12.2	8.6	3.4
30	10	セ214	J02	J02-2	土師器	坏	8c前半	口縁～底部1/8残。	外2.5YR5/8明赤褐。内5YR6/8橙	ヘラケズリ。	ヘラナデ。一部強いナデ。	密。白粒均等・赤粒微粒。	10.5	5.3	4.8
30	11	セ214	H06	H06-1-109	土師器	皿	10C前半	口縁～底部1/8残。	10YR5/3にぶい黄褐	ロクロ調整。底部、回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	密。白粒・少量・赤粒微粒。	8.8	5.2	1.5
30	12	セ214	E04	E04-129	須恵器	坏	8c後半～9c初	口縁～底部1/2残。	外7.5Y5/1灰。内7.5Y6/1灰	ロクロ調整。	ロクロ調整。	緻密。白色粒1.少量。	15.0	10.2	5.9
30	13	セ214	K50	K50-120,A2-50	須恵器	坏	9c前葉	体部上半～底部1/3残。	外5Y7/1灰白。内5Y6/1灰	ロクロ調整。体部下半手持ちヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	緻密。白色粒少量だが均等。	―	7.8	3.8
30	14	セ214	I01	I01-4-29	須恵器	坏	9c中葉	ほぼ完存。	7.5YR4/2灰褐	ロクロ調整。体部下端・底部手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	やや粗。白粒・均等・赤粒微粒。	12.4	5.9	3.8
30	15	セ214	J03	J03-7	須恵器	坏	9c中か	体部下半～底部4/5残。	外7.5YR5/2灰褐。内5YR4/2灰褐	底部及び体部下端、手持ちヘラケズリ。底部ヘラ記号あり。	ロクロ調整。	密。白色粒少量。赤褐色粒微量。	―	7.0	2.2
30	16	セ214	G05	G05-4-27	須恵器	高杯	5c後半か	脚部のみ1/6残。	5Y6/1灰	ロクロ調整。三方に透かし孔ありか。	ロクロ調整。	緻密。白粒微量。	5.4	12.0	6.3
30	17	セ214	K01	K01-11	須恵器	甕		口縁部のみ1/10残。	外N3/0暗灰。内5Y5/1灰	ヨコナデ	ヨコナデ	緻密。白石粒均等。	13.4	―	2.5
31	3	セ249	一括	―	土師器	坏	7c初頃	口縁～底部1/3残。	5YR6/8橙	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	ヘラナデ。	やや粗。黒色粒少	10.2	5.0	2.9
31	4	セ249	G09	G09-45	土師器	坏	8c前～中頃	口縁～底部1/3残。	外5YR6/8橙。内5YR6/6橙	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。	ヘラミガキ。暗文入る。	密。白色粒・黒色粒少。金雲母粒微量	12.6	8.0	3.8
31	5	セ249	G09	G09-42	土師器	坏	8c前～中頃	口縁～底部2/3残。	5YR6/8橙	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	密。白色針状物均等。黒色粒少	13.4	9.4	3.7
31	6	セ249	G09	G09-52	土師器	坏	8c前～中頃	口縁～底部1/4残。	外5YR7/8橙. 内5YR6/8橙	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。		密。白色針状物均等。黒色粒少	14.6	8.2	5.0
31	7	セ249	G09	G09-01-48	土師器	高杯	5c	杯部のみ1/3残。	5YR6/8橙	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	ヘラナデ。一部ヘラミガキか。	密。白色粒・黒色粒・白色針状物少	12.0	―	―
31	8	セ249	G09	G09-46	土師器	甕	奈良・平安	口縁部～体部上半1/10残。	2.5YR6/8橙	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	密。白色粒・白色針状物・黒色粒	27.0	―	―

第６表　中世陶磁器類

図	№	遺跡№	位置	注記	大別	編年	時期	器種	器形	遺存度	備考	焼成	色調	外面	内面	胎土	口径	最大径	底径	器高
8	32	セ196	E4	E4-c	在地		13C	土師質土器	カワラケ(大型)	2/3	内面に一部油煙痕付着、灯明用途	優	5YR6/4にぶい橙	体部2条の段ナデ 呈すが顕著でない 底部右回転糸切痕無調整	見込み軽く横方向ナデし、平滑・球状に立ち上がる 口縁部ややや強く横ナデし尖り気味	やや粗、石英小粒・褐鉄鉱小粒	(13.7)	(13.7)	7.2	3.4
11	20	セ193	一括	一括	瀬戸・美濃系	後Ⅳ(新)	15ｃ第3	陶器	緑釉小皿	1/4以下	使用による見込み研磨	良	2.5T8/1灰白	体部～底部、右回転ヘラケズリ整形し、削り出し高台	見込み無釉、体部灰釉(7.5Y6/3オリーブ黄)施釉	硬質、白色微粒少	—	—	5.9	—
11	21	セ193	一括	一括	瀬戸・美濃系	後Ⅳ(新)	15ｃ第3	陶器	折縁深皿	破片	使用による内面研磨	良	2.5Y7/1灰白	体部下位～回転ヘラケズリ調整　体部中位以上に灰釉(7.5Y6/2灰オリーブ)浸し掛け	体部中位以上に灰釉浸し掛け	硬質、白色微粒・微黒粒少	(25.5)	(28.1)	—	—
13	14	セ221	F13	F13-1	瀬戸・美濃系	後Ⅳ	15ｃ中～後葉	陶器	緑釉小皿	破片		良	5Y8/1灰白	口縁下位やや強く横ナデ　口縁のみ灰釉(5Y6/4オリーブ黄)施釉	口縁のみ灰釉施釉	焼き締まる微黒粒少	(11.8)	(11.8)	—	—
13	15	セ221	F14	F14-3-5	常滑	9型式	15ｃ前葉	器	片口鉢Ⅱ類	破片	内面使用による研磨	良	2.5YR4/1赤灰/7.5YR5/2灰褐	体部ヘラケズリ後、布状工具でナデ、口縁幅広で下方に突出	布状工具でナデ	粗　長石小粒多	—	—	—	—
16	19	セ206	A05	A05-d-1	常滑	9型式	15ｃ前葉	器	大甕	破片		良	10R5/4赤褐/2.5Y6/1黄灰	口縁帯上方に少し、下方に大きく伸びるが、頸部に密着しない	頸部の口縁付近は折返し部は肥大せず流れる	粗　長石中粒多	—	—	—	—
16	20	セ206	L09	L09-b-5	瀬戸・美濃系	後Ⅱ	14ｃ末～15ｃ第1	陶器	折縁深皿	破片		良	2.5Y7/2灰黄	体部中位以下回転ヘラケズリ　灰釉(5Y5/4オリーブ)浸し掛け	口縁折返し、中央に凸帯廻る　灰釉浸し掛け	密　白色大～中粒	(25.6)	(29.2)	—	—
16	21	セ206	L09	L09-b-5	瀬戸・美濃系	後Ⅲ	15ｃ第2	陶器	平碗	1/4以下		良	2.5Y8/2灰白	体部中位～底部、右回転ヘラケズリ整形し浅い削り出し高台　体部中位以上灰釉(5Y7/3浅黄)浸し掛け	全面灰釉浸し掛け　トチン痕	白色小粒・微黒粒少	—	—	(5.3)	—
16	22	セ206	L09	L09-b-5	瀬戸・美濃系	後Ⅳ	15ｃ中～後葉	陶器	平碗	1/4以下		良	2.5Y8/2灰白	体部下位～底部、右回転ヘラケズリ整形し、削り出し高台　体部中位以上を灰釉(5Y6/4オリーブ黄)浸し掛け	見込み境から直線的に立ち上がる　全面灰釉浸し掛け　体部下位にトチン痕	白色小粒少	—	—	4.6	—
16	23	セ206	L09	L09-b-2	常滑	7型式	14ｃ後葉	炻器	甕	破片		優	2.5YR3/3暗赤褐/2.5Y7/1灰白	折返し口縁は上部が受け口状、下方にもやや肖ち頸部に密着	口縁にやや幅あり	焼き締まる やや粗　長石小粒・微黒粒	(31.3)	—	—	—
16	24	セ206	L09	L09-b-2	常滑	9型式	15ｃ前葉	炻器	大甕	破片		良	2.5YR4/3にぶい赤褐/2.5Y5/1黄灰	折返し口縁下方に伸び、頸部に密着、折返し部に粘土紐貼付け、上方凸帯とする	頸部下位以下を指頭で締める	粗　長石大～小粒多	(34.0)	—	—	—
17	25	セ206	L09	L09-b-2	常滑	9型式	15ｃ前葉	炻器	大甕	破片		普通	7.5YR5/4にぶい褐/2.5Y6/3にぶい黄	折返し口縁下方に伸び、頸部に密着、折返し部に粘土紐貼付け、上方凸帯とする	頸部下位以下を指頭で締める	粗　長石大～小粒多	—	—	—	—
17	26	セ206	L09	L09-b-2	常滑	7型式	14ｃ後葉	炻器	片口鉢Ⅱ類	破片		良	5YR5/4にぶい赤褐	体部ナデ調整後、口縁下位を横ナデ、口縁上下に突出の兆しあるが顕著でない	布状工具でナデ	やや粗、長石中～小粒多、褐鉄鉱小粒	—	—	—	—
17	27	セ206	L10	L10-c-1	常滑	10型式	15ｃ後葉	炻器	片口鉢Ⅱ類	破片		優	7.5R4/4にぶい赤/10YR6/1褐灰	体部、ヘラケズリ後、布状工具でナデ調整、口縁下位を工具でナデ締め、口縁帯は広く、上・下方に突出　テリが出る	布状工具でナデ	焼き締まる白色小粒	—	—	—	—
17	28	セ206	L09	L09-c-1	竜泉窯系	Ⅰ-4	12ｃ後葉～13ｃ前葉	磁器	椀	破片		良	5Y6/1灰	体部以下を回転ヘラケズリ、高台も削り出しと思われる　青磁釉(7.5Y5/2灰オリーブ)薄く施釉	見込み境明瞭、体部に劃花文描く　全面に青磁釉を薄く施釉	密で硬質	—	—	—	—
17	29	セ206	M09	M09-c-1	瀬戸・美濃系	中Ⅱ	14ｃ第1	陶器	天目茶碗	破片		優	2.5Y8/2灰白	体部以下を回転ヘラケズリ整形後、高台ナデ付け	見込み境は認められるが、全体に球状に立ち上がる　全面天目釉(10YR2/1黒)施釉	焼き締まる白色小粒少	—	—	(5.1)	—
17	30	セ206	M10	M10-c-1	竜泉窯系		14C末～15C初	磁器	椀	破片		優	5Y8/1灰白	体部～高台内側の一部まで青磁釉(オリーブ)を施釉、畳付も拭き取らない　釉層厚い	劃花文らしき文様描くが、釉層厚く、詳細不明	硬質　白色微粒少	—	—	(6.2)	—
17	31	セ206	M11	M11-b-3	瀬戸・美濃系	後Ⅳ	15ｃ中～後葉	陶器	尊式花瓶	破片		良	5Y8/1灰白	横ナデ、灰釉(10Y7/2灰白)施釉するがカセる	棒状工具による横ナデ痕顕著	硬質　白色微粒少	—	—	—	—
17	32	セ206	M11	M11-b-4	在地		13ｃ	土師質土器	カワラケ(中型)	1/4以下		良	10YR7/4にぶい黄橙	底部、右回転糸切痕無調整　体部上位をやや強く横ナデ	見込み不明	金雲母小粒、褐鉄鉱小粒・海綿骨針少	—	—	(6.1)	—
17	33	セ206	N06	N06-a-1	常滑	8型式	14ｃ後葉	炻器	片口鉢Ⅱ類	破片		普通	5YR6/6橙	体部ヘラケズリ後、布状工具でナデ、口縁幅広で下方に突出の兆しあり	布状工具でナデ	粗　長石大～小粒多	—	—	—	—
17	34	セ206	N06	N06-a-1	在地	常滑4型式並行期か	12ｃ末～13ｃ第1か	土師質土器	柱状高台土器	1/2以上		良	7.5YR7/4にぶい橙	粘土柱上の体部を横ナデ整形後、柱を右回転糸切りし、端部をナデ調整するが、糸切痕は無調整	見込みナデない	金雲母小粒、褐鉄鉱小粒少	(9.7)	(9.8)	5.9	4.0
17	35	セ206	N11	N11-d-1	備前	Ⅲ期	鎌倉時代後葉	炻器	擂鉢	破片		良	10YR4/1褐灰	横ナデ	横ナデ　櫛状工具で擂り目入る	焼き締まる長石中～小粒多	—	—	—	—
17	36	セ206	N12	N12-c-1	備前	Ⅲ期	鎌倉時代後葉	炻器	擂鉢	破片		良	7.5YR5/3にぶい褐/10YR4/1褐灰	横ナデ	横ナデ　櫛状工具で擂り目入る	焼き締まる長石中～小粒多、シャモット少	—	—	—	—
17	37	セ206	O06	O06-a-3	瀬戸・美濃系	大窯4	16ｃ末～17ｃ初頭	陶器	丸皿	破片		良	2.5Y8/2灰白	高台除き灰釉(2.5Y8/1灰白)施釉	全面灰釉施釉	白色微粒少	(12.5)	(12.9)	(5.7)	(2.2)
17	38	セ206	M06	M06-b-1	常滑	9型式	15ｃ前葉	炻器	片口鉢Ⅱ類	破片		良	10R4/3赤褐	体部、ヘラケズリ後、布状工具でナデ調整、口縁下位を工具でナデ締め、口縁帯は上・下方に突出の兆しあり　テリが出る	布状工具でナデ	焼き締まる やや粗　白色小粒	—	—	—	—
24	14	セ227	F19	F19-f-1	瀬戸・美濃系	大窯4(後半)	1600年前後	陶器	大皿	破片		良	2.5Y8/2灰白	頸部に重ね焼きによる別個体口縁の癒着痕あり　全面鬼板(2.5YR3/3暗赤褐)施釉	鬼板施釉	白色小粒少	—	—	—	—
31	9	セ249	一括	一括	在地		不明	土師質土器	カワラケ	破片		良	10YR6/4にぶい黄褐	底部、糸切痕無調整	見込み不明	石英微粒・海微量	(7.1)	(7.3)	(5.4)	1.5

第７表　中世陶磁器類集計

遺跡№	位置	貿易 椀	貿易 皿	渥美 片口	渥美 壺	常滑 片口	常滑 甕	瀬戸 深皿	瀬戸 皿	瀬戸 瓶	瀬戸 碗	瀬戸 擂鉢	志野 皿	備前 擂鉢	土器 カワラケ	土器 高台土器	土器 擂鉢	総計
セ190															1			1
セ193							3		1		1							5
セ196		1	1	1	1		1								3			9
セ206	A05						1											1
	A10												1					1
	A12											1						1
	B05						2								1			3
	B10						2											2
	J10						1											1
	K09					1												1
	L08										1							1
	L08-M08					1	2				1							4
	L09	1		4		5	18		1	1	2							32
	L10					2	2		1		1							6
	L11						18											18
	M06					2	3											5
	M07						1											1
	M09										1							1
	M10	1													1			2
	M11						1		2	1	2				1			7
	M12										1							1
	N05						3											3
	N06					3	2									1	1	7
	N11													1				1
	N12													1				1
	O06						1		1									2
	O10						7											7
	O12						1							1				2
	一括	1				2	11	2	1		1	1	1		1			21
セ206	合計	3		4		16	76	2	6	2	10	2	2	3	4	1	1	132
セ221		2				4	2		1			1			1			11
セ227							2		1				1					4
セ249							1								1			2
総計		6	1	5	1	20	85	2	9	2	11	3	3	3	10	1	1	163

第８表　人骨・動物骨

図	№	セ№	位置	注記	種別	法量	観察事項
―	―	セ196	E06	E06-c	焼骨	２片	１cm大×２。灰白色
―	―	セ206	K11	K11-d	火葬人骨	数10片，41g	最大７㎝の四肢骨?，肋骨。すべて灰白色でひび割れ顕著
―	―	セ206	L09	L09-a	骨粉	―	劣化著しく，粉状
―	―	セ206	L10	L10-c	ウマ歯牙	遊離臼歯２	

第９表　土製品・石製品

図	№	セ№	位置	注記	種別	法量	観察事項
16	18	セ206	H06	H06-c-2	羽口		破片。
―	―	セ206	K09	K09-a-11	圧痕付土塊	19×15cm，572g	前面に繊維状?圧痕，壁土？　+破片99g
―	―	セ214	G05	G05-4	支脚	小片	隅丸・四角柱形。灰付着
―	―	セ214	J02	J02-2	土製丸玉	径20mm，２g	両面から串状工具により穿孔
―	―	セ214	J03	J03-3	古代平瓦	小片	凸面縄目，凹面剥離。明褐色
―	―	セ214	M06	M06-1	古代平瓦	小片	凸面縄目，凹面布目，灰褐色
―	―	セ227	E19	E19-15-4	支脚	小片	円筒形。中央孔もつが，外面に灰付着のため支脚か
24	15	セ227	P20	P20-20	管玉	21×７mm	穿孔片寄り，端部欠損。素材剥離面あり

第10表　銅銭

図	№	セ№	位置	注記	種別	鋳造年代
11	22	セ193	一括	―	祥符元寶	北宋，1008～1017
11	23	セ193	一括	―	洪武通寶	明・太祖，1368～1398
17	3	セ206	A12	A12-a	（判読不能）	
17	4	セ206	A12	A12-a	紹聖元寶	北宋，1094～1097
17	5	セ206	A12	A12-a	元祐通寶	北宋，1086～1093
17	6	セ206	A12	A12-a	治平元寶	北宋，1064～1067
17	7	セ206	A12	A12-a	熙寧元寶	北宋，1068～1077
17	8	セ206	L09	L09-c	永楽通寶	明・成祖，1406～
17	9	セ206	N05	N05-c	天聖元寶	北宋，1023～1032
17	10	セ206	N07	N07-d	元祐通寶	北宋，1086～1093

近世＝非掲載は寛永通寶１，文久永寶１，小片１

写　真　図　版

図版1

事業対象地域北半部航空写真

図版2

事業対象地域東半部航空写真

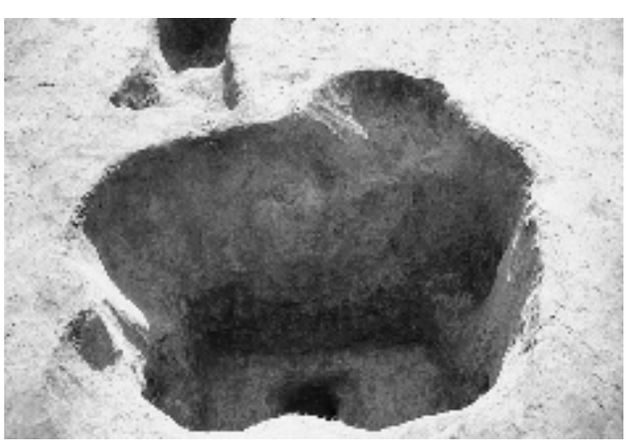
東国吉大門遺跡（セ190）

調査区全景（北から南方向）

C 区と D 区の境界付近

E9 区～ E5 区

E6 区～ E7 区境界付近



E8 区土坑

下層確認グリッドローム層断面

東国吉寺谷遺跡（セ 196）

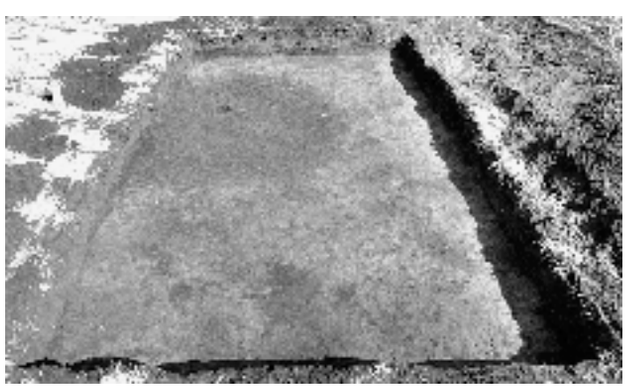
調査区全景（南から北方向）

E6 区 b 土坑

調査区全景（南東から北西方向）

G7 区土坑

B3 区 a・A3 区



B3 区 a

E5 区 c

C4 区 c

高倉ママダ上遺跡（セ 193）

調査区全景（北から南方向）

D5 区

F4 区溝

F6 区土坑

F5 区竪穴住居跡

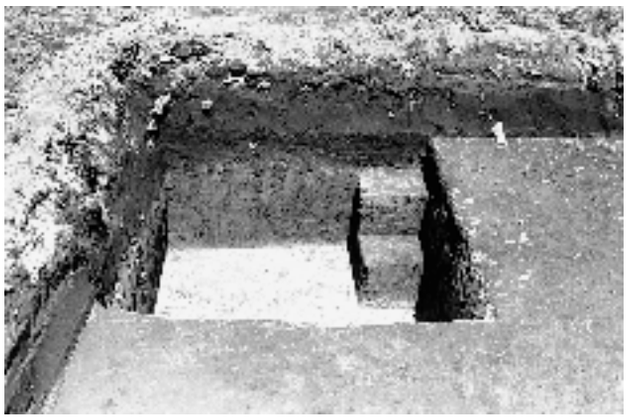
F5 区竪穴住居跡カマド

F6 区土坑

D4 区溝

東国吉下台遺跡（セ 221）

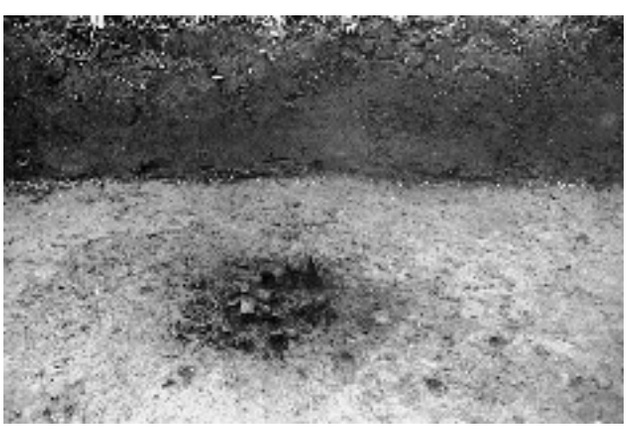
調査区全景（東から西方向）



G12 区 2 下層確認グリッド

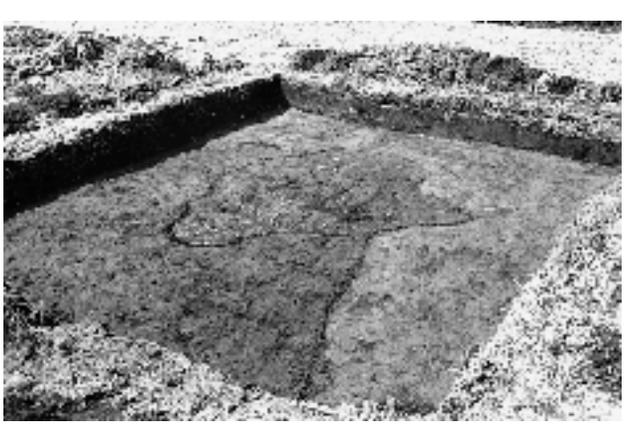
縄文前期土器出土状況

縄文前期遺物出土状況



F15 区 1 縄文前期集石炉

E14 区 1 土坑・円形掘り込み

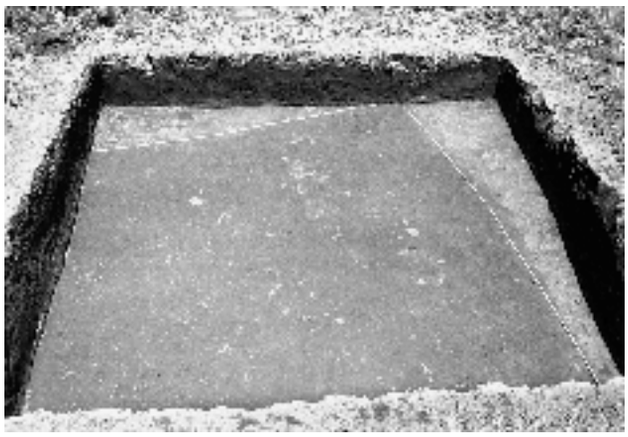


F13 区 2

G12 区 1 中世整地

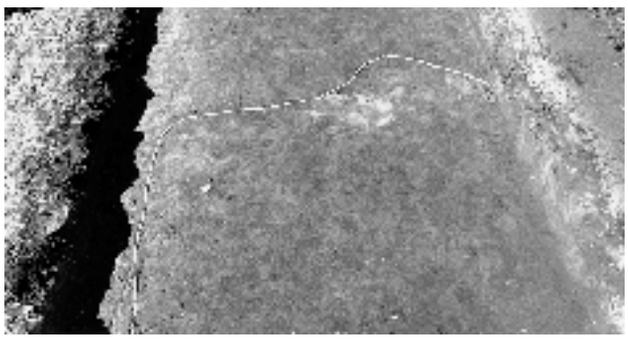
中野寺沢台遺跡（セ 206）

調査区全景（北東から南西方向）



O5 区 c

M 6 区 d



A12 区 a 竪穴住居跡

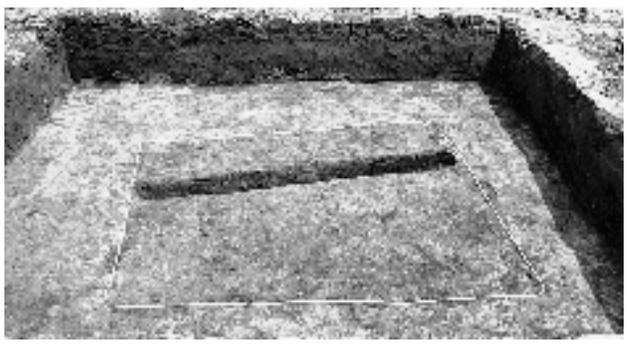
N6 区 d 竪穴住居跡

中野寺沢台遺跡（セ 206）

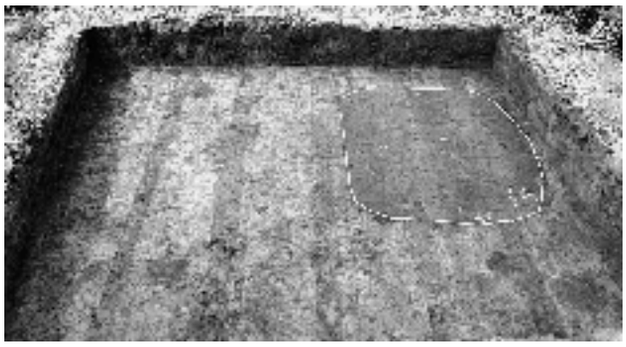
中世台地整形西側部分

M8 区中世台地整形部分上

M8 区中世台地整形部分下



M6 区 b 中世方形竪穴

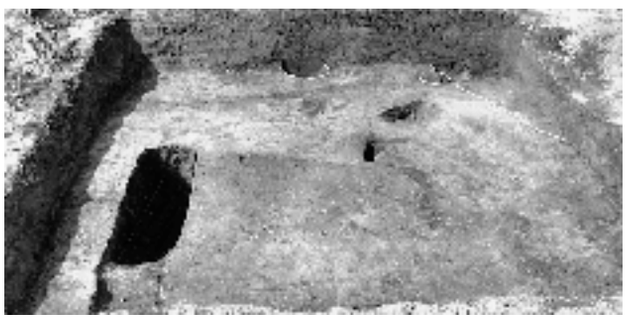


B9 区 d 土坑

B4 区

N5 区 c 土坑

N 6 区 a 土坑



L 8 区溝・土坑

中野向山遺跡（セ 226）

調査区全景（東から西方向）

調査区全景（南東から北東方向）

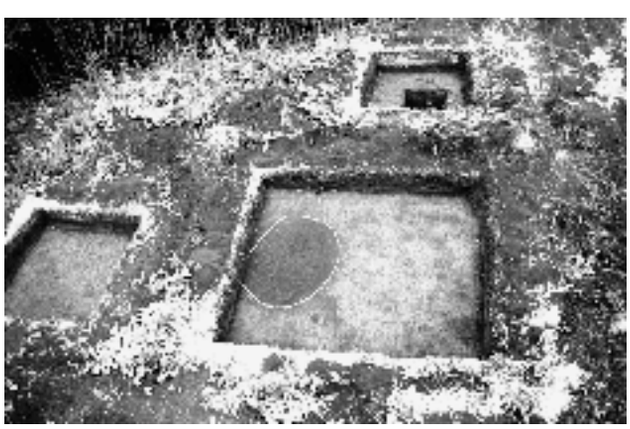
調査区全景（北から南方向）

調査区北部分（南から北方向）

L10 区～ L12 区方形墳墓

L13 区方形墳墓

D18 区・E18 区竪穴住居



C17 区

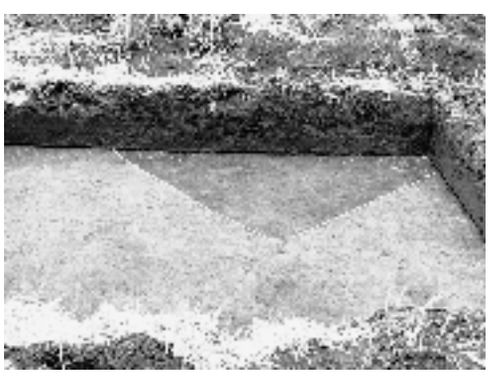
永吉鬼子母神遺跡（セ 203）

調査区全景（東から西方向）

下層確認グリッドローム層断面

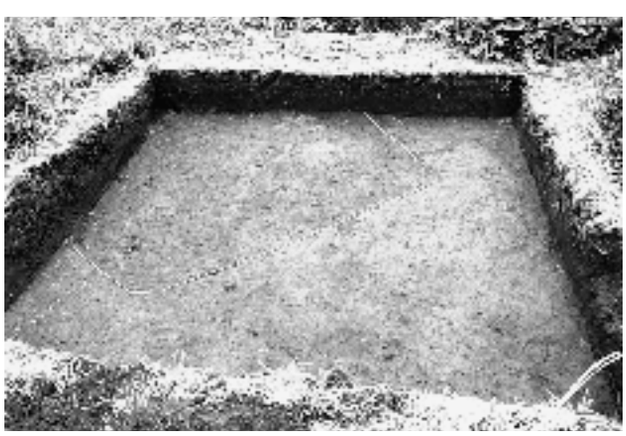
D3 区 d

調査区全景（南西から北東方向）



D3 区 a

F4 区 d ピット群



C3 区 a

永吉花ノ台遺跡（セ 227）

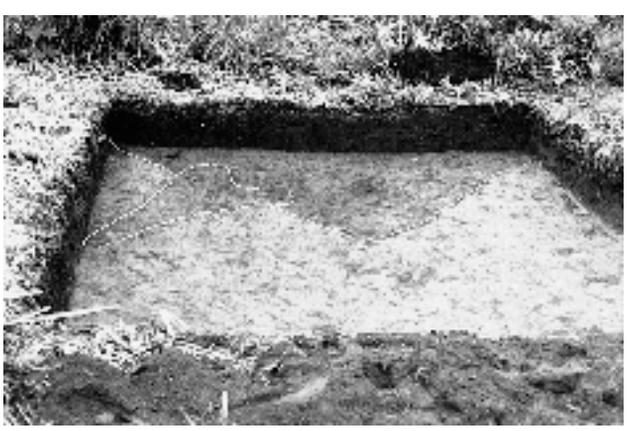
C16 区No. 2 ローム層断面

L18 区No. 3 焼礫出土状況

D19 区No. 2

N15 区No. 1 竪穴住居跡

A16 区No. 2 竪穴住居跡



O16 区No. 2 竪穴住居跡

O18・19 区方形墳墓

O・N17 区No. 5 方形墳墓

永吉金原遺跡１次（セ 216）

調査区風景

B6 区 2 溝

B6 区 3 ローム層断面

B6 区 2 溝断面

B6 区 3IX 層剥片出土状況

F6 区 4 竪穴住居跡

Ｂ５区溝

Ｄ６区１溝

永吉松ノ木台遺跡１次（セ 214）

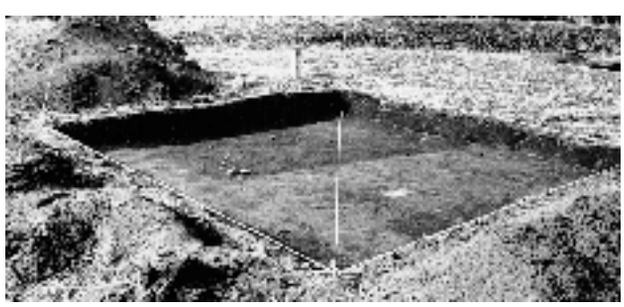
１次調査区全景（北東から南西方向）

１次調査区全景（北から南方向）

Ｍ７区１ローム層断面

Ｇ５区ａ竪穴住居跡

Ｉ１区ｃ竪穴住居跡

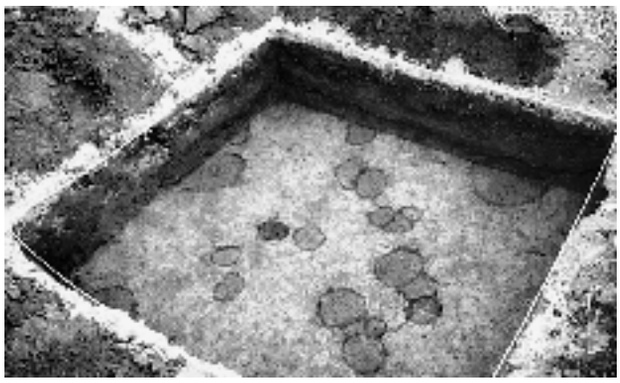


Ｊ 19 区竪穴住居跡

Ｉ１区ｃ竪穴住居跡煙道上

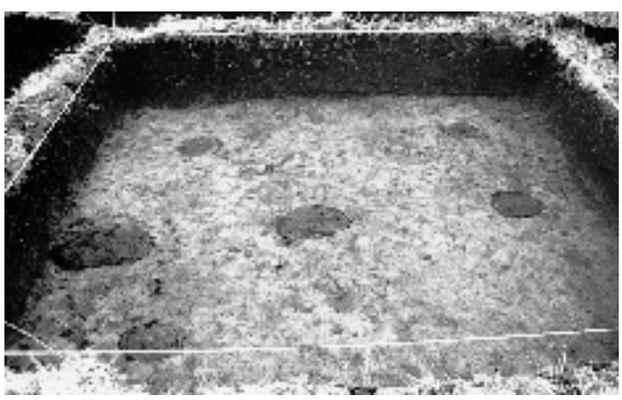
Ｊ４区ｃ竪穴住居跡

永吉松ノ木台遺跡２次（セ 249）

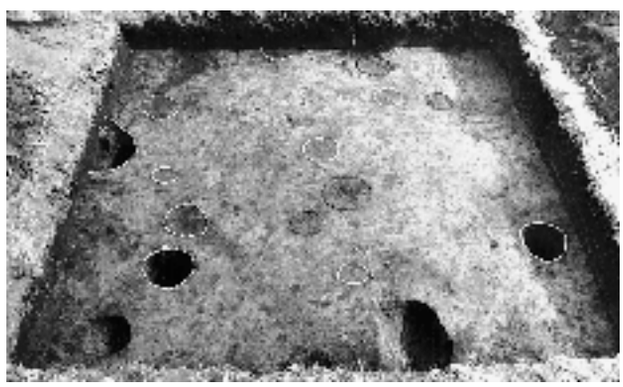


Ｉ２区ピット群

Ｇ２区ｃピット群

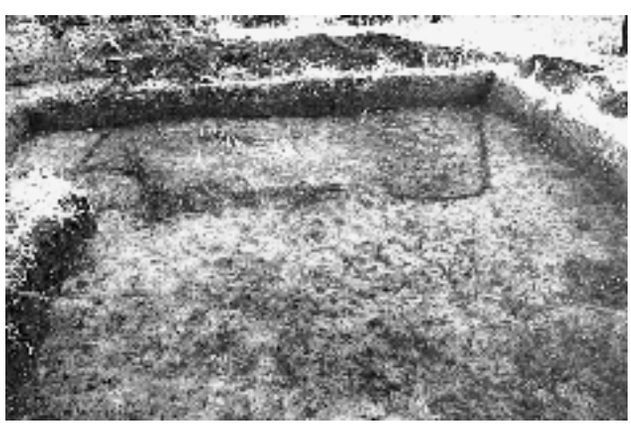


H5 区ｃピット群

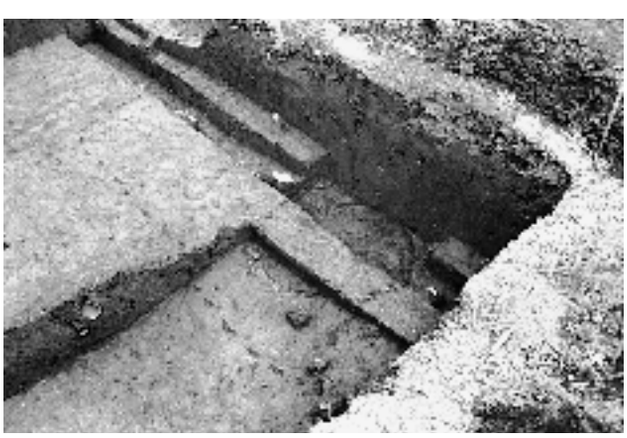


G5 区ｂピット群

２次調査区全景（南から北方向）



N1 区 29 竪穴住居跡



H3 区 9 竪穴住居跡

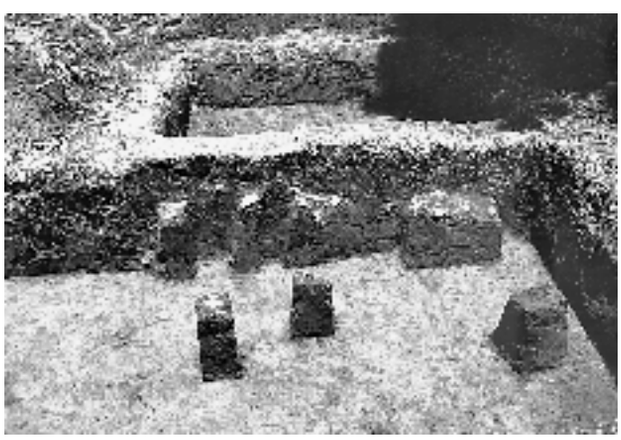
N1 区 28 溝

永吉金原遺跡２次（セ 248）

下層確認グリッドローム層断面

I1 区 39 縄文早期包含層

H18 区 15 縄文早期包含層



H17 区 12 須恵器出土状況

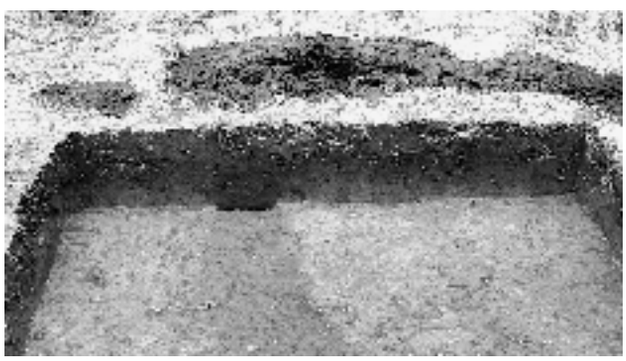
I1 区円墳周溝

調査風景

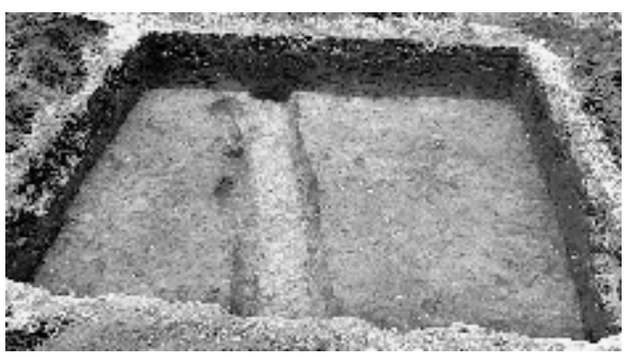
中野鹿ノ原遺跡（セ 247）

D2 区 17 ローム層断面

C2 区 1 ローム層断面



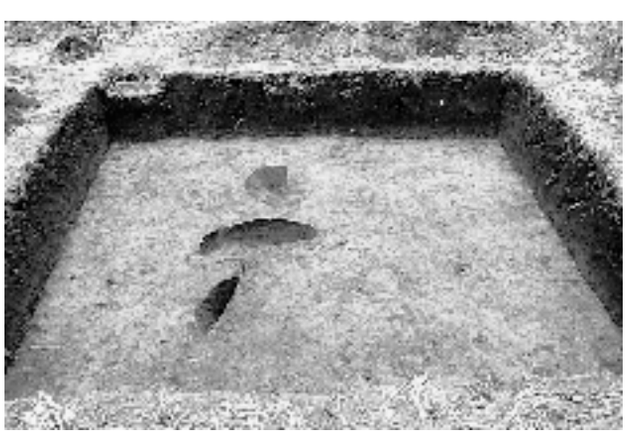
C2 区 7 溝



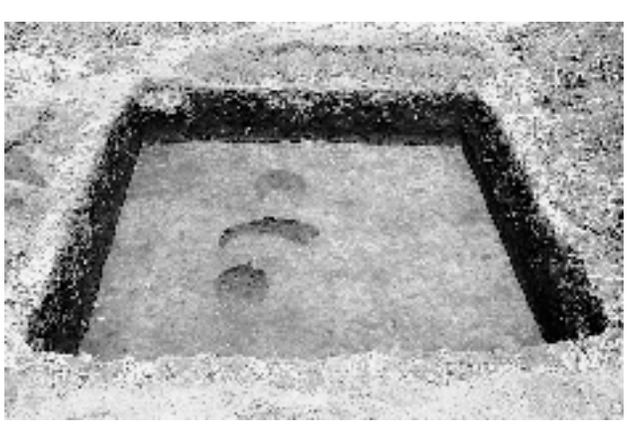
C2 区 7 溝

B 5 区 28 土坑断面

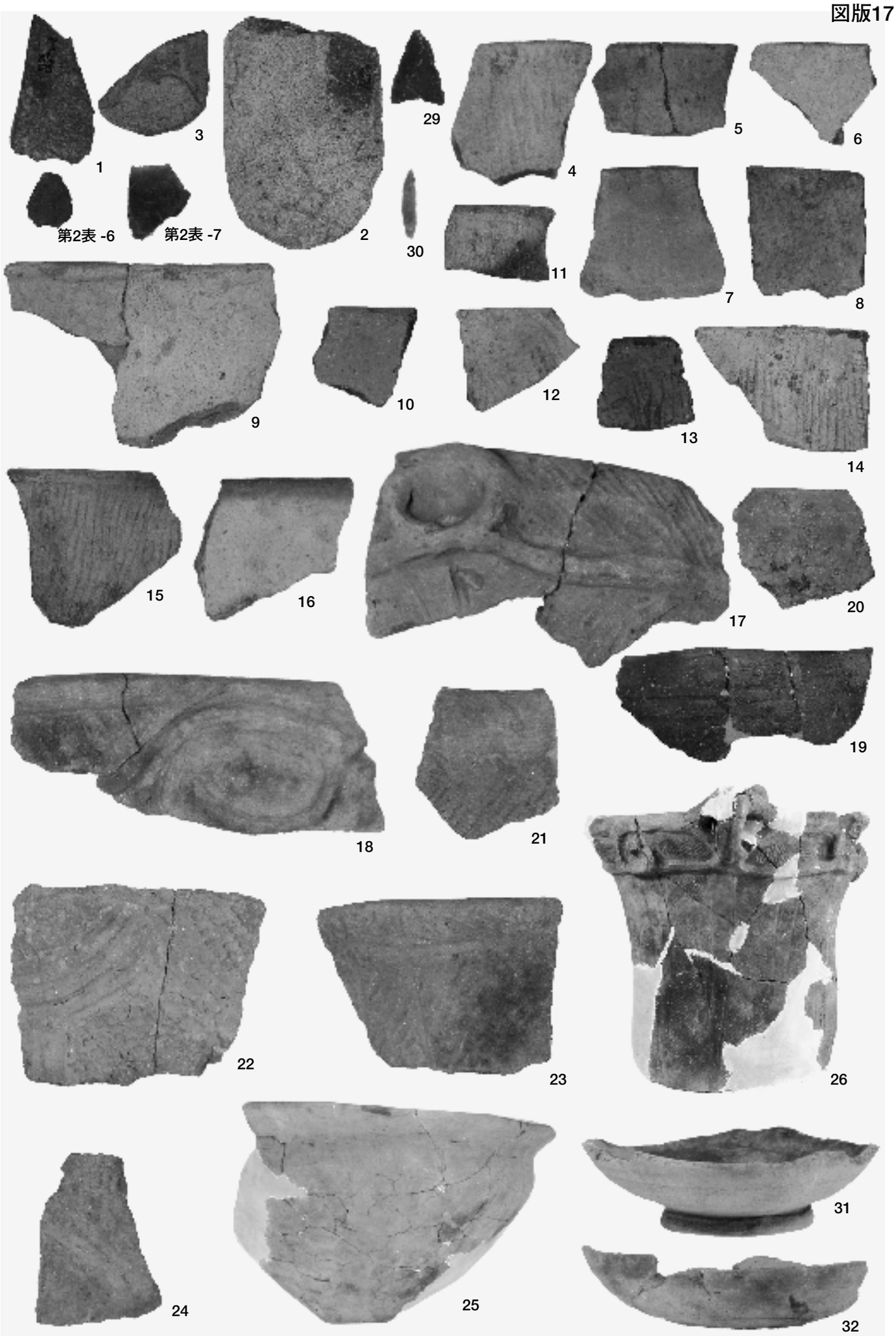
C 3 区 25 溝



B 5 区 22 土坑

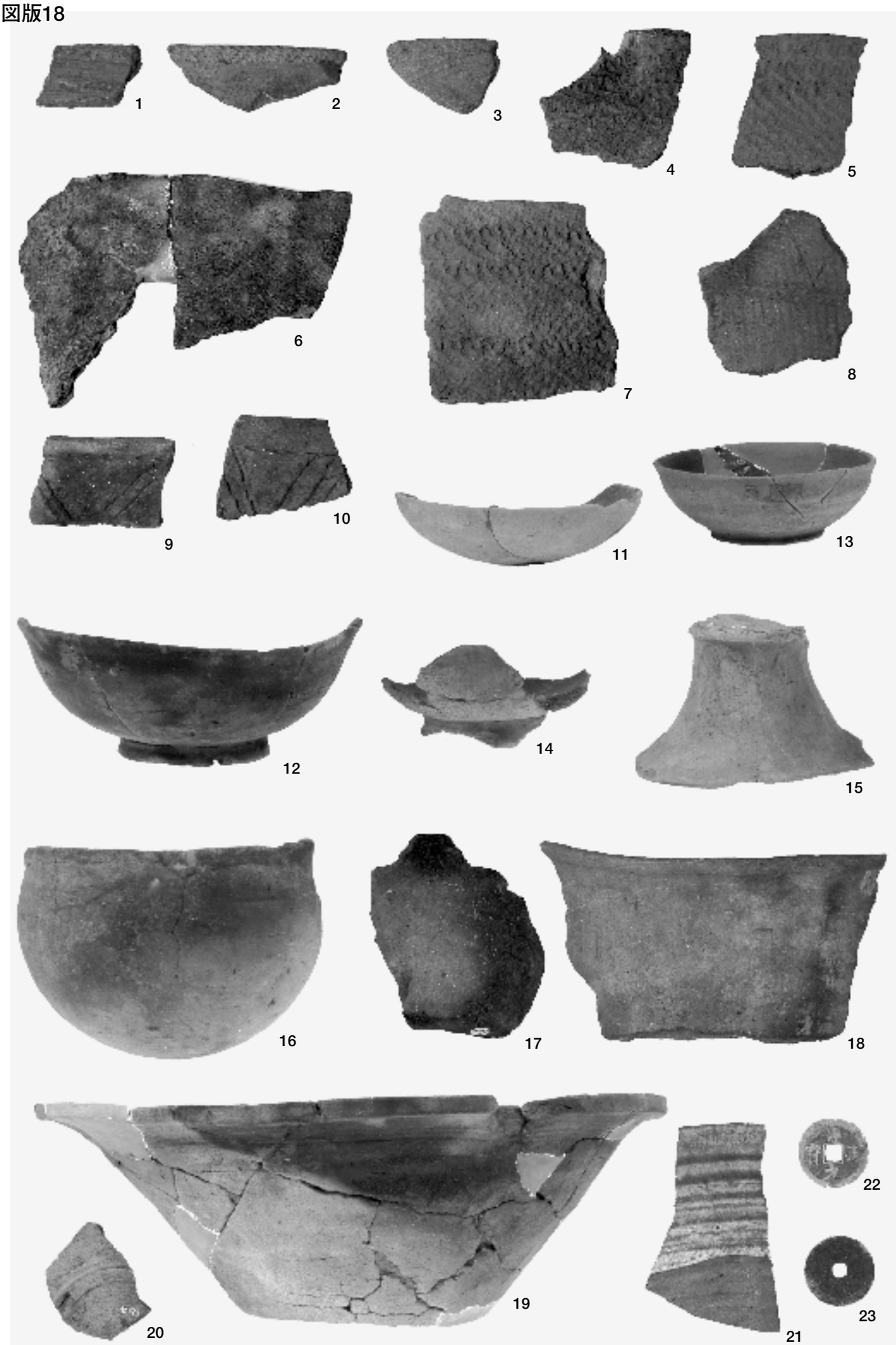


B 5 区 22

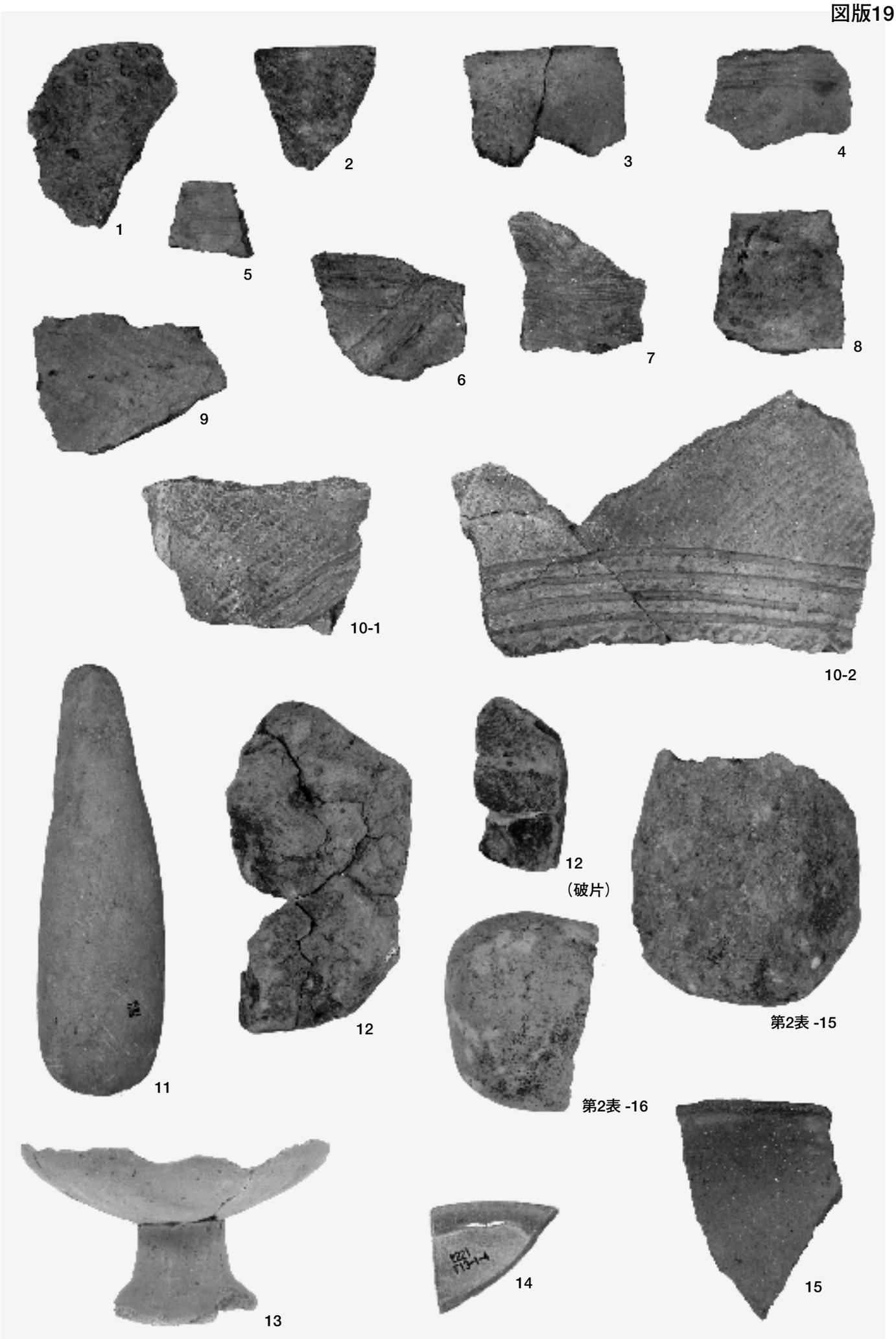


東国吉寺谷遺跡（セ 196）

図版18

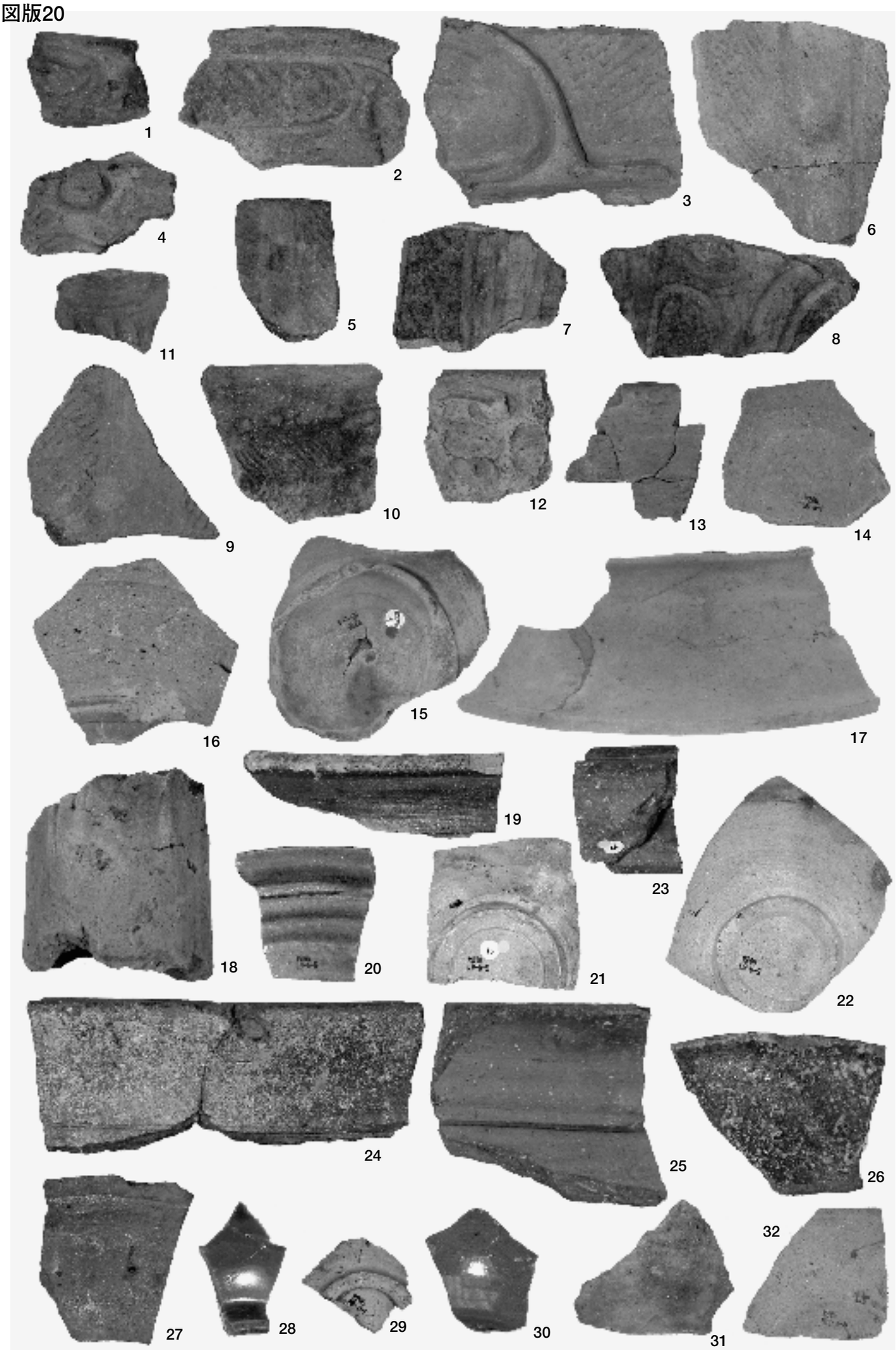


高倉ママダ上遺跡（セ 193）



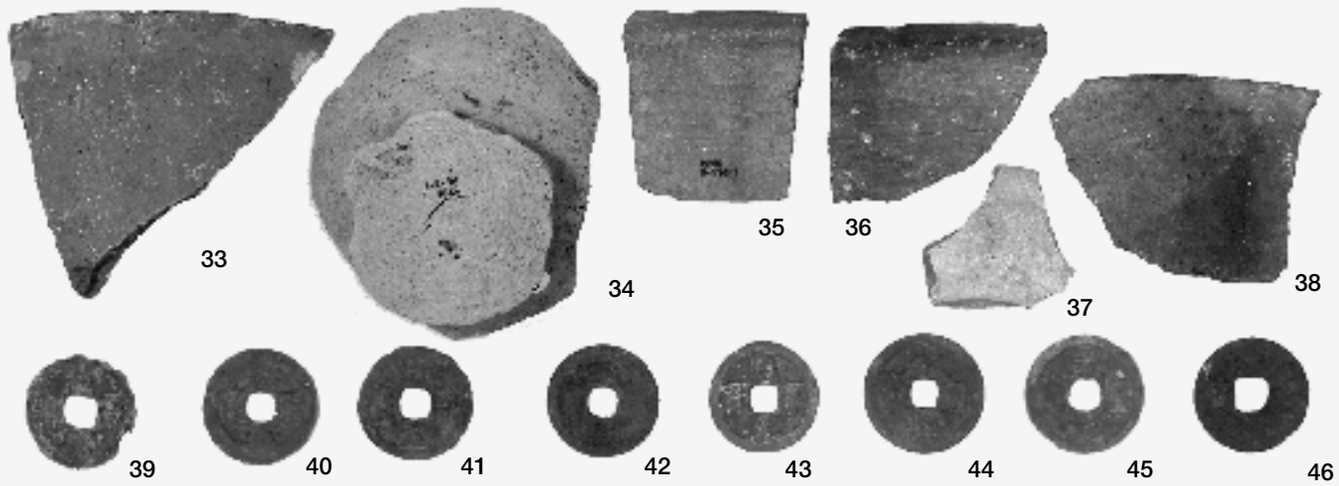
東国吉下台遺跡（セ 221）

図版20

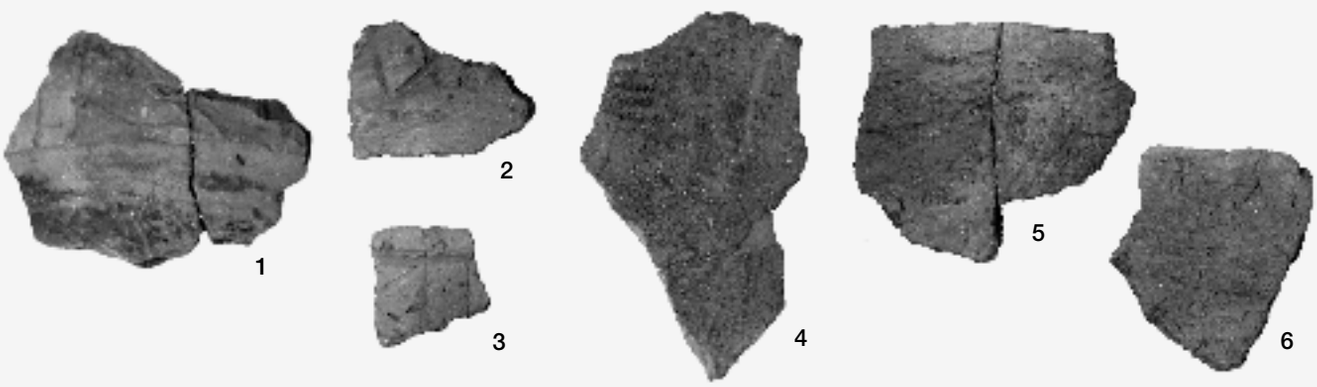


中野寺沢台遺跡（セ 206）

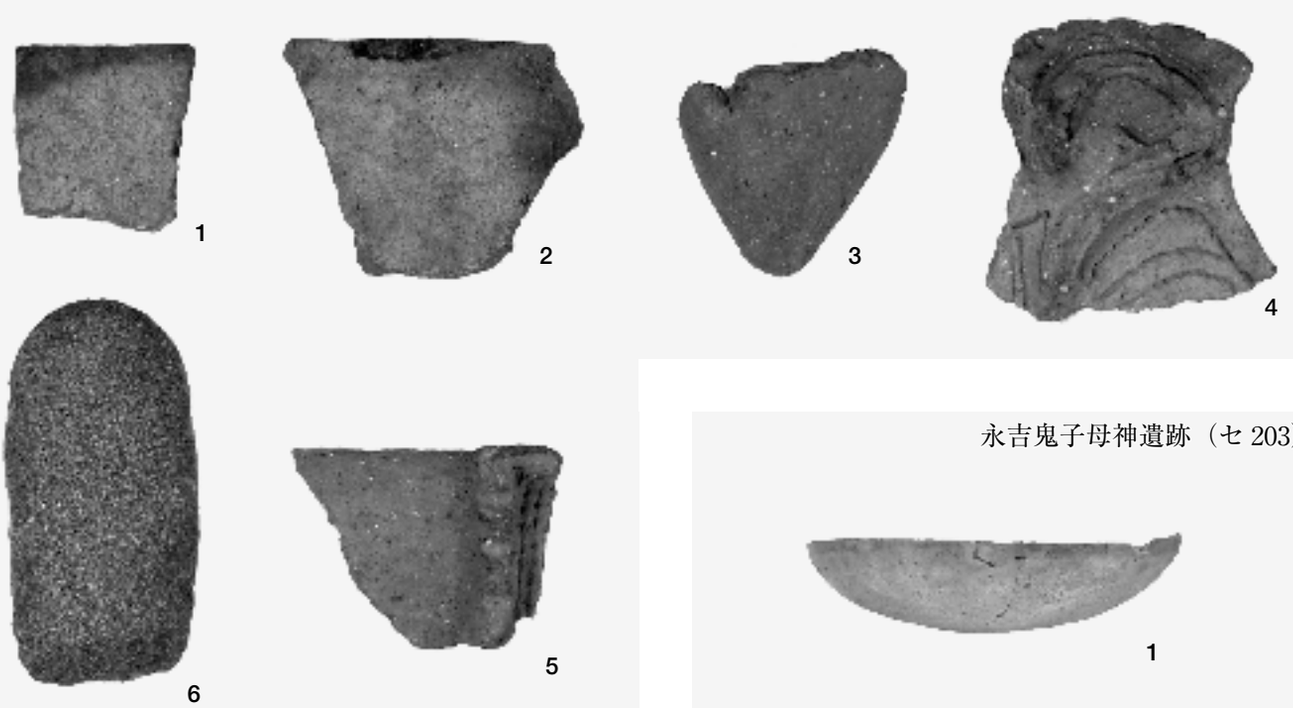
中野寺沢台遺跡（セ 206）



中野向山遺跡（セ 226）

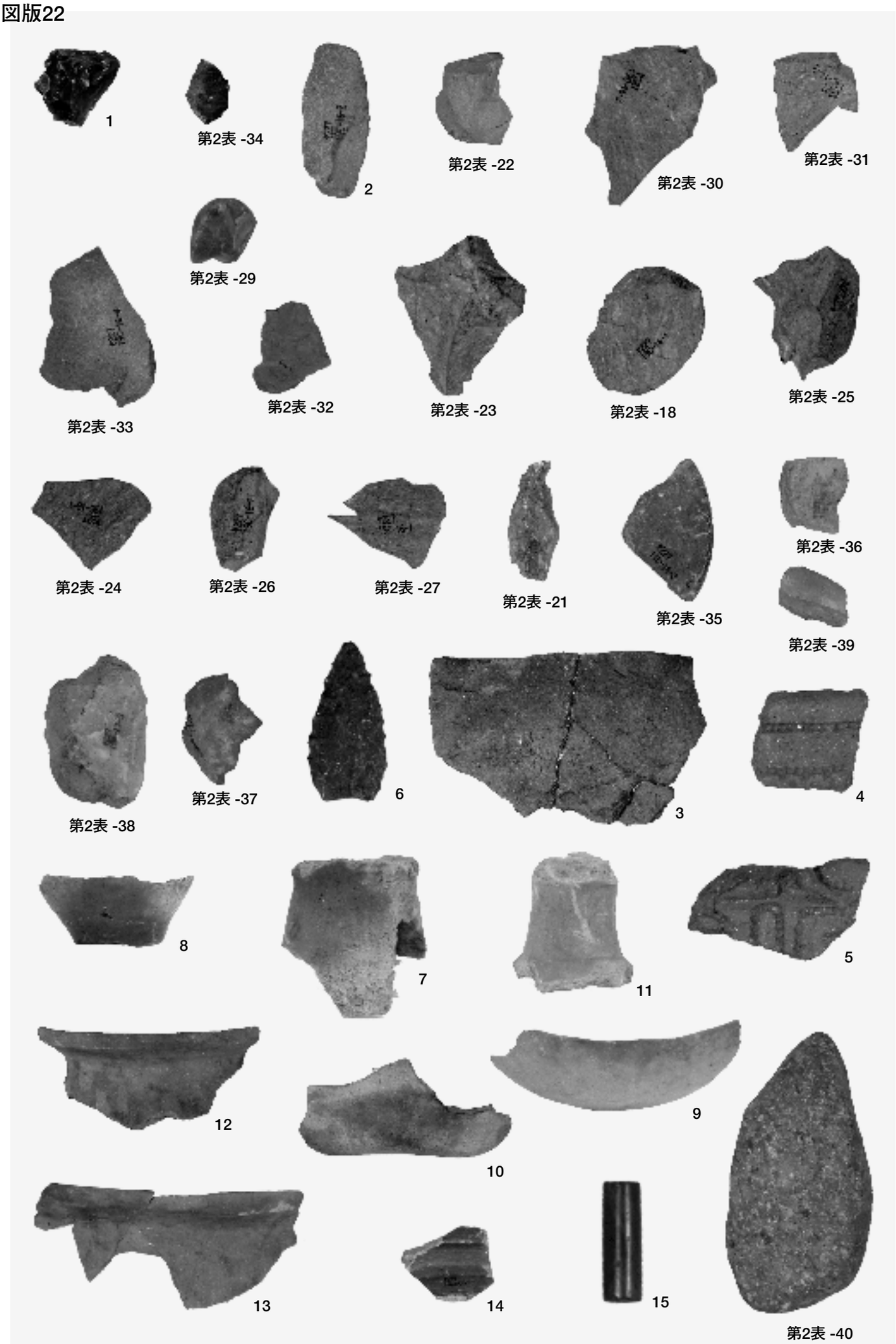


永吉金原遺跡 2 次（セ 248）

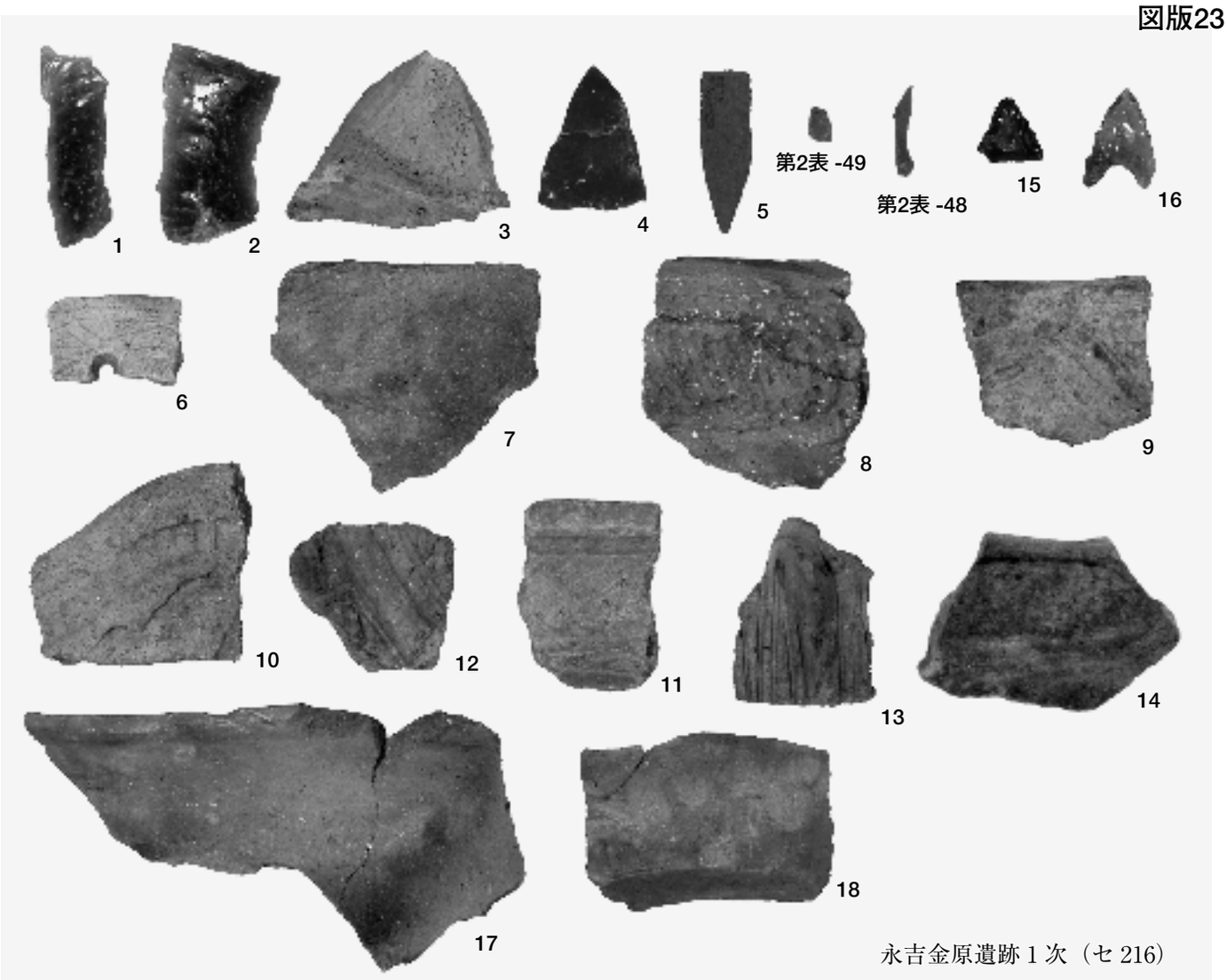


永吉鬼子母神遺跡（セ 203）

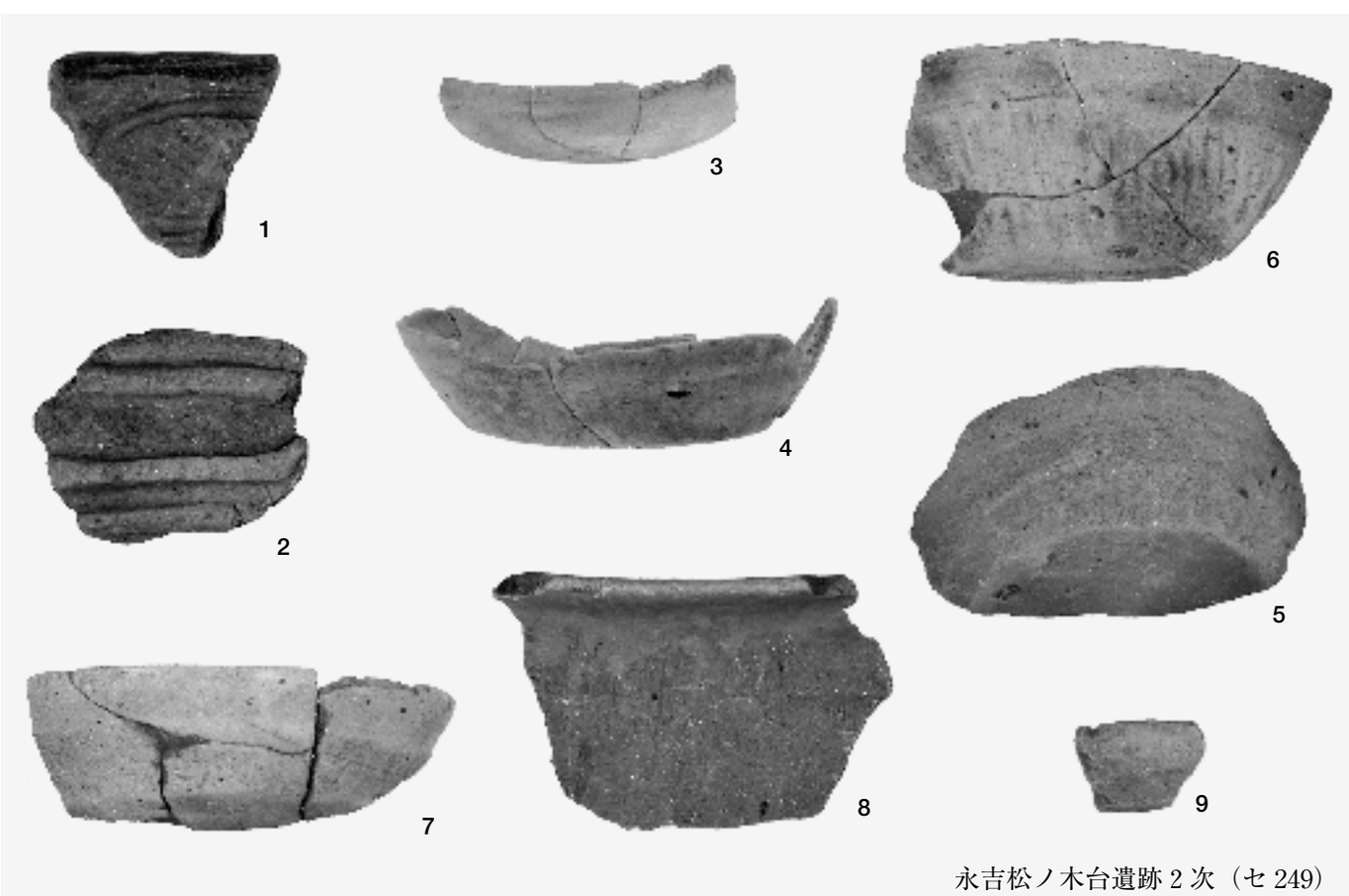
図版22



永吉花ノ台遺跡（セ 227）

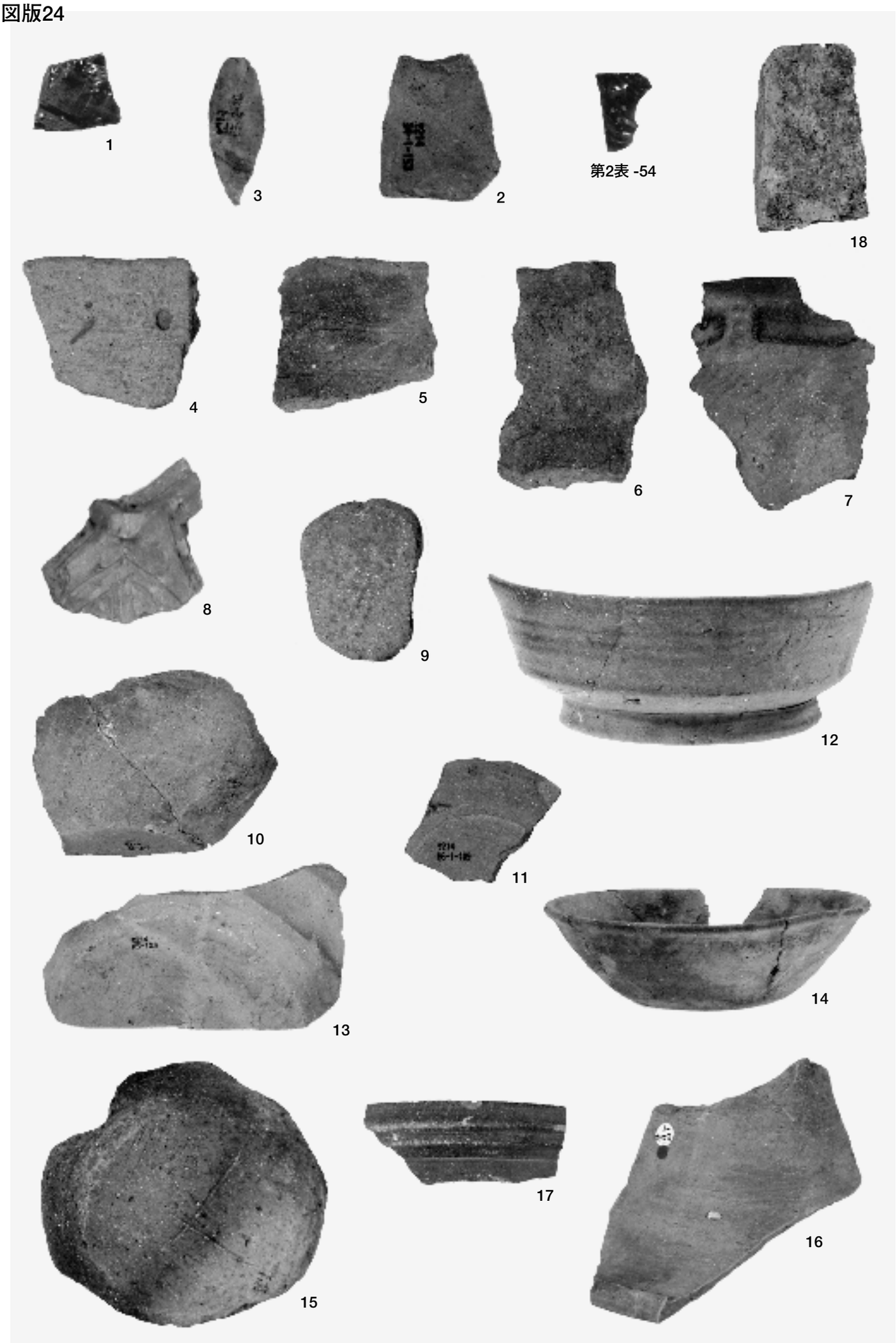


永吉金原遺跡 1 次（セ 216）



永吉松ノ木台遺跡 2 次（セ 249）

図版24



永吉松ノ木台遺跡１次（セ 214）

報告書抄録

ふりがな	いちはらششとうちくいせきぐん
書名	市原市市東地区遺跡群
副書名	
巻次	
シリーズ名	財団法人　市原市文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第96集
編著者名	近藤　敏・西野雅人
編集機関	財団法人　市原市文化財センター
所在地	〒290-0011　千葉県市原市能満1498　TEL 0436(41)9000
発行年月日	平成17年10月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
ひがしくによしだいもん 東国吉大門遺跡	ひがしくによしあざだいもん 東国吉字大門549	12219	セ190	35°30'27	140°13'19	19941017-19941209	上層600㎡・下層240㎡	区画整理（事業中止により，確認調査のみ）
ひがしくによしてらやつ 東国吉寺谷遺跡	ひがしくによしあざてらやつ 東国吉字寺谷639番1地先	12219	セ196	35°30'17	140°13'18	19950213-19950327	上層883㎡・下層83㎡	
たかくらままだかみ 高倉ママダ上遺跡	たかくらあざままだかみ 高倉字ママダ上474-1番地先他	12219	セ193	35°31'3	140°13'8	19941207-19950127	上層400㎡	
ひがしくによししもだい 東国吉下台遺跡	ひがしくによしあざしもだい 東国吉字下台206地先他	12219	セ221	35°30'39	140°12'59	19960410-19960510	上層565㎡・下層56㎡	
なかのてらさわだい 中野寺沢台遺跡	なかのあざてらさわだい 中野字寺沢台176地先他	12219	セ206	35°31'9	140°12'23	19950717-19950925	上層1947㎡・下層194㎡	
なかのこうやま 中野向山遺跡	なかのあざこうやま 中野字向山372番2他	12219	セ226	35°31'7	140°12'23	19960430-19960705	上層1535㎡・下層152㎡	
ながよしきしぼじん 永吉鬼子母神遺跡	ながよしあざたまる 永吉字田丸1300番3地先	12219	セ203	35°31'2	140°11'56	20050526-20050630	上層495.5㎡・下層49.5㎡	
ながよしはなのだい 永吉花ノ台遺跡	ながよしあざはなのだい 永吉字花ノ台1122-1地先他	12219	セ227	35°30'57	140°11'43	19960601-19960930	上層2345㎡・下層320㎡	
ながよしかんはら 永吉金原遺跡１次	ながよしあざかんはら 永吉字金原1336番地他	12219	セ216	35°31'16	140°11'53	19960201-19960322	上層862㎡・下層86㎡	
ながよしまつのきだい 永吉松ノ木台遺跡	ながよしあざまつのきだい 永吉字松ノ木台1221番1地先他	12219	セ214 セ249	35°31'8	140°11'45	19951201-19960325 19970711-19970807	1次上層2469㎡・下層246㎡, 2次上層517㎡・下層52㎡	
ながよしかんはら 永吉金原遺跡２次	ながよしあざかんはら 永吉字金原1327-1他	12219	セ248	35°31'16	140°11'53	19970612-19970702	上層390㎡・下層39㎡	
なかのかのはら 中野鹿ノ原遺跡	なかのあざかのはらだい 中野字鹿ノ原台385番他	12219	セ247	35°31'18	140°12'4	19970523-19970609	上層330㎡・下層32㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東国吉大門遺跡	包蔵地	旧石器時代，縄文時代早期・中期	縄文時代陥し穴？	旧石器，縄文土器（早期・中期）	
東国吉寺谷遺跡	集落跡	旧石器時代，縄文時代早期・中期，奈良・平安時代，中世	縄文時代住居跡？	縄文土器（早期・中期）	加曽利Ｅ式後半の集落の可能性が高い
高倉ママダ上遺跡	集落跡	縄文時代（早期～中期），古墳時代，奈良・平安時代，中世	古墳時代～平安時代住居跡？	縄文土器（早期～中期），土師器・須恵器，中世陶磁器類	古墳時代～平安時代の集落か
東国吉下台遺跡	包蔵地	旧石器時代，縄文時代前期・中期，古墳時代，中世	旧石器時代礫群，縄文時代前期集石炉。古墳時代住居跡？中世台地整形	旧石器，縄文土器（前期・中期），古墳時代土師器・須恵器，中世陶磁器類	縄文時代前期，古墳時代後期の集落か
中野寺沢台遺跡	集落跡	縄文時代中期，平安時代，中世	平安時代住居跡？，中世台地整形	平安時代は時期・須恵器，鉄滓・羽口，中世陶磁器類，銭	製鉄伴う平安期集落，中世遺構群
中野向山遺跡	包蔵地	縄文時代早期		縄文土器（早期後葉）	
永吉鬼子母神遺跡	包蔵地	古墳時代，奈良・平安時代		古墳時代～平安時代土師器・須恵器	
永吉花ノ台遺跡	包蔵地	旧石器時代，弥生時代～平安時代	弥生時代～平安時代住居跡？	弥生土器，古墳～平安時代土師器・須恵器	弥生時代から平安時代の集落の可能性あり
永吉金原遺跡１次	包蔵地	旧石器時代，縄文時代中期，奈良・平安時代	旧石器時代礫群，奈良・平安時代住居跡？	旧石器，縄文土器（中期）	
永吉松ノ木台遺跡	包蔵地	古墳時代，奈良・平安時代	古墳時代～平安時代住居跡？	古墳時代～平安時代土師器・須恵器	奈良・平安時代の集落か
永吉金原遺跡２次	包蔵地	縄文時代早期・中期，古墳時代	古墳時代円墳	縄文土器（早期・中期），古墳時代須恵器	
中野鹿ノ原遺跡	包蔵地				

財団法人　市原市文化財センター調査報告書　第96集

市原市市東地区遺跡群

平成17年10月28日　発行

編　　集　　財団法人　市原市文化財センター

発　　行　　市東第一土地区画整理組合設立準備委員会

財団法人　市原市文化財センター

市原市能満1489　TEL 0436(41)9000

印　　刷　　株式会社　弘　文　社